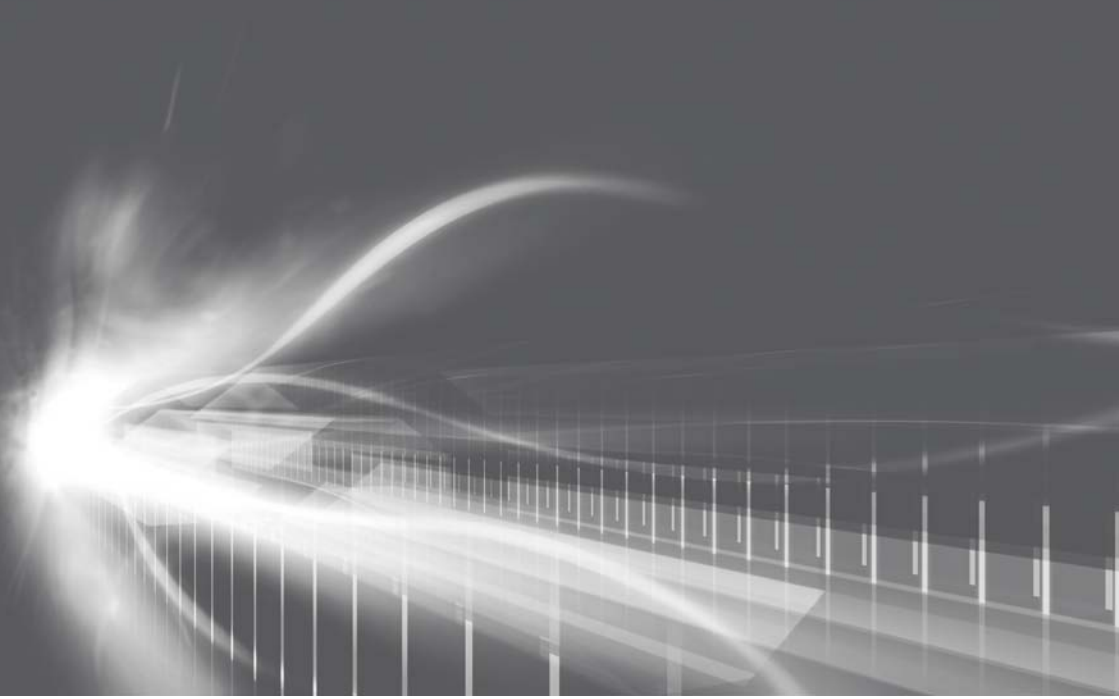


取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

REGIUS ACE

TOYOTA

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	**安全・安心のために**	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	**メーターの見方**	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	**各部の操作**	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	**運転**	運転に必要な操作やアドバイス
5	**オーディオ**	オーディオの使い方など
6	**室内装備・機能**	室内装備の使い方など
7	**お手入れのしかた**	車のお手入れ・メンテナンスの方法
8	**万一の場合には**	故障したときや、緊急時などの対処
9	**車両情報**	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 10
検索のしかた 11
イラスト目次 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 22
安全なドライブのために 24
シートベルト 26
SRS エアバッグ 31
お子さまの安全のために 37
子供専用シート 38
チャイルドシートの取り付け 44
排気ガスに対する注意 48

1-2. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 49

2 メーターの見方

2. 計器の見方
警告灯／表示灯 52
計器類 55
マルチインフォメーションディスプレイ（アナログメーター装着車） 61
マルチインフォメーションディスプレイ（オプティトロンメーター装着車） 65

3 各部の操作

3-1. キー
キー 72

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
フロントドア 76
スライドドア 82
バックドア 95
スマートエントリー&スタートシステム 103

3-3. シートの調整
フロントシート 109
リヤシート 112
ヘッドレスト 114
シートアレンジ 116
セパレーターバー 125

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 134
インナーミラー 136
アウターミラー 138
補助ミラー 141

3-5. ドアガラス・スライド式リヤサイドガラスの開閉
パワーウインドウ 142
スライド式リヤサイドガラス 145

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 148
荷物を積むときの注意 161

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車） 163
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車） 167
オートマチックトランスミッション 173
マニュアルトランスミッション 180
方向指示レバー 182
パーキングブレーキ 183

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 184
フォグランプスイッチ 187
ワイパー & ウォッシャー（フロント） 190
ワイパー&ウォッシャー（リヤ） 193

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 195

4-5. 運転支援装置について

バックモニター 199
運転を補助する装置 210
排出ガス浄化装置（ディーゼル車） 212

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 217

5 オーディオ

5-1. オーディオの基本操作

オーディオの種類 222
ステアリングスイッチの使い方 224
AUX 端子／ USB 端子について 226

5-2. オーディオの使い方

快適に聞くために 228

5-3. ラジオの使い方

ラジオの使い方 231
アンテナ 235

5-4. CD、MP3 ／ WMA の聞き方

CD プレーヤーの使い方 236

5-5. 外部入力接続機器の使い方

iPod の聞き方 244
USB メモリーの聞き方 250
AUX 端子（外部入力接続）の使い方 256

6 室内装備・機能

6-1. エアコン・デフォッガーの使い方

マニュアルエアコン 258
オートエアコン 263
リヤクーラー 269
リヤヒーター 271
パワーヒーター 272

6-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 274
・フロントルームランプ 275
・フロントルームランプ／パーソナルランプ 275
・リヤルームランプ（標準タイプ） 275
・リヤルームランプ（大型タイプ） 276

6-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧 277
・グローブボックス 279
・センターコンソールボックス 279
・シートバックコンソール 281
・カップホルダー／ボトルホルダー 282
・カードホルダー 283
・オープントレイ 284
荷室内装備 286

6-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 288
・サンバイザー 288
・バニティミラー 288
・灰皿 289
・アクセサリーソケット／アクセサリーコンセント 290

7 お手入れのしかた

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 294
内装の手入れ 297

7-2. 簡単な点検・部品交換

エンジン点検口 300
ボンネット 304
ガレージジャッキ 307
ウォッシャー液の補充 309
タイヤについて 310
タイヤ空気圧について 313
エアコンフィルターの清掃 315
キーの電池交換 318
ヒューズの点検・交換 321
電球（バルブ）の交換 324

8 万一の場合には

8-1. まず初めに

故障したときは.....340
非常点滅灯（ハザードランプ）.....341
発炎筒.....342
車両を緊急停止するには.....344

8-2. 緊急時の対処法

けん引について.....346
フューエルポンプシャットオフシステム（ガソリン車）.....354
警告灯がついたときは.....355
警告メッセージが表示されたときは.....359
パンクしたときは.....367
エンジンがかからないときは.....386
電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）.....388
バッテリーがあがったときは.....390
オーバーヒートしたときは....395
スタックしたときは.....398

9 車両情報

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 400

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧..... 412

9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 414

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）..... 416
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 420
アルファベット順さくいん..... 422
五十音順さくいん..... 424

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

本書内の「デラックス（２人乗り）」は、キャンパー仕様車などの改造車ベース車両のことです。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
    RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数
・アクセルの操作状況
・ブレーキの操作状況
・車速
・シフトポジション（マニュアルトランスミッション車を除く）

グレード･オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。

トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方

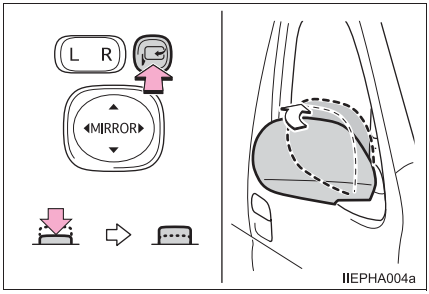
警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

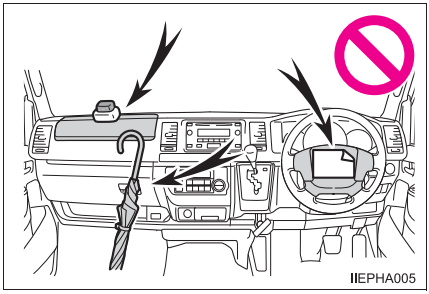
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味です。

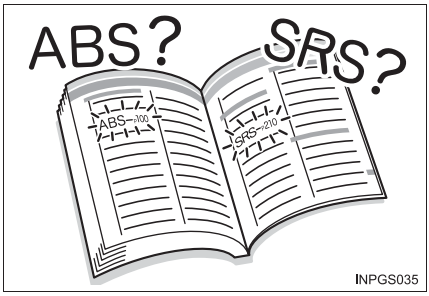


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

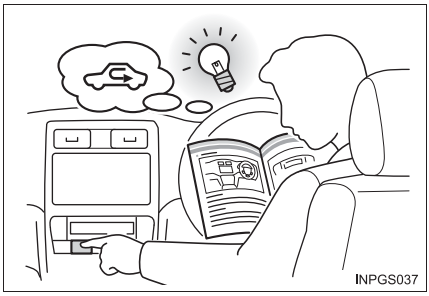
■ 名称から探す

・五十音順さくいん.....424
・アルファベット順
さくいん.....422



■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....12

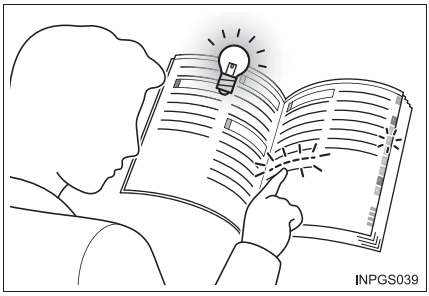


■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）.....416
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....420

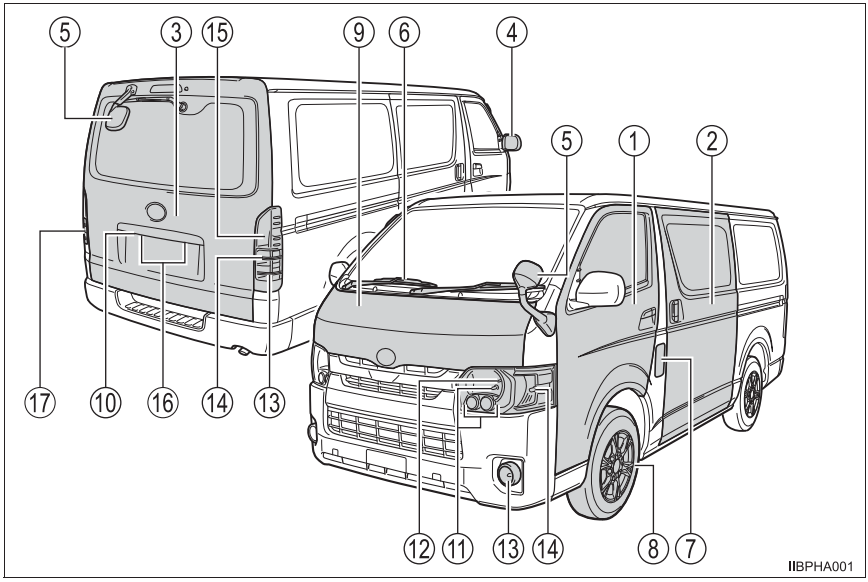
■ タイトルから探す

・目次 2



イラスト目次

■外観



① **フロントドア** . . . . . **P. 76**
施錠／解錠 . . . . . P. 76
ドアガラスの開閉 . . . . . P. 142
メカニカルキー★での施錠／解錠 . . . . . P. 388
警告灯 . . . . . P. 356
② **スライドドア** . . . . . **P. 82**
施錠／解錠 . . . . . P. 82
車外から開ける . . . . . P. 83
スライド式リヤサイドガラス★の開閉 . . . . . P. 145
警告灯 . . . . . P. 356
③ **バックドア** . . . . . **P. 95**
車外から開ける . . . . . P. 96
警告灯 . . . . . P. 356

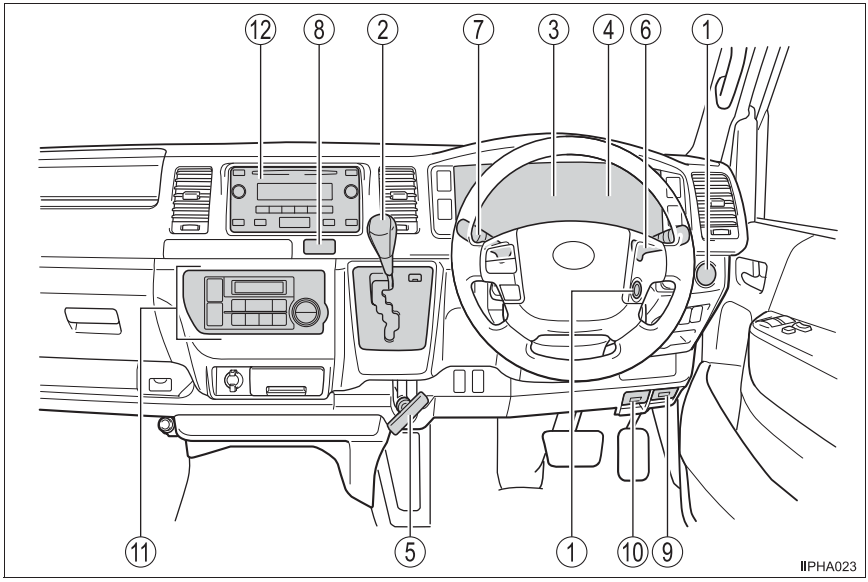
④ **アウターミラー**.....**P. 138**
鏡面の角度調整.....P. 138
ミラーの格納.....P. 139
曇りを取る（ミラーヒーター）★.....P. 259, 265
⑤ **補助ミラー**.....**P. 141**
⑥ **ワイパー**.....**P. 190**
冬季の注意.....P. 217
⑦ **給油口**.....**P. 195**
給油方法.....P. 195
燃料の種類・燃料タンク容量.....P. 400
⑧ **タイヤ**.....**P. 310**
サイズ・空気圧.....P. 409
冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 217
点検・ローテーション.....P. 310
パンク時の対処.....P. 367
⑨ **ボンネット**.....**P. 304**
開け方.....P. 304
オーバーヒート時の対処.....P. 395
⑩ **カメラ★**.....**P. 199**

走行に関わる外装のランプバルブ（交換要領：P. 324, ワット数：P. 410）

⑪ **ヘッドランプ**.....**P. 184**
⑫ **車幅灯**.....**P. 184**
⑬ **フロントフォグランプ（メーカーオプション）★・リヤフォグランプ★**.....**P. 187**
⑭ **方向指示灯**.....**P. 182**
⑮ **制動灯／尾灯**.....**P. 184**
⑯ **番号灯**.....**P. 184**
⑰ **後退灯**
シフトポジションをRにする.....P. 173, 180

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■インストルメントパネル



① **エンジンスイッチ . . . . . P. 163, 167**

エンジンの始動・
位置またはモードの切りかえ. . . . . P. 163, 164, 167, 168

エンジンの緊急停止 . . . . . P. 344

エンジンが始動できないときの対処. . . . . P. 386

警告メッセージ★ . . . . . P. 362

② **シフトレバー（オートマチック車）. . . . . P. 173**

シフトポジションの切りかえ. . . . . P. 173

けん引時の注意. . . . . P. 346

シフトレバーが動かないときの対処. . . . . P. 177

シフトレバー（マニュアル車）. . . . . P. 180

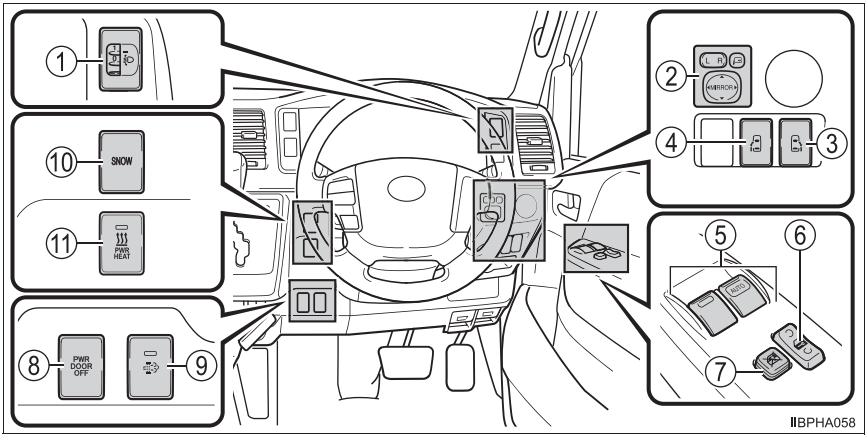
シフトポジションの切りかえ. . . . . P. 180

けん引時の注意. . . . . P. 346

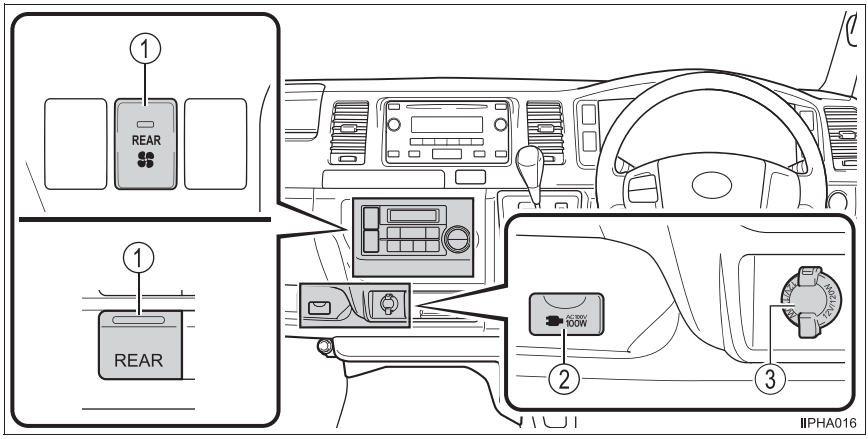
③ **メーター**.....**P. 55**
見方・明るさの調整 .....P. 55, 62, 66
警告灯／表示灯.....P. 52
警告灯点灯時の対処 .....P. 53, 355
④ **マルチインフォメーションディスプレイ** ..... **P. 61, 65**
警告メッセージ★表示時の対処 .....P. 359
⑤ **パーキングブレーキ** .....**P. 183**
かける・解除する .....P. 183
冬季の注意 .....P. 218
警告ブザー .....P. 355
警告メッセージ★ .....P. 359
⑥ **方向指示レバー**.....**P. 182**
ランプスイッチ.....**P. 184**
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯.....P. 184
フロントフォグランプ（メーカーオプション）★・
リヤフォグランプ★.....P. 187
⑦ **ワイパー&ウォッシャースイッチ** .....**P. 190**
使い方.....P. 190
ウォッシャー液の補充.....P. 309
⑧ **非常点滅灯スイッチ** .....**P. 341**
⑨ **給油扉オープナー** .....**P. 195**
⑩ **ボンネット解除レバー**.....**P. 304**
⑪ **マニュアルエアコン★** .....**P. 258**
操作方法.....P. 258
リヤウィンドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）...P. 259
オートエアコン★ .....**P. 263**
操作方法.....P. 263
リヤウィンドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）...P. 265
⑫ **オーディオ★**.....**P. 222**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

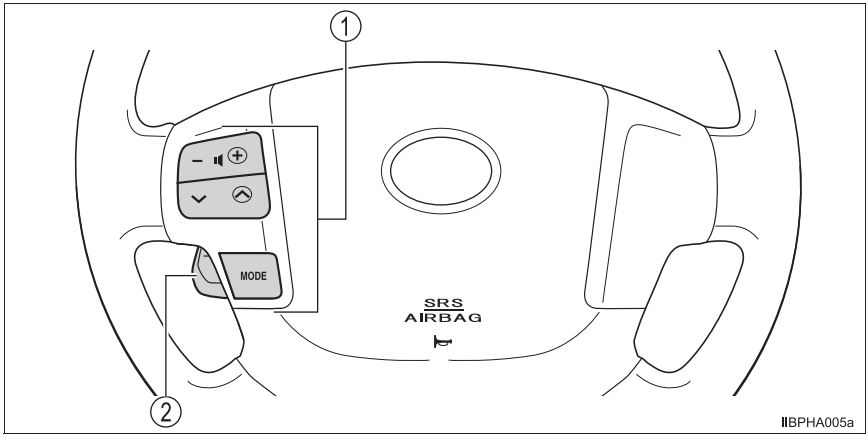
■スイッチ類



① 手動光軸調整ダイヤル★ . . . . . P. 185
② アウターミラースイッチ★. . . . . P. 138
③ 運転席側パワースライドドアスイッチ★. . . . . P. 85
④ 助手席側パワースライドドアスイッチ★. . . . . P. 85
⑤ パワーウインドウスイッチ . . . . . P. 142
⑥ ドアロックスイッチ . . . . . P. 78
⑦ ウインドウロックスイッチ . . . . . P. 142
⑧ パワースライドドアメインスイッチ★ . . . . . P. 87
⑨ 排出ガス浄化スイッチ★ . . . . . P. 212
⑩ スノーモードスイッチ★ . . . . . P. 176
⑪ パワーヒータースイッチ★. . . . . P. 272



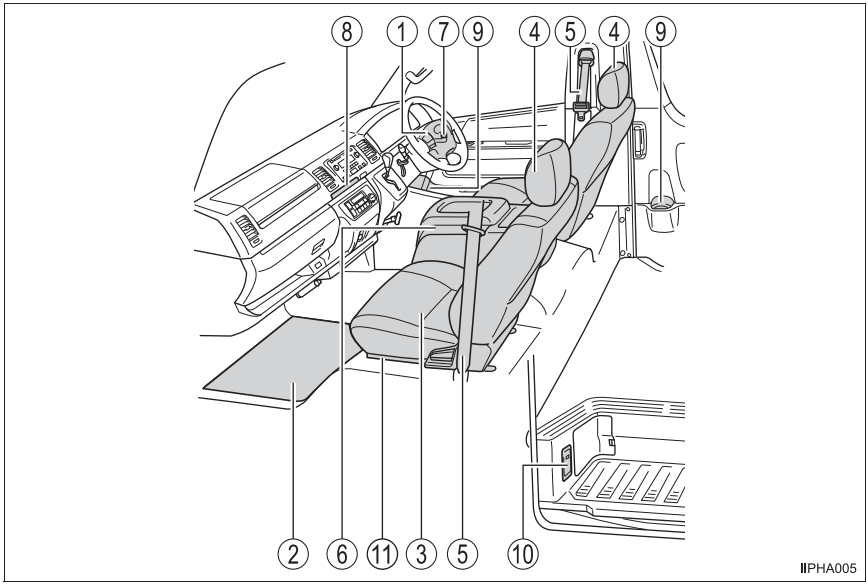
① リヤクーラーメインスイッチ★ . . . . . .P. 269
リヤヒーターメインスイッチ★ . . . . . .P. 271
② アクセサリーコンセント★. . . . . .P. 290
③ アクセサリーソケット. . . . . .P. 290



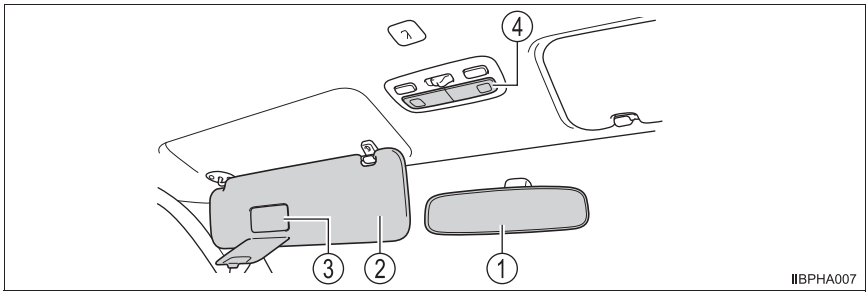
① オーディオ操作スイッチ★. . . . . .P. 224
② ハンドル位置調整レバー . . . . . .P. 134

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■室内



① SRS エアバッグ . . . . . P. 31
② フロアマット . . . . . P. 22
③ フロントシート . . . . . P. 109
リヤシート★ . . . . . P. 112
④ ヘッドレスト★ . . . . . P. 114
⑤ シートベルト . . . . . P. 26
⑥ センターコンソールボックス★ . . . . . P. 279
⑦ ロックレバー . . . . . P. 78
⑧ カップホルダー . . . . . P. 282
⑨ ボトルホルダー . . . . . P. 282
⑩ スライドドアステップランプ★ . . . . . P. 84
⑪ エンジン点検口 . . . . . P. 300
エンジンオイル . . . . . P. 401



① インナーミラー.....P. 136
② サンバイザー .....P. 288
③ バニティミラー★ .....P. 288
④ フロントルームランプ★／リヤルームランプ★※ .....P. 274
パーソナルランプ★.....P. 274

※ 図はフロントですが、リヤにも装着されています。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....22
安全なドライブのために 24
シートベルト.....26
SRS エアバッグ.....31
お子さまの安全のために 37
子供専用シート.....38
チャイルドシートの
取り付け.....44
排気ガスに対する注意 48
1-2. 盗難防止装置
エンジンイモビライザー
システム.....49

運転する前に

点検整備

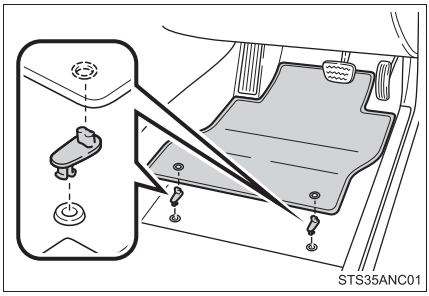
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

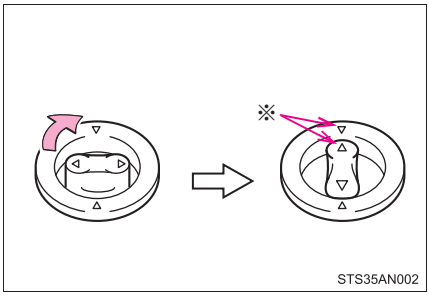
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

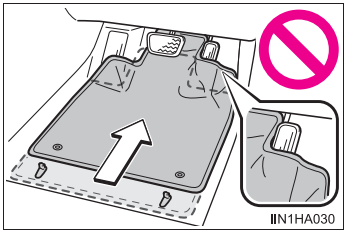
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

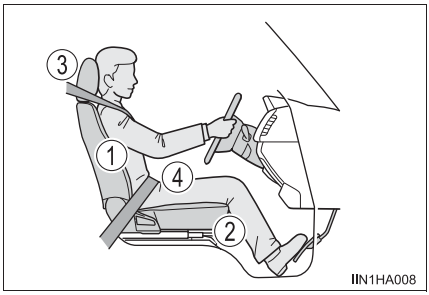
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが　P（オートマチック車）または N（マニュアル車）の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する



安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P. 109）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P. 109）

③ 調整式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P. 114）

④ シートベルトを正しく着用する（→P. 26）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→P. 38）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・アウターミラーを正しく調整してください。（→P. 136, 138）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシート※の下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。

  ※ 前後位置が固定式のシートを除く
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

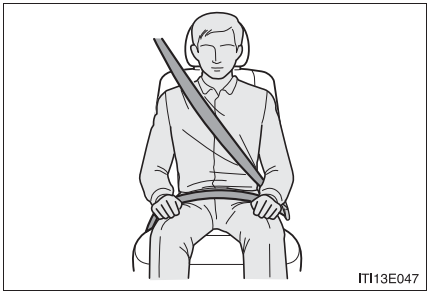
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

◆ 3 点式シートベルト

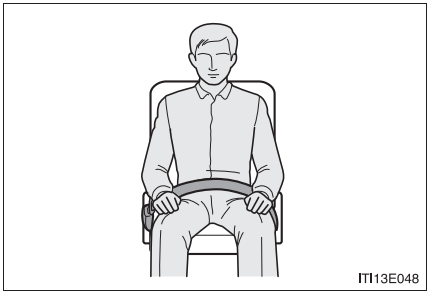
- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



◆ 2 点式シートベルト

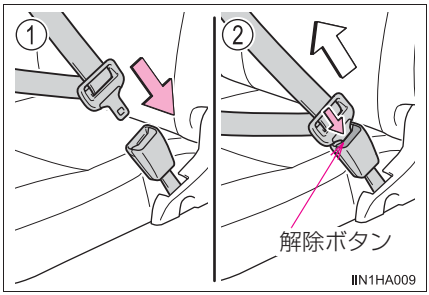
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させ、ベルトの長さを調整する
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

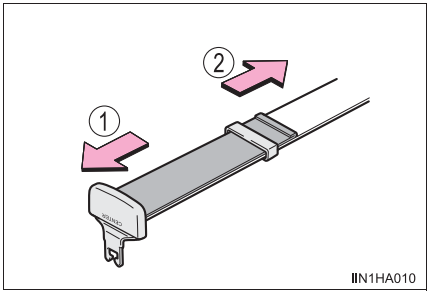


シートベルトの長さ調節（2 点式シートベルト）

① 伸ばす

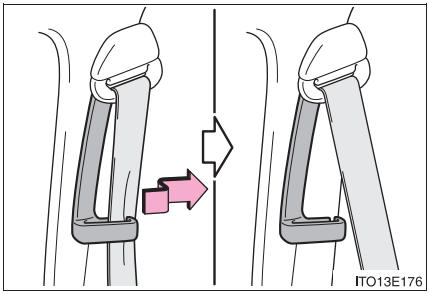
② 縮める

着用時は、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着するようにベルトの長さを調節してください。



リヤ外側席シートベルトサービスアーム（スーパー GL 標準ボデー車）

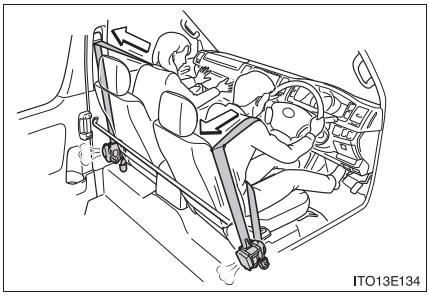
肩部にシートベルトがかからないときは、ベルトをサービスアームからはずして使用してください。



シートベルトプリテンショナー（SRS エアバッグ装着席のシートベルト）

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトロックの解除方法（3 点式シートベルト）

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを巻きもどし、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。（→ P. 38）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

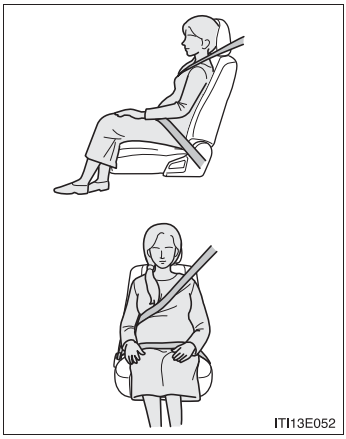
- ●全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●フロントシートの2点式シートベルトは、背もたれとシートクッションのあいだに通して着用する
- ●シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる（リヤシート装着車）
- ●背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- ●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- ●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 26）

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

⚠ 警告

■お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのようになってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■プリテンショナー付シートベルトについて

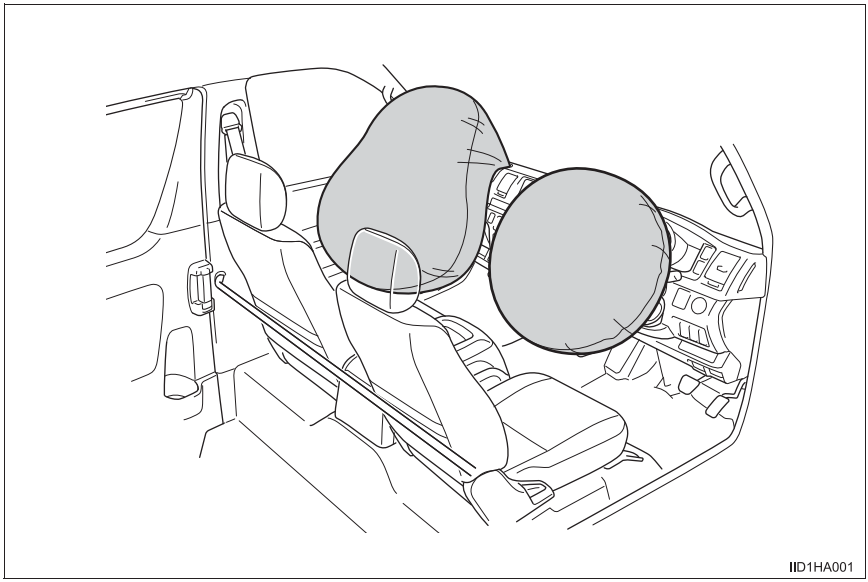
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ★
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

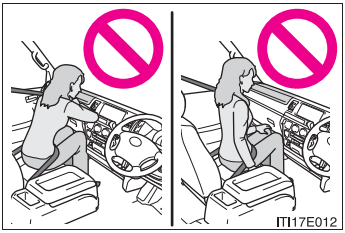
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

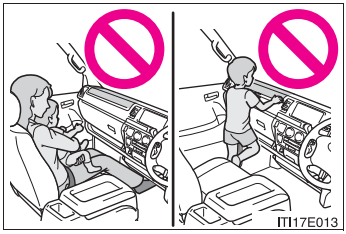


⚠ 警告

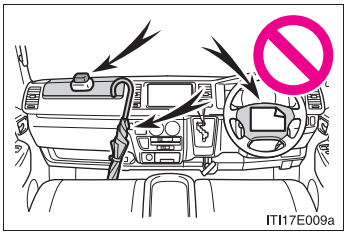
■SRS エアバッグについて

●お子さまを助手席SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。
皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

⚠ 警告

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパーなどの修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- エアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）が数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

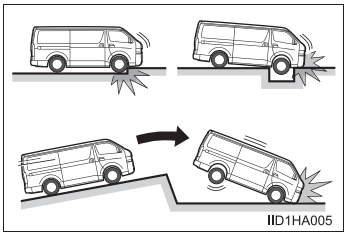
■SRS エアバッグが作動するとき

- SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
  - ・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
  - ・もぐり込むような衝撃の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、SRS エアバッグが作動する場合があります。

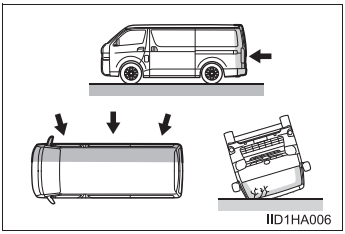
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■SRS エアバッグが作動しないとき

SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転、または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、SRS エアバッグが作動することがあります。

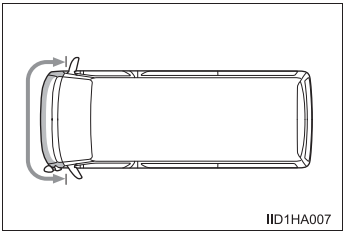
- ●側面からの衝突
- ●後方からの衝突
- ●横転



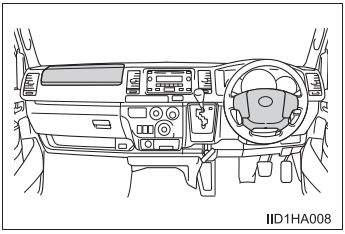
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- ●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- ●SRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 38)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。(リヤシート装着車)
- 走行中にスライドドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター★(→ P. 87)・ウインドウロックスイッチ(→ P. 142)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。(→ P. 44)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

子供専用シート

子供専用シートを固定する場合は、次の内容を確認してください。

知っておいていただきたいこと

- お子さまの年齢や体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

グループ 0　：10kg まで
グループ 0+：13kg まで
グループⅠ　：9 ～ 18kg
グループⅡ　：15 ～ 25kg
グループⅢ　：22 ～ 36kg

この本では代表的な次の 2 種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

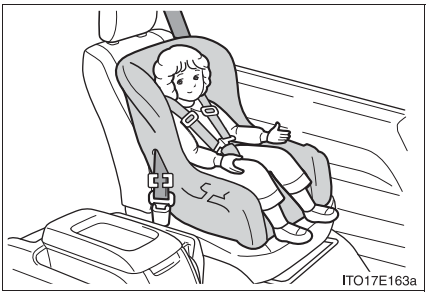
※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

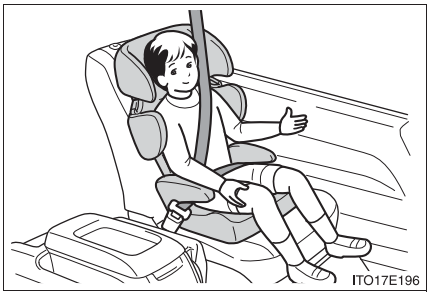
子供専用シートの種類

▶ チャイルドシート



ECE R44 基準のグループ 0+、Ⅰに相当

▶ ジュニアシート



ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

▶ フロントシート

質量グループ	助手席	中央席	推奨 チャイルドシート
0 （10kg まで）	×	×	–
0+ （13kg まで）	×	×	–
Ⅰ （9 ～ 18kg）	うしろ向き ×	うしろ向き ×	–
	前向き UF ※1	前向き ×	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅱ，Ⅲ （15 ～ 36kg）	UF ※1	×	“トヨタ純正 ジュニアシート”

▶ セカンドシート（リヤシート装着車）

質量グループ	外席	中央席	推奨 チャイルドシート
0 （10kg まで）	×	×	–
0+ （13kg まで）	×	×	–
Ⅰ （9 ～ 18kg）	×	×	–
Ⅱ，Ⅲ （15 ～ 36kg）	×	×	–

▶ サードシート（リヤシート装着車）

質量グループ	外席	中央席	推奨 チャイルドシート
0 （10kg まで）	×	×	–
0+ （13kg まで）	×	×	–
Ⅰ （9 ～ 18kg）	×	×	–
Ⅱ , Ⅲ （15 ～ 36kg）	×	×	–

表に記入する記号の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きのチャイルドシートに適しています。

×： チャイルドシートを取り付けることはできません。

※1 背もたれを直立状態にしてください。フロントシートをいちばんうしろまで下げてください。
シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。
ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

● チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。
その場合は、ほかの席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

知識

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分に大きく、子供専用シートが不要なお子さまは、リヤシート★に乗せて車のシートベルトを使用してください。

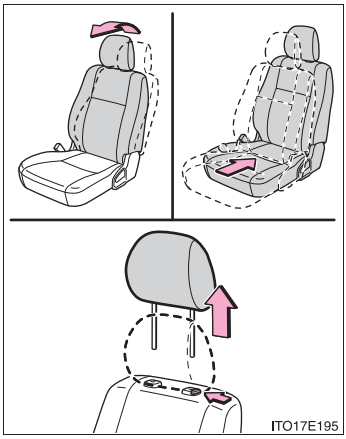
■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→ P. 40）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

子供専用シートを取り付ける場合、調整が可能なシートは助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずす



■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。
詳しくは子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

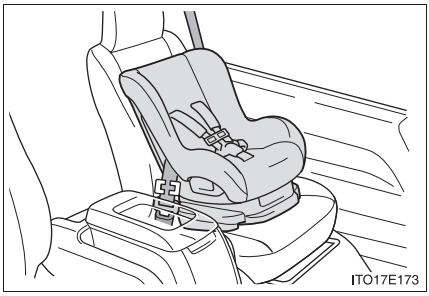
■子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。チャイルドシートは助手席に取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品に付属の取り扱い説明書に従ってください。

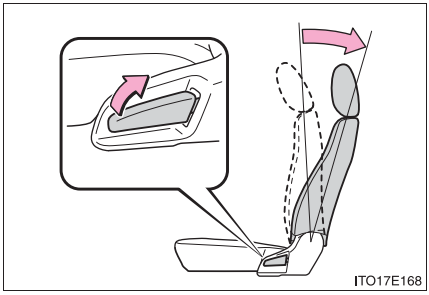
シートベルトによる取り付け



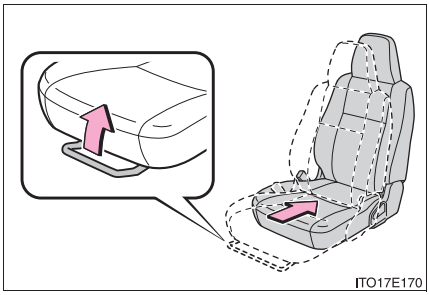
シートベルトで固定する

1 背もたれの角度を調整する

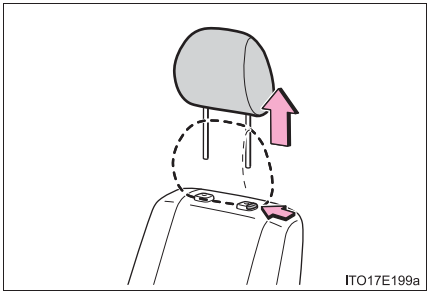
レバーを引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。(→ P. 109)



2 前後位置の調整が可能なシートは、位置をいちばんうしろにする

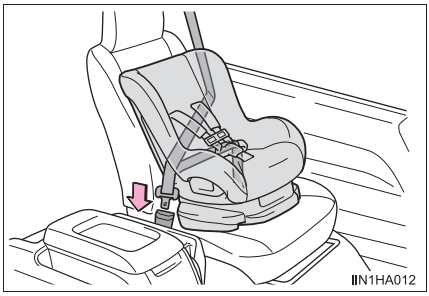


3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずす



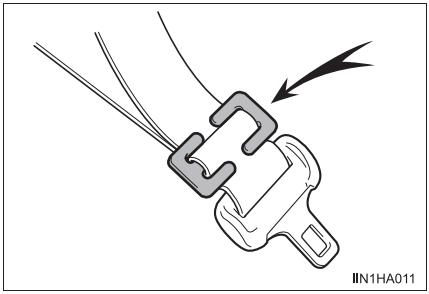
4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



5 チャイルドシートにシートベルトの固定機構が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

⚠ 警告

■チャイルドシートについて

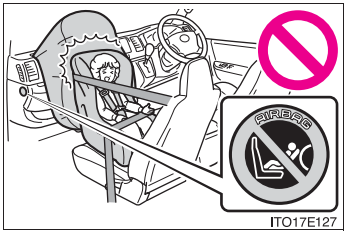
- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるとき

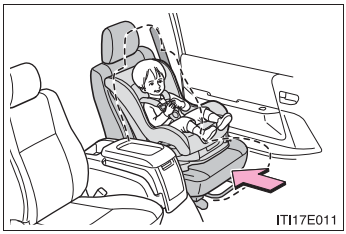
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一、ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき



●助手席には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
（助手席 SRS エアバッグ装着車）



●助手席の前後位置調整が可能な車両の場合、チャイルドシートを取り付けるときは、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
（助手席 SRS エアバッグ装着車）

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。
チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。
その場合は、ほかの席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラス・スライド式リヤサイドガラス★を開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
（ディーゼル車は、P. 216 の注意も併せて参照してください）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジンイモビライザーシステム★

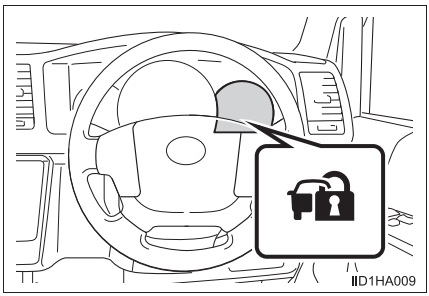
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

キーをエンジンスイッチから抜くと、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたマスターキー、またはサブキーをエンジンスイッチに挿し込むとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

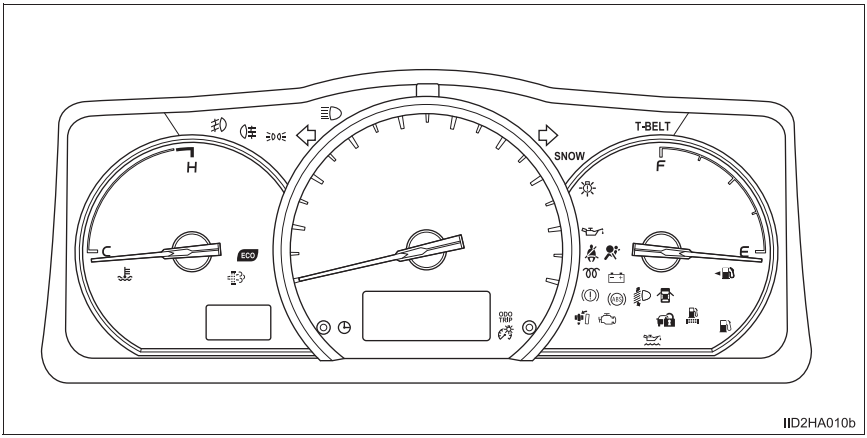
メーターの見方 2

2. 計器の見方
警告灯／表示灯.....52
計器類.....55
マルチインフォメーション
ディスプレイ
（アナログメーター
装着車）.....61
マルチインフォメーション
ディスプレイ
（オプティトロンメーター
装着車）.....65

警告灯／表示灯

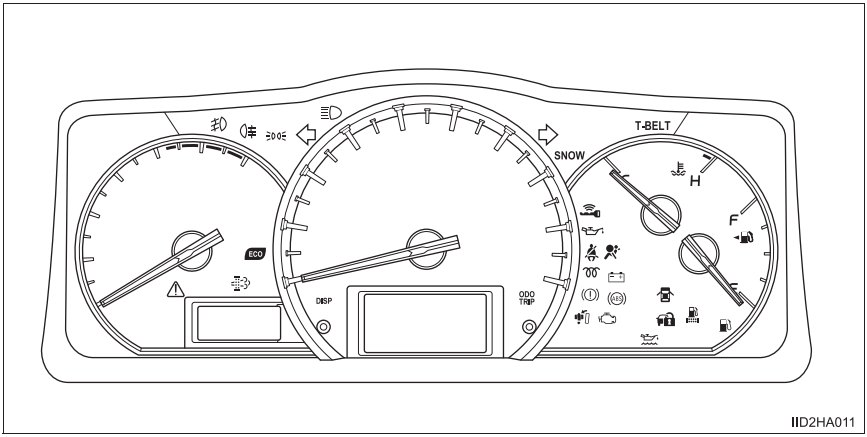
メーターの警告灯・表示灯でお車の状況をお知らせします。

▶ アナログメーター



IID2HA010b

▶ オプティトロンメーター



IID2HA011

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。（→ P. 355）

マスターウォーニング★
（→ P. 356）

ブレーキ警告灯
（→ P. 355）

（黄色）
スマートエントリー & スタートシステム警告灯★
（→ P. 357, 362）

※

充電警告灯（→ P. 355）

※

油圧警告灯（→ P. 357）

※

エンジン警告灯
（→ P. 355）

※

SRS エアバッグ／
プリテンショナー警告灯
（→ P. 355）

※

ABS 警告灯（→ P. 355）

※

タイミングベルト
交換警告灯★（→ P. 356）

※

ヘッドランプ
オートレベリング
警告灯★（→ P. 356）

※

LED ヘッドランプ警告灯★
（→ P. 356）

※

フューエルフィルター／
燃料・水分離器水位警告灯★
（→ P. 357）

※

排出ガス浄化装置警告灯★
（→ P. 357）

※

油量警告灯（→ P. 356）

半ドア警告灯（→ P. 356）

燃料残量警告灯
（→ P. 356）

運転席／助手席★シートベルト非着用警告灯
（→ P. 356）

※

ブレーキオーバーライドシステム警告灯（→ P. 356）

※ 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、またはイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→ P. 182）

リヤフォグランプ表示灯★（→ P. 187）

尾灯表示灯（→ P. 184）

※
エコドライブインジケーターランプ★（→ P. 151）

ハイビーム表示灯（→ P. 184）

予熱表示灯★（→ P. 163）

フロントフォグランプ表示灯★（→ P. 187）

SNOW 表示灯★（→ P. 176）

（緑色）
スマートエントリー＆スタートシステム表示灯★（→ P. 167）

イモビライザーシステム表示灯★（→ P. 49）

※ 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、またはイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

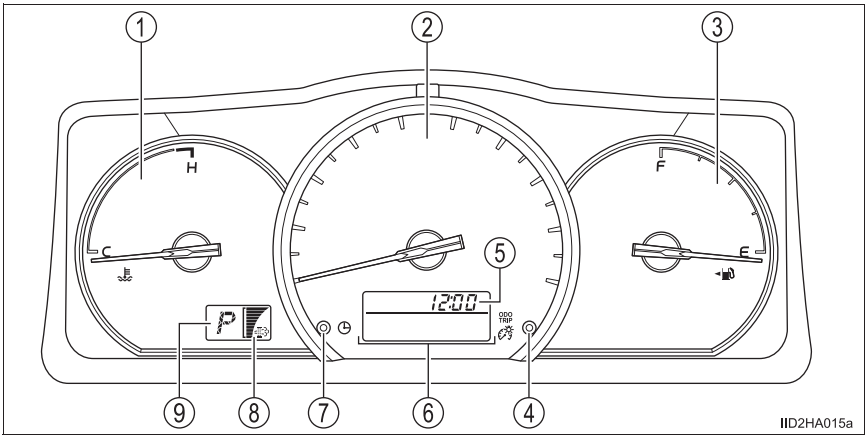
■ 安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、またはイグニッションONモード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

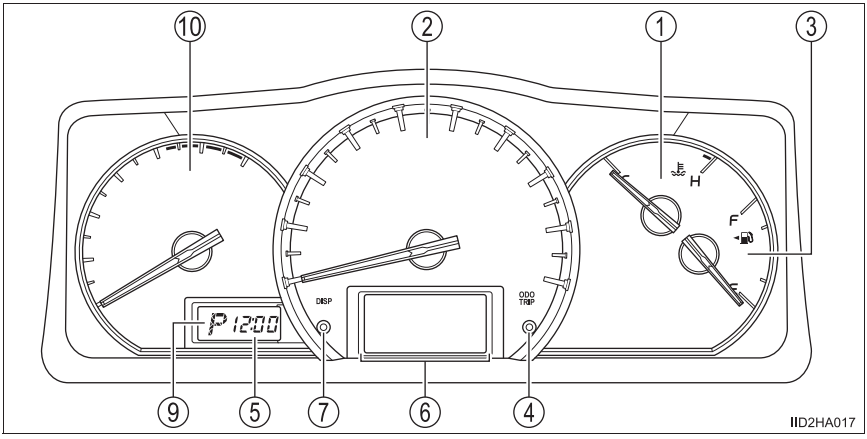
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

計器類

▶ アナログメーター



▶ オプティトロンメーター



① 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

② スピードメーター

車両の走行速度を示します。

③ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5 L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

④ オドメーター／トリップメーターボタン

→ P. 57, 61

⑤ 時計

時刻を表示します。

⑥ マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。（→ P. 61, 65）

⑦ 時計調整ボタン（アナログメーター）／ DISP ボタン（オプティトロンメーター）

・ 時刻を調整します。（→ P. 58）
・ 情報表示を切りかえます。（→ P. 66）

⑧ 排出ガス浄化装置堆積モニター（アナログメーター装着ディーゼル車）

→ P. 213

⑨ シフトポジション表示（オートマチック車）

選択されているシフトポジションを表示します。

⑩ タコメーター（オプティトロンメーター）

毎分のエンジン回転数を示します。

表示の切りかえ

▶ アナログメーター

→ P. 61

▶ オプティトロンメーター

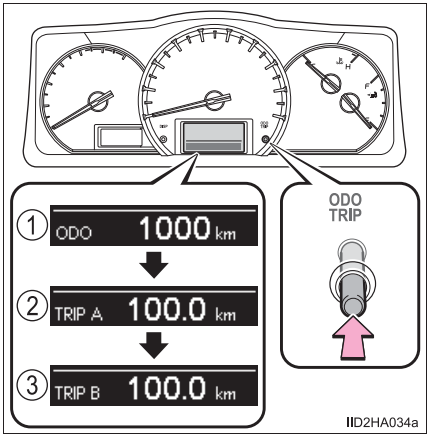
ボタンを押すごとに次のように切りかえます。

① オドメーター

② トリップメーター A ※

③ トリップメーター B ※

※ 押し続けると 0 にもどります。

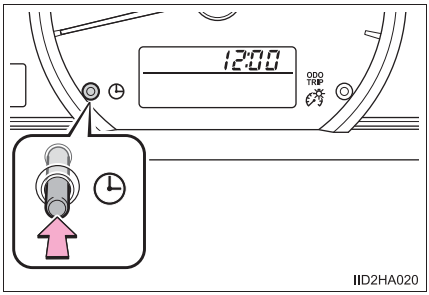


時計の設定

▶ アナログメーター

1 時計調整ボタンを短く押して、時刻表示を点滅させる

表示が点滅しているあいだ、時間を設定できます。

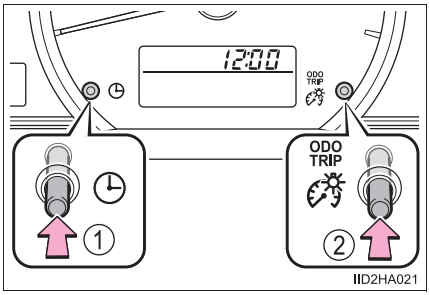


2 時計調整ボタン、またはオドメーター／トリップメーターボタンを押して時間を設定する

① 時間を進める

② 時間をもどす

ボタンを押し続けると、早送り／早もどしされます。



3 時間の設定後、約 5 秒以上そのままにして設定を確定する

点滅状態が解除され、現在時刻の表示になります。

▶ オプティトロンメーター

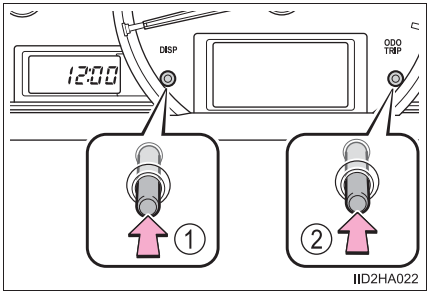
1 設定画面で「時計」を選択する（→ P. 67）

2 「時刻変更」を選択する

3 DISP　ボタン、またはオドメーター／トリップメーターボタンを押して時間を設定する

① 時間を進める

② 時間をもどす



4 時間の設定後、約 5 秒以上そのままにして設定を確定する

点滅状態が解除され、現在時刻の表示になります。

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ ON ”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる

2 オドメーター/ トリップメーターボタンを押してメーターの表示をオドメーター表示に切りかえる

3 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジンスイッチを“ LOCK ”にする

スマートエントリー&スタートシステム装着車：
エンジンスイッチを OFF にする

4 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
オドメーター / トリップメーターボタンを押したまま、エンジンスイッチを“ ON ”にする

スマートエントリー&スタートシステム装着車：
オドメーター / トリップメーターボタンを押したまま、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

5 そのまま約 5 秒間 オドメーター / トリップメーターボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす
オドメーターが約 5 秒間点滅したあと、通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■時計の作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

●エンジンスイッチが“ ON ”のとき

●エンジンスイッチを“ ACC ”または“ LOCK ”にしても、約 30 秒間は表示が消えません。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

●エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

●エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはOFFにしても、約30秒間は表示が消えません。

■時計の正時合わせについて

▶アナログメーター

時間調整ボタンを押し続けると、正時に合わせることができます。

●0～29分は切り下げられます。

●30～59分は切り上げられます。

▶オプティトロンメーター

1 設定画面で「時計」を選択する

2「正時合わせ」を選択する

（例）1:00～1:29の場合は1:00に、1:30～1:59の場合は2:00になります。

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

⚠注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。（オプティトロンメーター装着車）

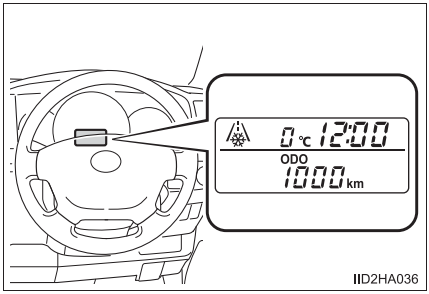
●マニュアル車は、各シフト位置での速度限界（→P. 181）をこえないように走行してください。

●水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P. 395）

マルチインフォメーションディスプレイ（アナログメーター装着車）

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示します。



- トリップインフォメーション（→ P. 66）

  航続可能距離や燃費など、走行に関する情報を表示します。

- 外気温

  外気温を表示します。

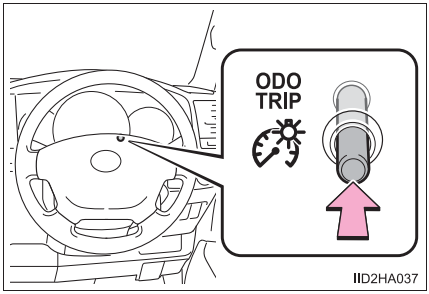
  − 40 ℃～ 50 ℃のあいだで表示します。

  外気温度が 3 ℃以下となった場合に凍結している恐れがあることを知らせる為、 が 10 回点滅したあと、点灯します。

- 時計（→ P. 58）
- エコドライブインジケーターランプ★のカスタマイズ（→ P. 63）

表示切りかえ

表示を切りかえるには、オドメーター／トリップメーターボタンを押します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トリップインフォメーションの機能

■ オドメーター

走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。

・ 区間距離は、トリップA・トリップBの2種類で使い分けることができます。
・ オドメーター／トリップメーターボタンを押し続けると 0 にもどります。

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

・ リセットするには、平均燃費の表示中にオドメーター／トリップメーターボタンを押し続けます。
・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

・ 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。
・ 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。
この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→ P. 59）

■ メーター照度調整表示

車幅灯が点灯しているとき、メーター照度調整を表示します。

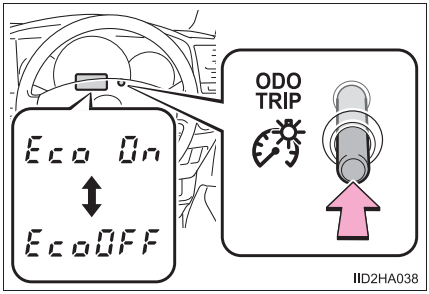
オドメーター／トリップメーターボタンを押し続けると照度を 4 段階に調整できます。

エコドライブインジケーターランプのカスタマイズ（オートマチック車）

エコドライブインジケーターランプは、作動／非作動を設定する事ができます。

1 オドメーター表示中にオドメーター／トリップメーターボタンを５秒以上押すとカスタマイズ画面が表示されます。

2 オドメーター／トリップメーターボタンを押して ON ／ OFF を選択する。



3 オドメーター／トリップメーターボタンを２秒以上押す、または 10 秒間そのままにすると設定が完了します。

知識

■マルチインフォメーションディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが“ ON ”のとき

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- トリップメーター
- 平均燃費
- 航続可能距離

■外気温度表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

■外気温度表示で“--- ℃”が表示されたときは

システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

注意

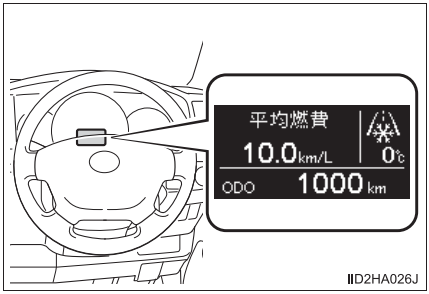
■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

マルチインフォメーションディスプレイ（オプティトロンメーター装着車）

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示します。



- トリップインフォメーション（→ P. 66）

  航続可能距離や燃費など、走行に関する情報を表示します。

- 外気温

  外気温を表示します。

  − 40 ℃～ 50 ℃のあいだで表示します。

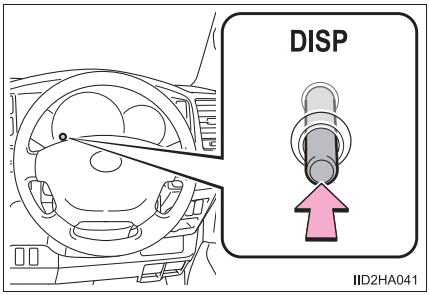
  外気温度が 3 ℃以下となった場合に凍結している恐れがあることを知らせる為、 が 10 回点滅したあと、点灯します。

- メーターカスタマイズ（→ P. 67）
- 警告メッセージ

  車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→ P. 359）

表示切りかえ

表示を切りかえるには、DISP ボタンを押します。



トリップインフォメーションの機能

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

・ リセットするには、平均燃費の表示中に DISP ボタンを押し続けます。
・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ エコドライブインジケーターゾーン表示

→ P. 69

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

・ 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。
・ 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。
この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→ P. 59）

■ 排出ガス浄化装置堆積モニター★

→ P. 213

■ メーター照度調整表示

メーター照度調整を表示します。

DISP ボタンを押し続けると照度を 5 段階に調整できます。

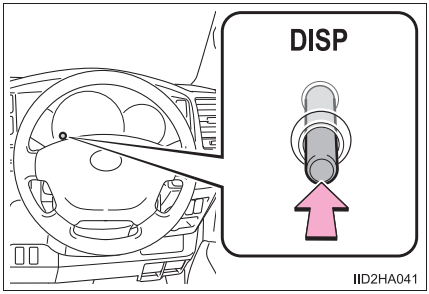
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示設定の変更

1 DISP ボタンを押して、「設定」画面を表示させる

IID2HA029J

2 DISP ボタンを押し続け、設定項目の選択画面を表示させる



IID2HA041

3 希望の設定項目を選択し、DISP ボタンを押し続ける

IID2HA030J

4 希望の設定を選択しDISPボタンを押し続けると、ディスプレイは 3 手順に戻る。

IID2HA031J

5 「戻る」を選択し、DISP スイッチを押し続ける

「設定」画面へもどります。

この操作を行わなくても、数秒後に自動で「設定」画面にもどります。

知識

■マルチインフォメーションディスプレイの作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ ON ”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■システムチェック表示

エンジンスイッチを“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、またはイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にしたとき、システムの作動確認のために映像画面が表示されます。チェックが終わると、通常の画面表示になります。

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- トリップメーター
- 平均燃費
- 航続可能距離

■外気温度表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

■外気温度表示で“--- ℃”が表示されたときは

システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■エコドライブインジケーターについて

●環境に配慮したアクセル操作をしているかどうかを確認できます。
バー表示がエコ運転の範囲内にあり、エコドライブインジケーターランプが点灯しているとき、環境に配慮したエコ運転中であることを示しています。

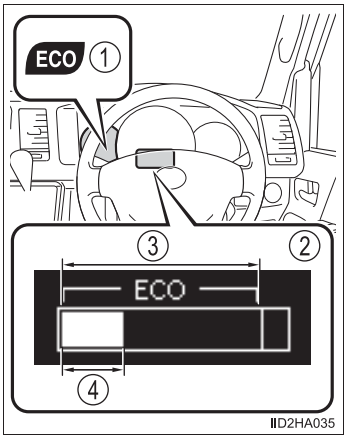
① エコドライブインジケーターランプ（→P. 151）

② エコドライブインジケーターゾーン表示

③ エコ運転の範囲

④ 現状のアクセル開度

アクセル操作に連動してバー表示が変化します。
バー表示がエコ運転の範囲をこえると、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側部分が点滅し、エコドライブインジケーターランプが消灯します。



●エコドライブインジケーターは、次の条件のときに作動します。

・シフトポジションがDで走行中
・スノーモード★（→P. 176）を使用していないとき
・車速が約100km/h以下のとき

●エコドライブインジケーターランプの作動／非作動を設定できます。（→P. 413）

⚠ 注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

各部の操作 3

3-1. キー
キー……72
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
フロントドア……76
スライドドア……82
バックドア……95
スマートエントリー&
スタートシステム……103
3-3. シートの調整
フロントシート……109
リヤシート……112
ヘッドレスト……114
シートアレンジ……116
セパレーターバー……125
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル……134
インナーミラー……136
アウターミラー……138
補助ミラー……141
3-5. ドアガラス・スライド式
リヤサイドガラスの開閉
パワーウインドウ……142
スライド式リヤサイド
ガラス……145

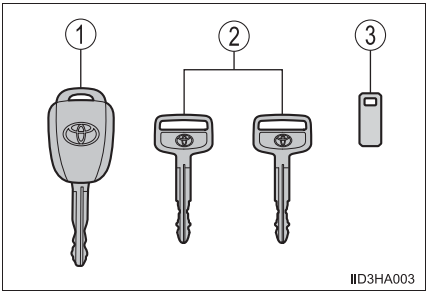
キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。
エンジンイモビライザーシステム（→ P. 49）装着車のキーには、信号発信機が内蔵されています。

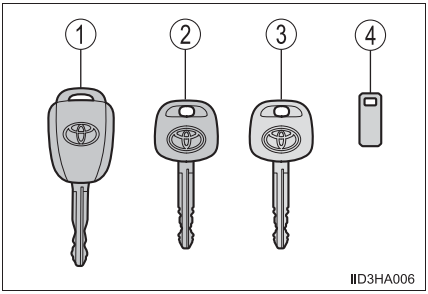
▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車（信号発信機非搭載タイプ）

① キー（ワイヤレス機能装着）
ワイヤレス機能の作動（→ P. 73）
② スペアキー
③ キーナンバープレート



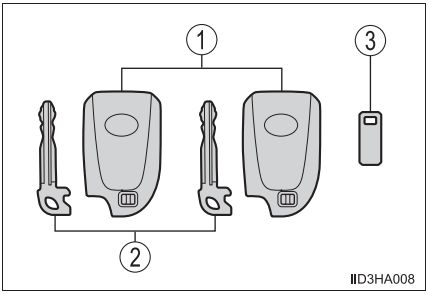
▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車（信号発信機搭載タイプ）

① ワイヤレスリモコン付きマスターキー
ワイヤレス機能の作動（→ P. 73）
② マスターキー（黒色）
③ サブキー（灰色）
④ キーナンバープレート



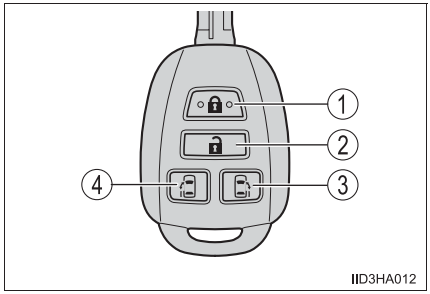
▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車（信号発信機搭載タイプ）

① 電子キー
・ スマートエントリー&スタートシステムの作動（→ P. 103）
・ ワイヤレス機能の作動（→ P. 73）
② メカニカルキー
③ キーナンバープレート

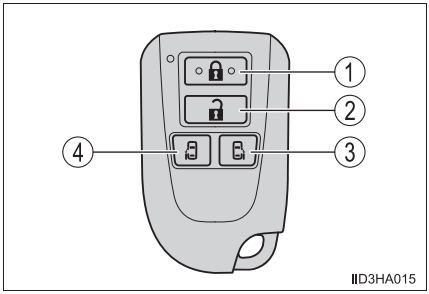


ワイヤレスリモコン

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車



▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車



① ドアの施錠（→ P. 76）

必ず施錠されたことを確認してください。

② ドアの解錠（→ P. 76）

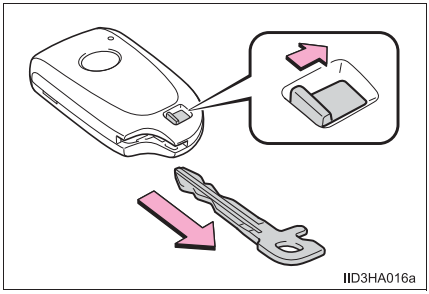
③ 運転席側パワースライドドアの開閉★（→ P. 85）

④ 助手席側パワースライドドアの開閉★（→ P. 85）

メカニカルキーを使うには（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドしてキーを取り出してください

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 388）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■キーの構成について

車の仕様により、ここで説明している内容とキーの枚数・組み合わせが異なる場合があります。

■キー（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）を紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキー※から、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

※ マスターキー（黒色）を紛失すると、キーの作製にコンピューターの交換が必要となるため、紛失しないように注意してください。

■航空機に乗るときは

航空機にワイヤレス機能装着キーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。（→ P. 318）

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

→ P. 107

■電池の交換方法

→ P. 318

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

⚠ 注意

■ キーの故障を防ぐために

- ●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- ●温度の高いところに長時間放置しない
- ●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- ●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- ●分解しない
- ●電子キー表面にシールなどを貼らない
- ●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ キー取り扱いの注意

ワイヤレスドアロックリモコンは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。

- ●電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ●必ず日本国内でご使用下さい。

■ 電子キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■ 電子キーを紛失したとき

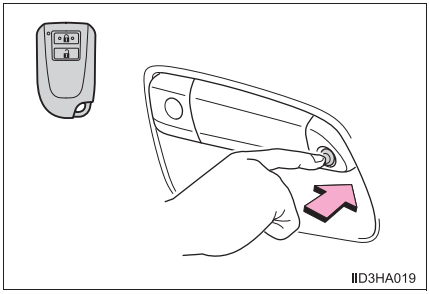
電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

フロントドア

車外からの施錠・解錠

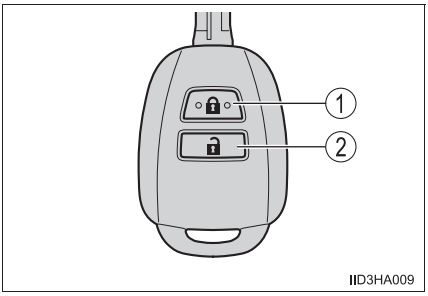
◆ スマートエントリー&スタートシステム★

電子キーを携帯し、ロック／アンロックスイッチを押して施錠・解錠する

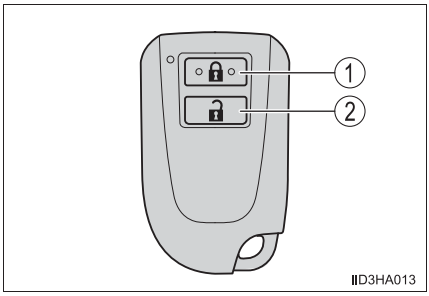


◆ ワイヤレスリモコン

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車



▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車



① 全ドアを施錠する

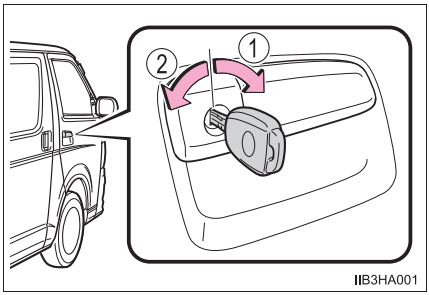
必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ キー

① 全ドアを施錠する
② 全ドアを解錠する



知識

■作動の合図

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでのドアの施錠･解錠を、ブザー※と非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は１回、解錠は２回)

※ スマートエントリー&スタートシステム装着車

■ワイヤレスリモコンの作動条件（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

- 周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車から約 1m まで近付いて操作してください。
- エンジンスイッチにキーが挿し込まれている場合は、ワイヤレスリモコンが作動しません。

■解錠操作のセキュリティ機能

スマートエントリー & スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでの解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■半ドア警告ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

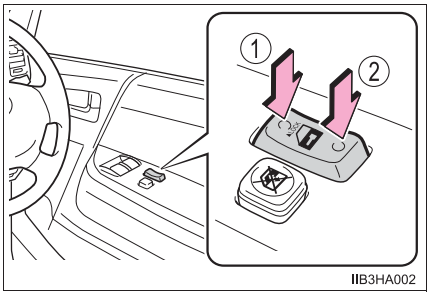
■スマートエントリー& スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 388)
- 電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→ P. 318)

車内からの施錠・解錠

◆ ドアロックスイッチ

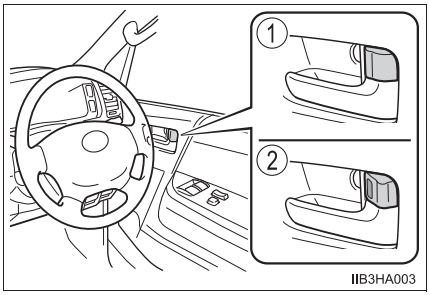
① 全ドアを施錠する
② 全ドアを解錠する



◆ ロックレバー

① ドアを施錠する
② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。



キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

1 ロックレバーを施錠側にする
2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

キーがエンジンスイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

オートドアロック・アンロック機能（スーパー GL）

次の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト連動オートロック	エンジン回転中にシフトレバーをＰから動かすと全ドアが施錠されます。
シフト連動オート アンロック	シフトレバーをＰに入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートロック	速度が 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア連動オート アンロック	エンジンスイッチを“ LOCK ”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、または OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にしてから 43 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

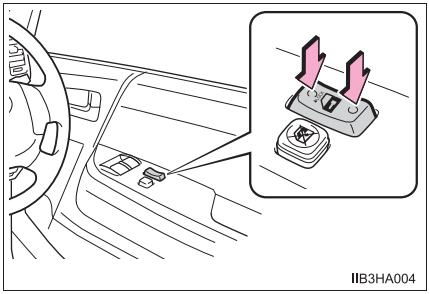
設定・解除のしかた

次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切り替わります。

1 すべてのドアを閉め、エンジンスイッチを“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、またはイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にする（その後 10 秒以内に 2 を行う）

2 シフトレバーを P または N に入れ、ドアロックスイッチの LOCK 側または UNLOCK 側を約 5 秒間押して離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次の表から選択します。
機能を解除するには、同じ手順を行います。



機能	シフトレバーの位置	ドアロックスイッチの位置
シフト連動オートロック	P	LOCK
シフト連動オートアンロック		UNLOCK
車速感応オートロック	N	LOCK
運転席ドア連動オートアンロック		UNLOCK

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。

知識

■衝撃感知ドアロック解除システム（スーパー GL）

車が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

●次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

・近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき
・無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
・複数のワイヤレスキーが近くにあるとき
・ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
・近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
・ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

●金属を含むフィルムや、金属物（トヨタ純正品以外のアンテナなど）をバックドアガラスに貼り付けると、車両後方からの操作時に、作動可能距離が短くなる場合があります。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 105

⚠警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

スライドドア

スライドドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。
また、パワースライドドア装着車は、ドアハンドルやワイヤレス機能などを使ってスライドドアを自動開閉することもできます。

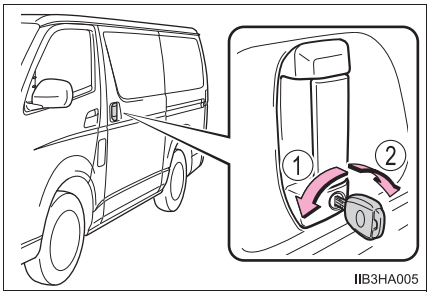
車外からの施錠・解錠

◆ ワイヤレス機能

→ P. 76

◆ キー

① ドアを施錠する
② ドアを解錠する



車内からの施錠・解錠

◆ ドアロックスイッチ

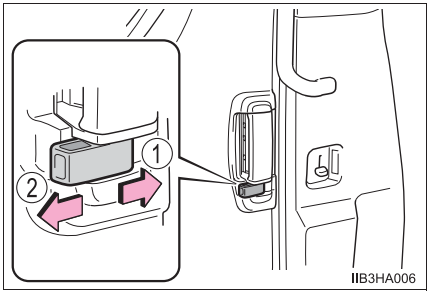
→ P. 78

◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

車外から施錠するときは、ロックレバーを施錠側にしてスライドドアを閉じます。



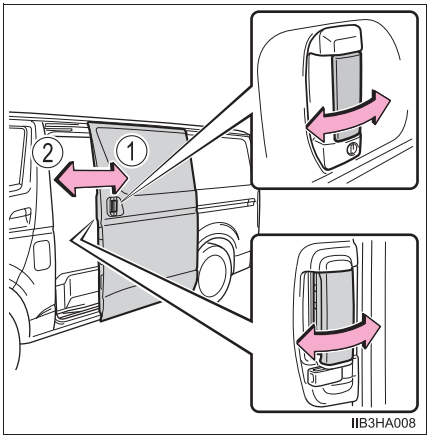
スライドドアの開閉

車外または車内のスライドドアハンドルを操作します。

① 開く

② 閉じる

ロックが解除されるまで、確実にドアハンドルを引きます。



知識

■スライドドアイージークローザー★

スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。

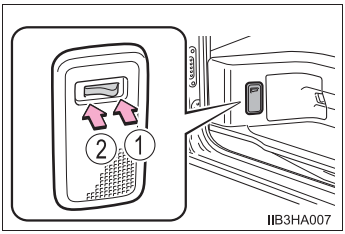
- ●エンジンスイッチの位置、またはモードに関係なく作動します。
- ●パワースライドドア装着車では、パワースライドドアメインスイッチが OFF のときでも作動します。
- ●車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。
- ●イージークローザーの作動中でも、車内または車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバー、またはチャイルドプロテクター★が施錠側のときを除く）

■スライドドアステップランプ★

スイッチを ON にしておくと、スライドドアまたはバックドアを開けたときに点灯します。

① ON

② OFF



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スライドドアの自動開閉（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアメインスイッチ（→ P. 87）が ON のとき、次の方法でスライドドアを自動開閉できます。

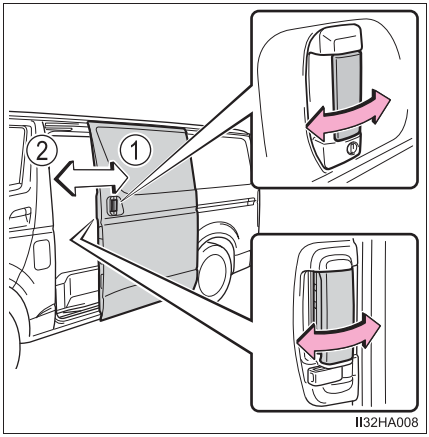
◆ スライドドアハンドル

車外または車内のスライドドアハンドルを操作します。

① ドアを開くには、ブザーが鳴るまでドアハンドルを開方向に引く

② ドアを閉じるには、ブザーが鳴るまでドアハンドルを閉方向に引く

開閉作動中、ドアハンドルを逆方向に操作すると、反転作動します。ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。



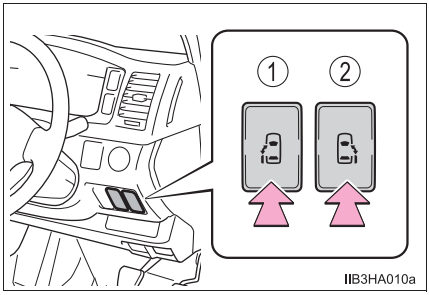
◆ パワースライドドアスイッチ

スイッチを約 1 秒押し続ける

① 助手席側パワースライドドア

② 運転席側パワースライドドア★

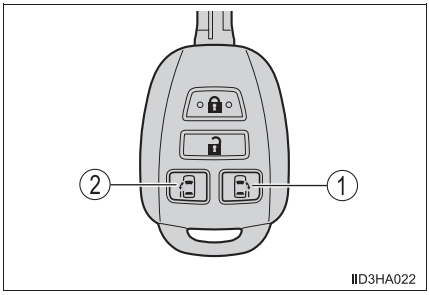
開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ ワイヤレスリモコン

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

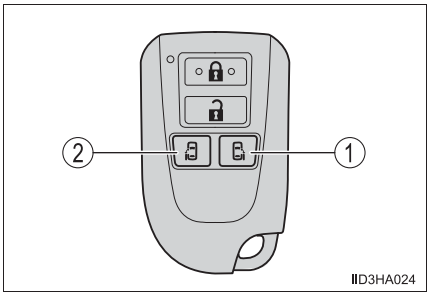


① 運転席側パワースライドドアを開閉する（約 1 秒押し続ける）★

② 助手席側パワースライドドアを開閉する（約 1 秒押し続ける）

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車



① 運転席側パワースライドドアを開閉する（約 1 秒押し続ける）

② 助手席側パワースライドドアを開閉する（約 1 秒押し続ける）

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

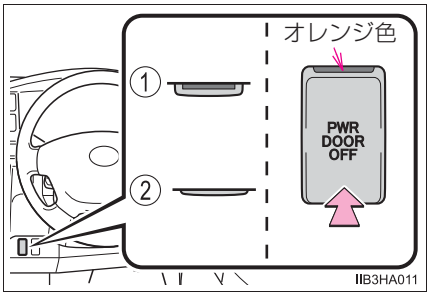
パワースライドドアメインスイッチ（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアメインスイッチが ON のとき、スライドドアの自動開閉が可能になります。

① ON

スイッチ上部にオレンジ色のマークが見えています。

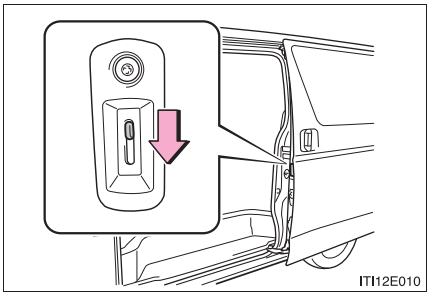
② OFF



チャイルドプロテクター★

施錠側にすると、スライドドアが車内から開かなくなります。

お子さまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■チャイルドプロテクター★使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。
スライド式リヤサイドガラス装着車で、万一、車内から開ける場合は、リヤサイドガラスを開けて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■パワースライドドア★の作動条件

パワースライドドアメインスイッチが ON で、次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。（エンジンスイッチの位置、またはモードに関係なく使用できます）

- スライドドアが解錠されているとき（閉作動を除く）
- エンジンスイッチが“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、またはイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）のときは上記に加え、車速が 3km/h 未満かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。
  - ・ シフトレバーが P のとき
  - ・ パーキングブレーキがかかっているとき
  - ・ ブレーキペダルを踏んでいるとき
- 作動条件を満たしていても、エンジンスイッチが“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、またはイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）のときは、ワイヤレスリモコンで開閉することはできません。

■パワースライドドア★の作動について

- 作動開始時にブザーが鳴ります。また、閉作動中はブザーが断続的に鳴ります。
- 作動条件を満たしていないときは、自動開閉できません。（その場合、手動で開閉できます）
- パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から反転作動します（連続して 2 回異常を感知すると、ブザーが鳴り、自動開閉できなくなります）。ただし、自動で開けているときに全開位置から約 20cm 手前の範囲で異常を感知した場合は、その位置で作動を停止します。その場合は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にし、スライドドアをいったん手動で全閉、または全開にしてから、操作し直してください。
- パワースライドドアの自動開閉中に反転操作をすると、連続 2 回まで反転作動し、3 回目は反転作動を停止します。その場合は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にし、スライドドアをいったん手動で全閉、または全開にしてから、操作し直してください。

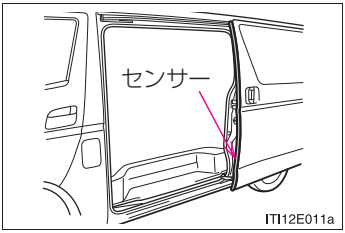
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■パワースライドドア★を開けたままバッテリー端子を取りはずしたときは

バッテリー端子を再接続しても、パワースライドドアを自動開閉できなくなります。その場合は、スライドドアを手動でいったん全閉にすると、自動開閉が可能になります。

■挟み込み防止機能（パワースライドドア装着車）

スライドドアを自動で閉めているときに、センサーが異物の挟み込みなどを感知すると、スライドドアが反転作動し、全開位置で自動停止します。



⚠警告

■走行中の警告

走行中は次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中は車内のドアハンドルを操作しない
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクター★を使用して車内からドアが開かないようにする

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にスライドドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

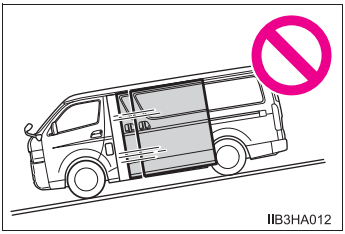
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

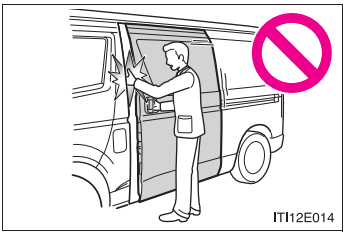
■スライドドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- スライド式リヤサイドガラス★を開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・顔などを出さないでください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜した場所での停車時にドアが開いていると、突然動き出すおそれがあります。
- 坂道ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。ドアが体にあたったり挟んだりしないよう、注意してください。
- 下り坂での停車時に乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。


IIB3HA012

- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

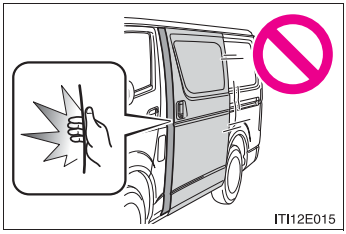

ITI12E014

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■スライドドアイージークローザー★について

●スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動しはじめるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



●パワースライドドア装着車では、パワースライドドアメインスイッチが OFF であってもイージークローザーが作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

●ロックレバー、またはチャイルドプロテクター★が施錠側のときは、イージークローザー作動中に車内のドアハンドルを操作しても作動は停止しません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

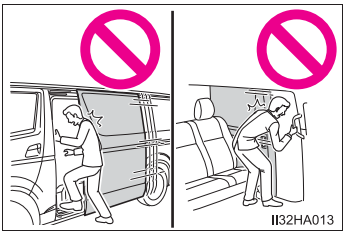
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■パワースライドドア★について

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

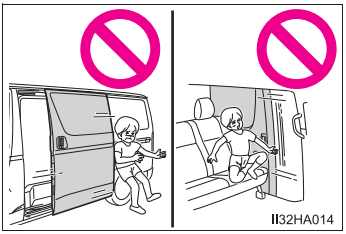
●パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。



●ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



●スライドドアが自動で開閉している途中でパワースライドドアメインスイッチを OFF にしたり、作動条件（→ P. 88）が満たされなくなったりすると、ブザーが鳴って作動が停止します。坂道などの傾斜した場所では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■パワースライドドア★について

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動操作に切りかわり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
  - ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  - ・エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、またはイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- チャイルドプロテクター★を施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。

■挟み込み防止機能（パワースライドドア装着車）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

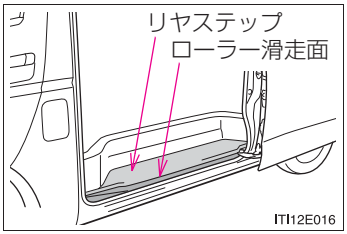
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■スライドドアについて

●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。



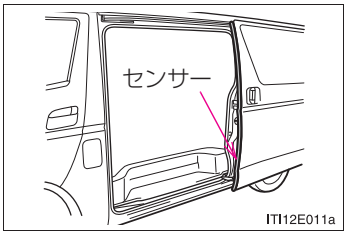
■スライドドアイージークローザー★について

●イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

●ドアの開け閉めを短時間にくり返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■パワースライドドア★のセンサーについて

センサーを刃物などの鋭利なもので傷付けないよう注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

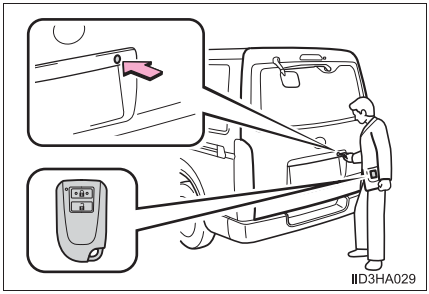
バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠、および開けることができます。

車外からの施錠・解錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム★

電子キーを携帯し、ロック／アンロックスイッチを押して施錠・解錠する

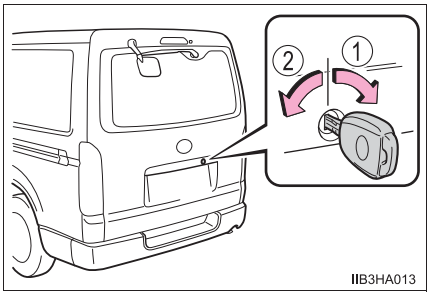


◆ ワイヤレス機能

→ P. 76

◆ キー

① ドアを施錠する
② ドアを解錠する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内からの施錠・解錠

◆ ドアロックスイッチ

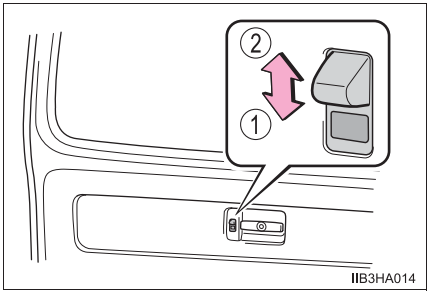
→ P. 78

◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

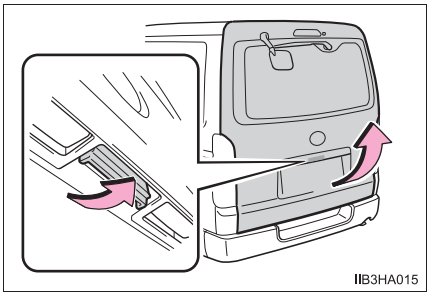
車外から施錠するときは、ロックレバーを施錠側にしてバックドアを閉じます。



バックドアを開けるには

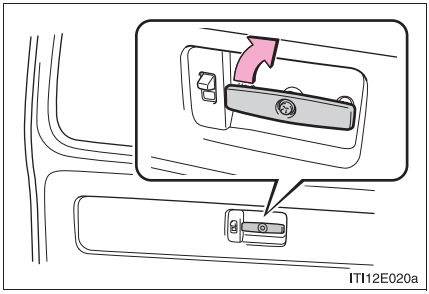
◆ バックドアハンドル（車外）

バックドアハンドルを引いたまま、バックドアを持ち上げる



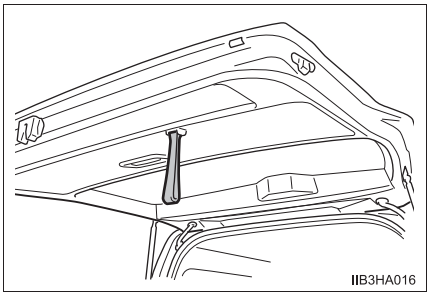
◆ バックドアハンドル（車内）

バックドアハンドルを右にまわして、バックドアを押し上げる



バックドアを閉めるときは

バックドアストラップ★を持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



知識

■バックドアイージークローザー★

バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

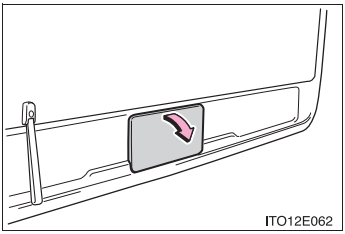
- エンジンスイッチの位置、またはモードに関係なく、イージークローザーは作動します。
- 車内や車外のドアハンドルを操作したままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。
- イージークローザーが作動中でも、車内または車外のドアハンドルを操作してドアを開けることができます。（ロックレバーが施錠側のときを除く）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

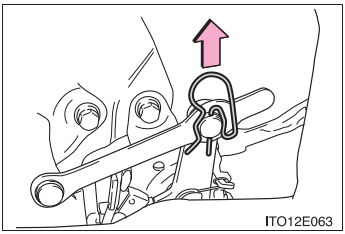
■バックドアイージークローザー★が故障したときは

バックドアが開かない場合は、次の手順で車内からロックを解除してください。

1 上側部分を手前に引いてカバーをはずす

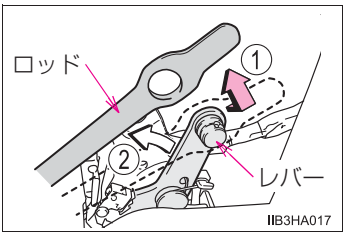

ITO12E062

2 ピンを引き抜く


ITO12E063

3 ロッドを手前に引いて上側にずらし（①）、ロッドとレバーとの連結をはずす

レバーが矢印の方向に動きます（②）。
レバーが自動で動かないときは、矢印の方向に手で動かしてください。



IIB3HA017

4 車内または車外のバックドアハンドルを操作してバックドアを開ける（→P. 96）

この処置でバックドアを開けることができても、すみやかにトヨタ販売店でバックドアイージークローザーの点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉じてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●荷室には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中は車内のドアハンドルを操作しないでください。
バックドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●荷室でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

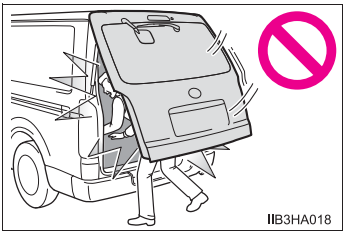
●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

⚠ 警告

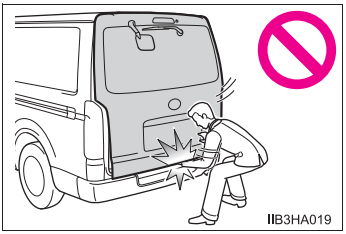
■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- ●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ●強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- ●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。


IIB3HA018

- ●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- ●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアストラップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

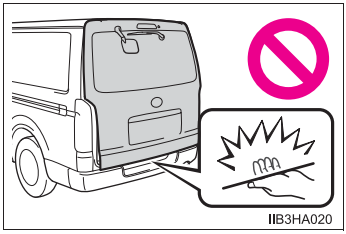

IIB3HA019

- ●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
  手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

⚠ 警告

■バックドアイージークローザー★について

●バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動しはじめるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



●ロックレバーが施錠側のときは、イージークローザー作動中に車内のドアハンドルを操作しても作動は停止しません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

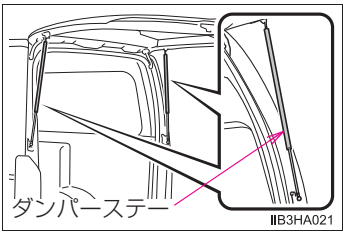
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



■バックドアを操作するときは

車内のドアハンドルや、バックドアの下端に付いているロック部品などをつかんで、バックドアを操作しないでください。ドアハンドルやロック部品などが破損するおそれがあります。

■バックドアイージークローザー★について

- イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めを短時間にくり返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スマートエントリー&スタートシステム★

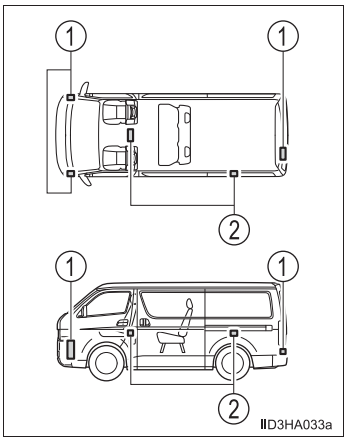
電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する　（→ P. 76, 95）
- エンジンを始動する（→ P. 167）

知識

■アンテナの位置

①車外アンテナ
②車内アンテナ



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

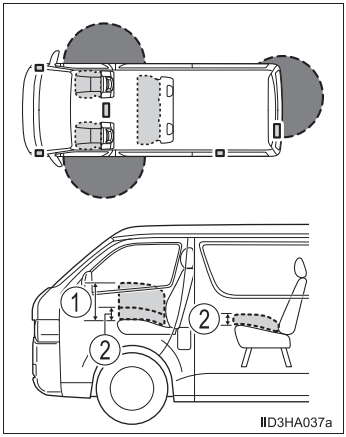
■作動範囲（電子キーの検知エリア）

●：ドアの施錠・解錠時

各ドアのロック／アンロックスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアのロック／アンロックスイッチのみ作動します）

●：エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。（フロア上、ダッシュボード上、荷室内などは作動範囲の対象外です）



①シートからの高さ 50cm（運転席）

②シートからの高さ 15cm（助手席およびセカンドシート）

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたりすることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→ P. 359）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 388）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●バックドアガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

●施錠・解錠時に電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、ドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にあるときは正しく作動しないことがあります。

●インストルメントパネル上面、フロントドア部やリヤサイド部のオープントレイ、バックドア付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近づいていると、エンジンを始動できることがあります。

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●ドアハンドル上のロック／アンロックスイッチを押しながらドアハンドルを引いたときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどしてから再度ロック／アンロックスイッチを押し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。（→ P. 412）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。：→ P. 104）

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドア・バックドアの施錠・解錠：→ P. 388

●エンジンの始動：→ P. 388

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→ P. 364）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 412）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 76, 388）

●エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→ P. 388

●エンジンの停止：→ P. 168

⚠ 警告

■電波がおよぼす影響について

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 103）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

■電子キーの取り扱いの注意

電波キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。
- 認証ラベルをはがさないでください。認証ラベルのないものの使用は禁止されています。

フロントシート

シートアレンジについては、P. 116 を参照してください。

調整のしかた

① 前後位置調整※

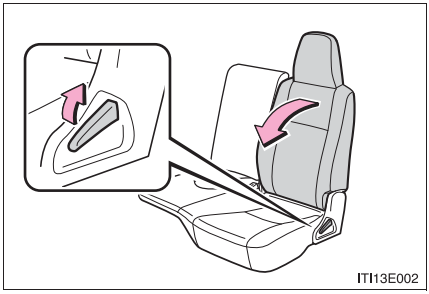
② リクライニング調整

※ 助手席は車種により固定式になります。また、シートの意匠は車種により異なります。

助手席・中央席の前倒し（スーパー GL・デラックス 2 人乗りを除く）

■ 助手席

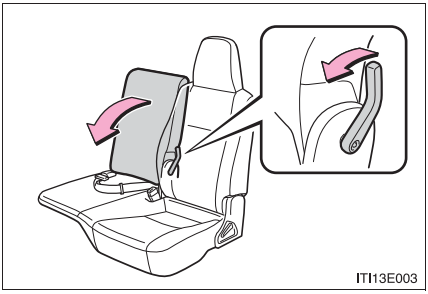
1 レバーを引いたまま、背もたれを前に倒す



2 もとにもどすときは、背もたれをそのまま引き起こす

■ 中央席

1 レバーを前側に引いて、背もたれを前に倒す



2 もとにもどすときは、レバーを前側に引いて背もたれを引き起こす

知識

■中央席の背もたれについて

前倒しから起こした状態で、レバーを前側に引きながら後方に倒すと、背もたれを 3 段階うしろに倒すことができます。

⚠ 警告

■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後は、シートがきちんと固定されていることを確認してください。

⚠ 警告

■背もたれを前倒しするとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、オートマチック車はシフトレバーを P に、マニュアル車はエンジンを停止してシフトレバーを 1 速にする
- 倒した背もたれの上に人を乗せて走行しない

■背もたれをもとの位置にもどしたあと

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトを挟み込まないようにする

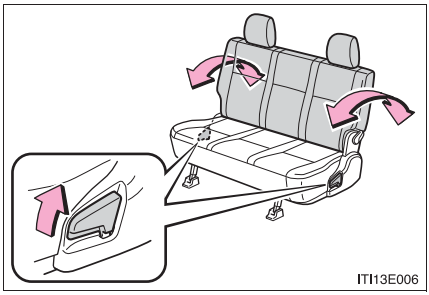
リヤシート★

シートアレンジについては、P. 116 を参照してください。

調整のしかた（スーパー GL のみ）

■ リクライニング角度の調整

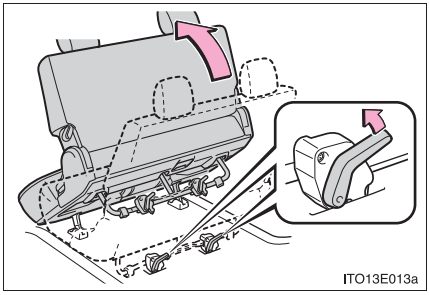
左右いずれかのレバーを引いたまま、背もたれを前後に動かす



■ 前後位置の変更

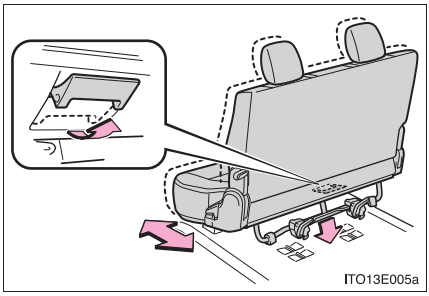
1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける

2 左右いずれかのロック解除レバーを引いて、シート脚部のロックを解除し、セカンドシート後部を持ち上げる



3 スライドレバーを引いてシートを前後に移動させ、シートをフロアに押し付けてロックする

シートが確実に固定されたことを確認してください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後は、シートがきちんと固定されていることを確認してください。

■ セカンドシートの前後位置を変更するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に操作をしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをＰにする
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない
- 前後位置の変更後は、シートクッション後部を引き上げ、シートが確実に固定されていることを確認する

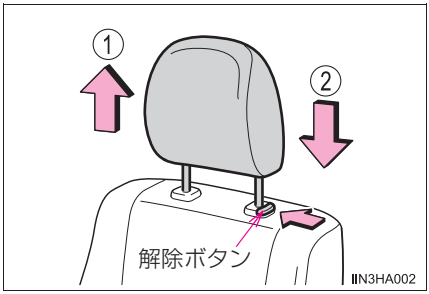
ヘッドレスト★

▶ 分割式ヘッドレスト

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



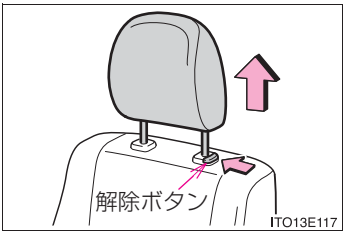
▶ 一体式ヘッドレスト

ヘッドレストの調整・取りはずしはできません。

知識

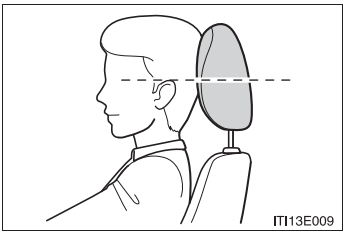
■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながら取りはずします。



■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ヘッドレストについて

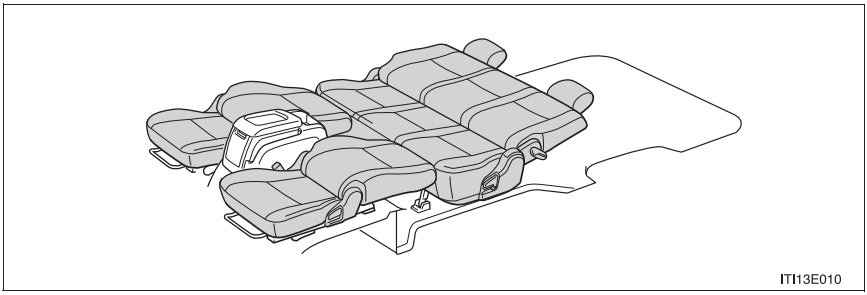
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートアレンジ★

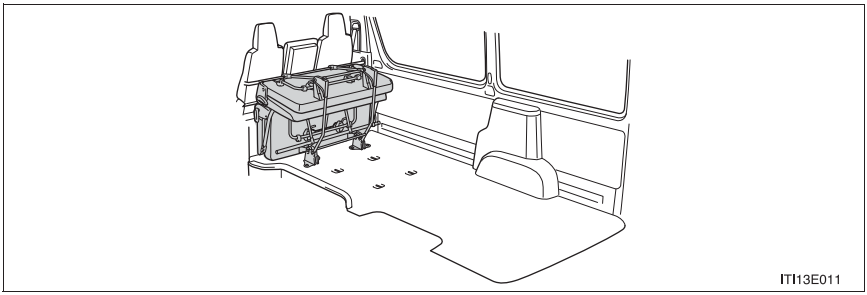
状況に応じて、次のようにシートをアレンジすることができます。
それぞれの説明ページをよく読んでから、操作を行ってください。

◆ フラットシート（スーパー GL のみ）



→ P. 117

◆ 荷室の拡大



イラストはデラックス（3 ／ 6 ／ 9 人乗り）のシートで代表しています。

▶ スーパー GL

→ P. 117

▶ デラックス（3 ／ 6 人乗り）

→ P. 118

▶ デラックス（3 ／ 6 ／ 9 人乗り）

→ P. 120

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フラットシート（スーパー GL のみ）

■ フラットシートにするときは

1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける
2 セパレーターバーを取りはずす（→ P. 129）
3 セカンドシートの位置をうしろ側に移動する（→ P. 112）
4 セカンドシートの背もたれを後方にいっぱいまで倒す（→ P. 112）
5 フロントシートの位置をいちばん前まで移動する（→ P. 109）
6 フロントシートのヘッドレストをはずす（→ P. 114）
7 フロントシートの背もたれを後方にいっぱいまで倒す（→ P. 109）

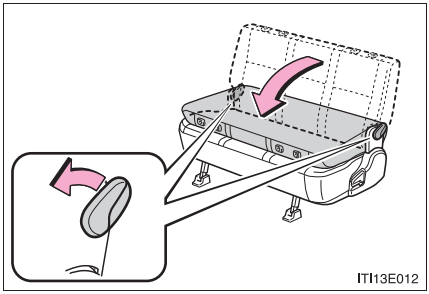
■ もとにもどすときは

フラットシートにしたときと逆の手順で操作を行います。

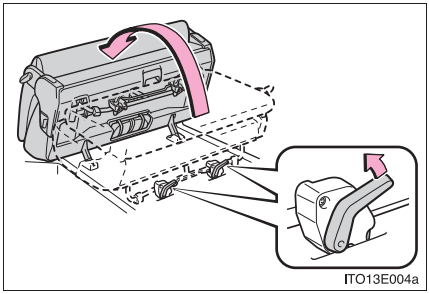
荷室の拡大（スーパー GL）

■ 荷室の拡大のしかた

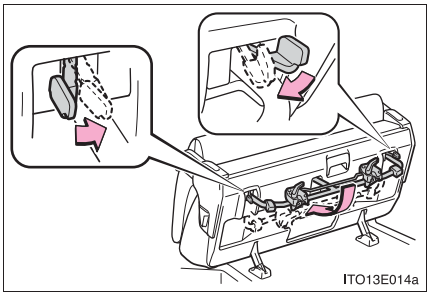
1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける
2 セカンドシートの位置をうしろ側に移動する（→ P. 112）
3 セカンドシートのヘッドレストをはずす（→ P. 114）
4 セカンドシートの背もたれを起こす（→ P. 112）
5 左右いずれかの前倒しレバーを引いて、背もたれを前に倒す



6 左右いずれかのロック解除レバーを引いて、シート脚部のロックを解除し、セカンドシート全体を前方に起こす



7 左右のレバーを内側に引いてロックを解除し、シート脚部を折りたたむ



8 セパレーターバーの取り付け位置をかえる（→P. 127）

■ **もとにもどすときは**

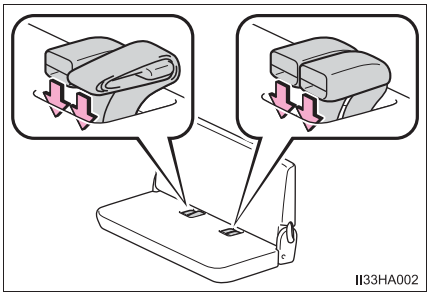
荷室を拡大したときと逆の手順で操作を行います。

荷室の拡大（デラックス３／６人乗り）

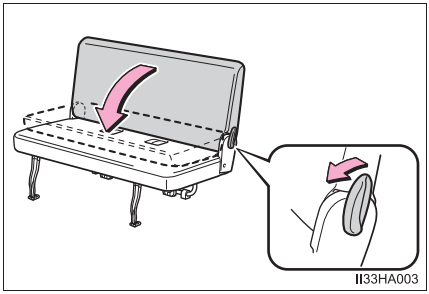
■ **荷室の拡大のしかた**

1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける

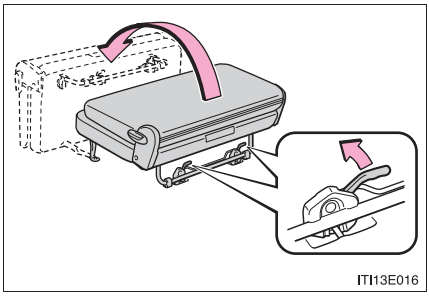
2 シートベルトのバックルとプレートを格納する



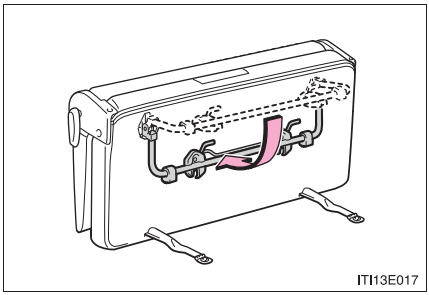
3 セカンドシート側面（助手席側）にあるレバーを引いて、背もたれを前に倒す



4 左右いずれかのロック解除レバーを引いて、シート脚部のロックを解除し、セカンドシート全体を前方に起こす



5 脚部を折りたたむ



6 セパレーターバーの取り付け位置をかえる（→P. 127）

■ **もとにもどすときは**

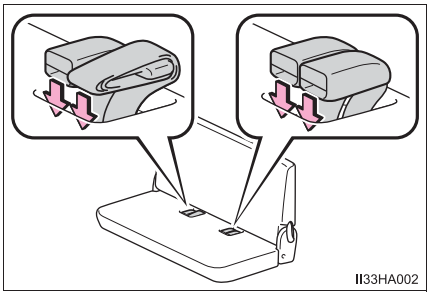
荷室を拡大したときと逆の手順で操作を行います。

荷室の拡大（デラックス３／６／９人乗り）

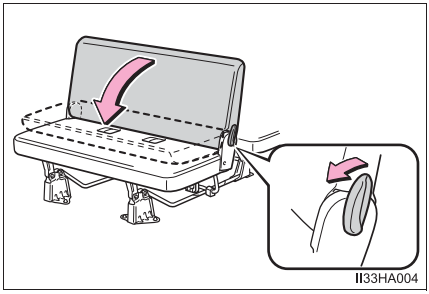
■ 荷室の拡大のしかた（3 人乗りにするとき）

1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける

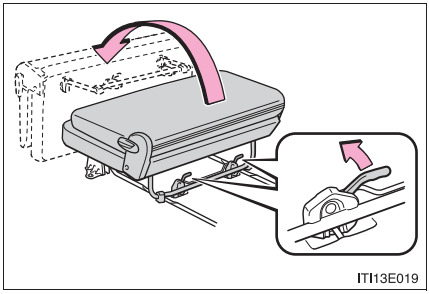
2 シートベルトのバックルとプレートを格納する



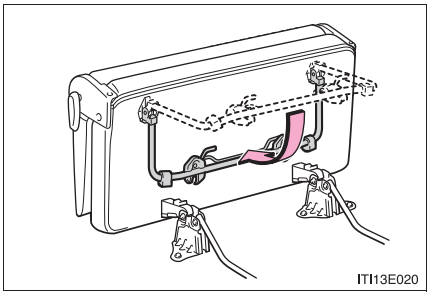
3 セカンドシート側面（助手席側）にあるレバーを引いて、背もたれを前に倒す



4 左右いずれかのロック解除レバーを引いて、シート後脚部のロックを解除し、セカンドシートを前方に起こす

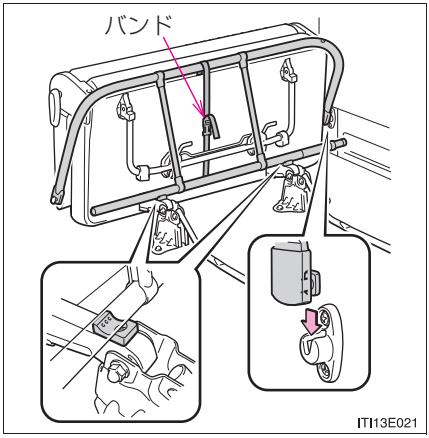


5 後脚部を折りたたむ



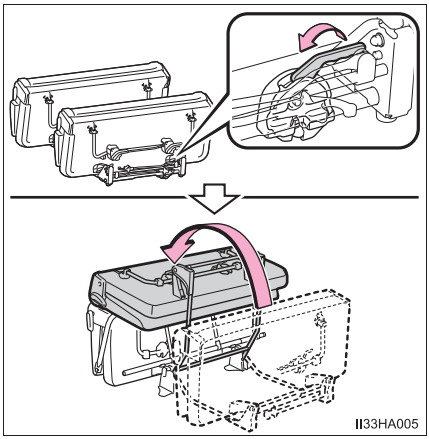
6 セパレーターバー（D タイプ：→ P. 130）を取りはずし、図のように格納する

運転席側にあるブラケットに、セパレーターバー取り付け部を挿し込み、バンドで固定します。



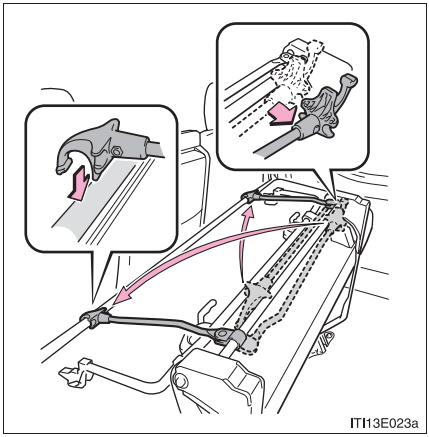
7 セカンドシートの操作手順 2 ～ 5 と同様にサードシートを前方に起こす

8 サードシート前脚部のロック解除レバーを引いてロックを解除し、サードシート全体を持ち上げ、セカンドシートの上に載せる



9 サードシートを固定する

サードシート後脚部にあるフックをはずし、図のようにセパレーターバー（A タイプ：→ P. 128）にかけます。



■ 荷室の拡大のしかた（6 人乗りにするとき）

1 P. 120 の手順1～5までの操作をサードシートで行う

2 セパレーターバーの取り付け位置をかえる（→P. 128）

■ もとにもどすときは

荷室を拡大したときと逆の手順で操作を行います。

セカンドシートをもとにもどすときは、サードシートが固定されていないと、シートは固定できません。

⚠ 警告

■ シートアレンジについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にシートアレンジ操作をしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、オートマチック車はシフトレバーを P に、マニュアル車はエンジンを停止してシフトレバーを 1 速にする
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない
- 倒した背もたれの上や荷室に人を乗せて走行しない
- フラットシートにした状態で人や荷物をのせて走行しない（スーパー GL）
- お子さまが荷室に入らないよう注意する
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認する
- シートのあいだにシートベルトなどが挟み込まれていないか確認する

■ シートをもとにもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後・上下（荷室の拡大時）に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトを挟み込まないようにする
- ヘッドレストを取りはずしたときは、もとどおりに取り付ける（調整式ヘッドレスト装着車）

⚠ 注意

■ **フラットシートについて（スーパー GL）**

- 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。
- フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。

■ **荷室の拡大について（デラックス 3 ／ 6 ／ 9 人乗り車）**

セカンドシートのみを折りたたんだ状態で車を使用しないでください。
6 人乗りにするときは、必ずサードシートを折りたたみ、セパレーターバーを正しく取り付けた状態で乗車してください。

セパレーターバー★

セパレーターバーは、必ず荷室のいちばん前の位置になるように取り付けてください。取りはずしたまま走行すると、不正改造になります。
また、紛失すると車検を受けることができなくなります。

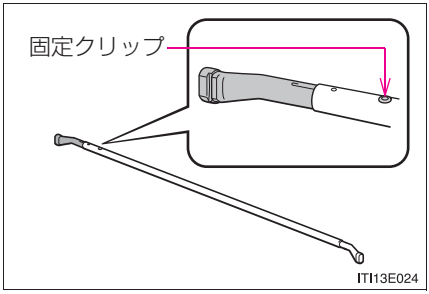
デラックス（2 人乗り）にはセパレーターバーの設定がありません。

セパレーターバーの種類

セパレーターバーには次の 4 種類があります。

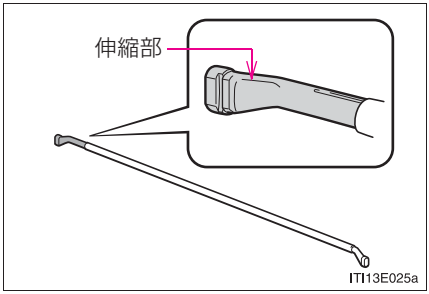
■ A タイプ（固定クリップ付き）

・セパレーターバーのカーブが必ず車両後方を向くように取り付けます。
・セパレーターバーの固定クリップが、運転席側になるように取り付けます。



■ B タイプ（伸縮式）

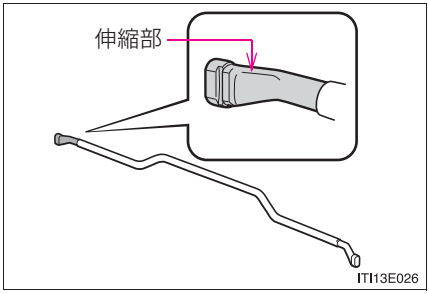
・セパレーターバーのカーブが必ず車両後方を向くように取り付けます。
・セパレーターバーの伸縮部が、運転席側になるように取り付けます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

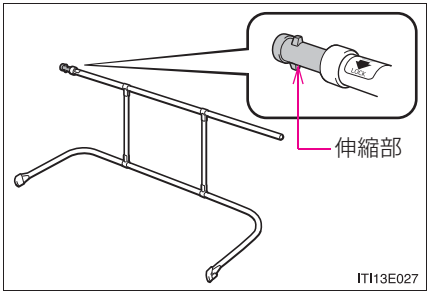
■ C タイプ（ハイルーフ・ミドルルーフ用）

・セパレーターバーのカーブが必ず上になるように取り付けます。
・セパレーターバーの伸縮部が、運転席側になるように取り付けます。



■ D タイプ（デラックス３／６／９人乗り用）

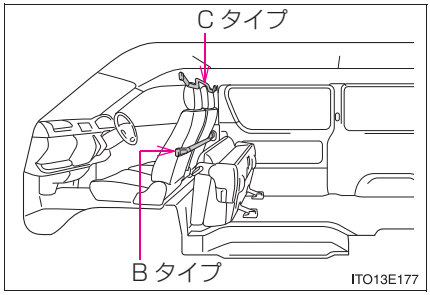
セパレーターバーの伸縮部が、必ず運転席側になるように取り付けます。



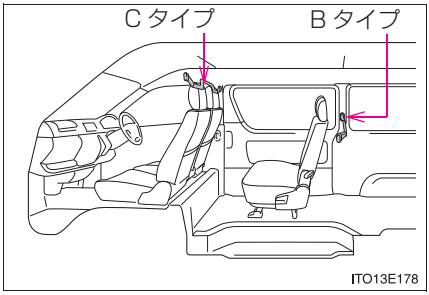
セパレーターバーの取り付け位置

■ スーパー GL

▶ 2 人乗り時

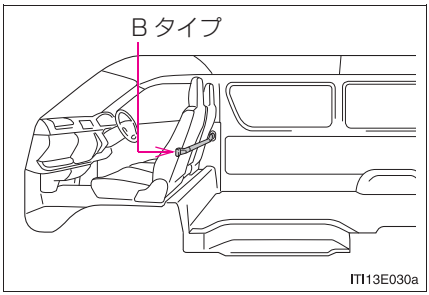


▶ 5 人乗り時



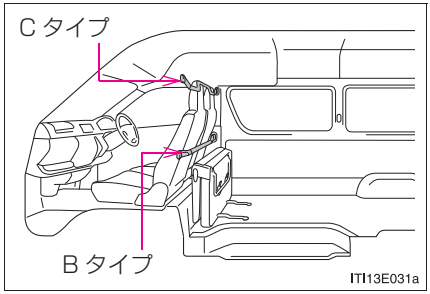
C タイプはミドルルーフの車両にのみ設定されます。

■ デラックス（3 人乗り）

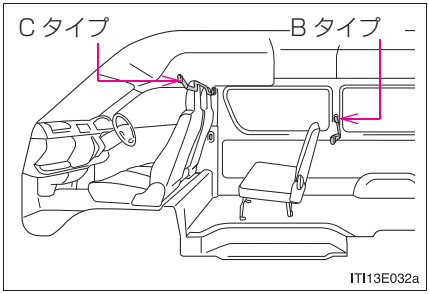


■ デラックス（3 ／ 6 人乗り）

▶ 3 人乗り時



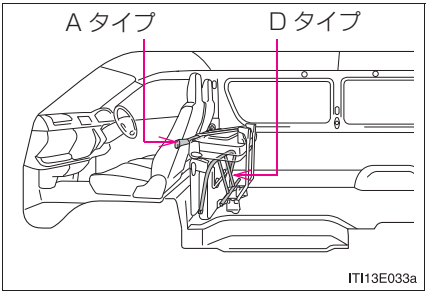
▶ 6 人乗り時



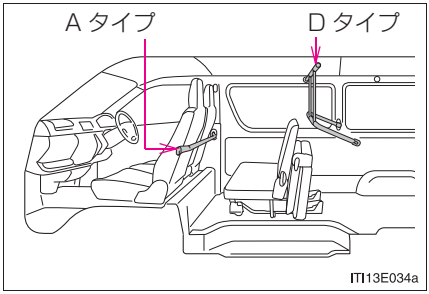
C タイプはハイルーフの車両にのみ設定されます。

■ デラックス（3 ／ 6 ／ 9 人乗り）

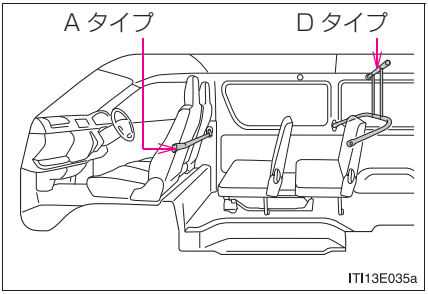
▶ 3 人乗り時



▶ 6 人乗り時



▶ 9 人乗り時



セパレーターバーの脱着（A タイプ）

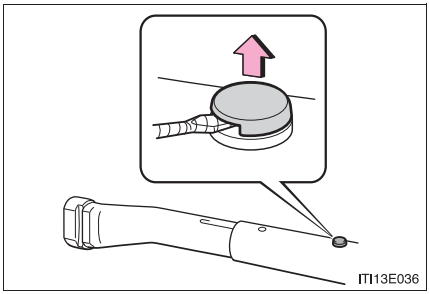
■ 取りはずし方

1 セパレーターバーの固定クリップをはずす

固定クリップは運転席側の取り付け部にあります。

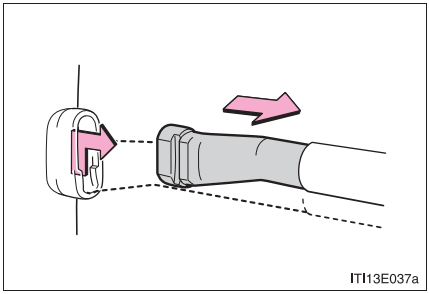
固定クリップのピンをマイナスドライバーなどで引き上げて取りはずします。

傷付き防止のため、ドライバーの先端にビニールテープなどを巻いて保護してください。



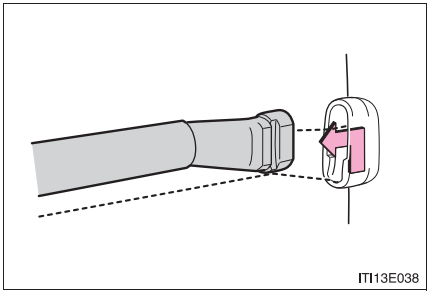
2 セパレーターバーの取り付け部（運転席側）を引き上げ、内側に縮める

運転席側（固定クリップ側）の取り付け部は、伸縮します。



3 セパレーターバーの取り付け部（助手席側）を引き上げ、セパレーターバーを取りはずす

助手席側の取り付け部は、伸縮しません。



■ 取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で行います。

セパレーターバーのカーブが車両後方を向き、固定クリップが運転席側になるように取り付けてください。

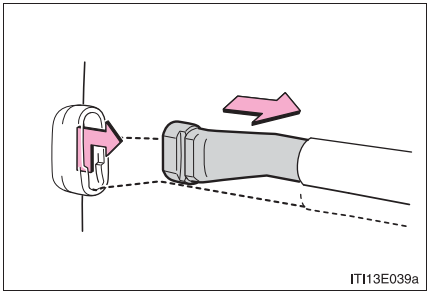
セパレーターバーの取り付け部は、ブラケットに確実にはめ込んでください。

セパレーターバーの脱着（B タイプ・C タイプ）

■ 取りはずし方

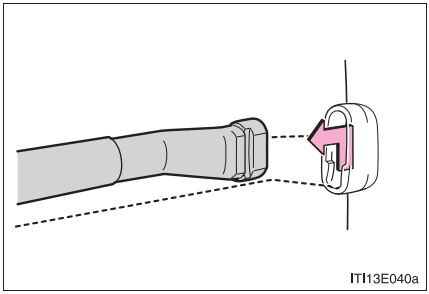
1 セパレーターバーの取り付け部（運転席側）を引き上げ、内側に縮める

運転席側の取り付け部は、伸縮します。



2 セパレーターバーの取り付け部（助手席側）を引き上げ、セパレーターバーを取りはずす

助手席側の取り付け部は、伸縮しません。



■ 取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で行います。

セパレーターバーのカーブが車両後方を向き、伸縮部が運転席側になるように取り付けてください。

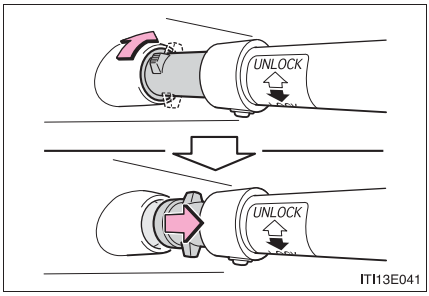
セパレーターバーの取り付け部は、ブラケットに確実にはめ込んでください。

セパレーターバーの脱着（D タイプ）

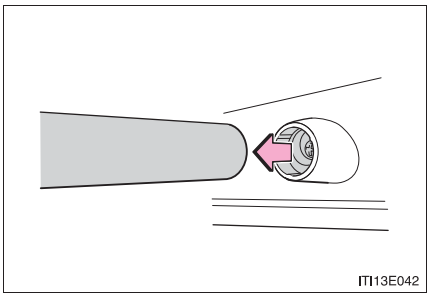
■ 取りはずし方

1 上側のセパレーターバー取り付け部（運転席側）をブラケットから取りはずす

取り付け部のツマミをUNLOCK 側にしてロックを解除し、取り付け部を内側に縮めて取りはずします。

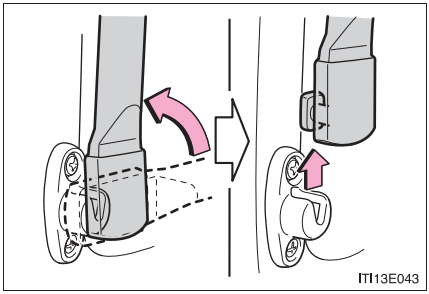


2 上側のセパレーターバー取り付け部（助手席側）をブラケットから取りはずす



3 下側のセパレーターバー取り付け部をブラケットから取りはずす

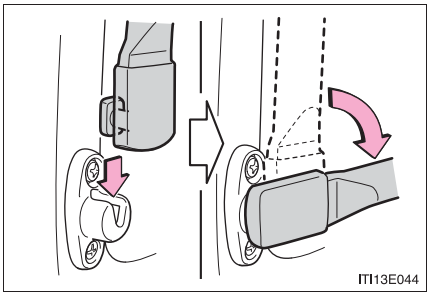
下側のセパレーターバー取り付け部が垂直になる位置まで起こし、セパレーターバー全体を引き上げてブラケットから取りはずします。



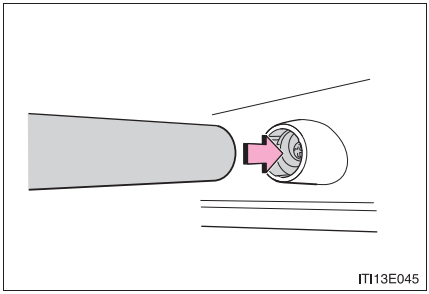
■ 取り付け方

1 下側のセパレーターバー取り付け部をブラケットに挿し込み、前方または後方に倒す

9 人乗り時は車両後方に倒し、6 人乗り時は車両前方に倒します。

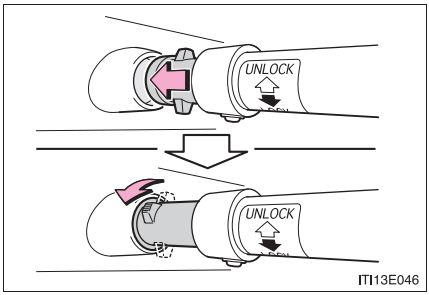


2 上側のセパレーターバー取り付け部（助手席側）をブラケットに挿し込む



3 上側のセパレーターバー取り付け部（運転席側）をブラケットに取り付ける

取り付け部を引き出してブラケットに挿し込み、ツマミを LOCK 側にして固定します。

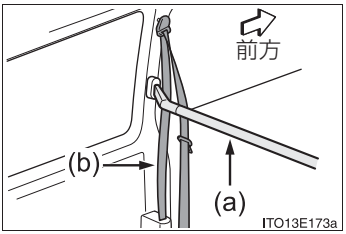


⚠ 警告

■ セパレーターバーを取り付けるとき

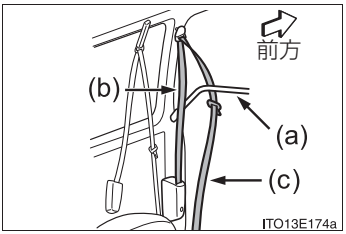
次のことをお守りください。お守りいただかないと、シートベルトが正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● セパレーターバー（B タイプ）を取り付けるときは、右図のようにセパレーターバー（a）をリヤシートベルト（b）の車両後方側に取り付けてください。

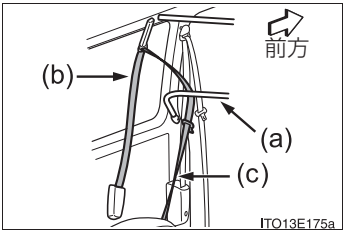


● セパレーターバー（D タイプ）を取り付けるときは、次のようにセパレーターバー（a）をシートベルト（b）と（c）のあいだにセットしてください。

・ 6人乗り時は右図のようにセパレーターバーをセットする



・ 9人乗り時は右図のようにセパレーターバーをセットする



■ セパレーターバーを取り付けたあとは

確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だと、走行中にセパレーターバーがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

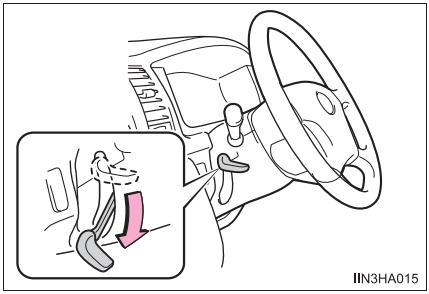
■はめ込むタイプのセパレーターバーについて

セパレーターバーの取り付け部をブラケットにはめ込むときは、必ずセパレーターバー全体を下側に押さえてください。片側のみに荷重をかけると、ブラケットが破損するおそれがあります。

ハンドル

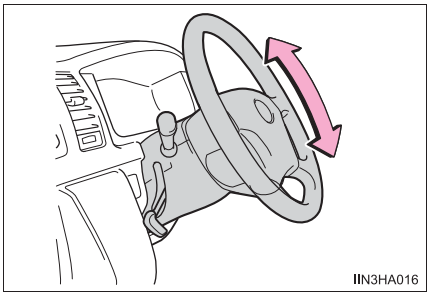
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



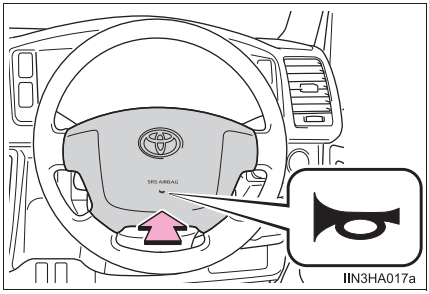
2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ホーンが鳴らない場合があります。

⚠ 警告

■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

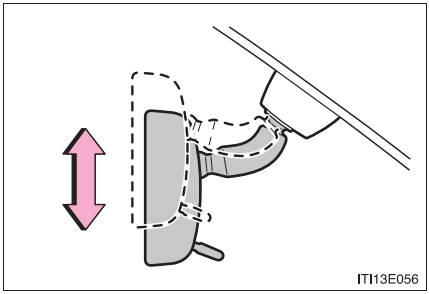
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



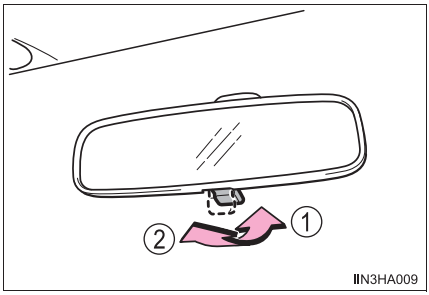
防眩機能

▶ 手動防眩ミラー

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

② 防眩時



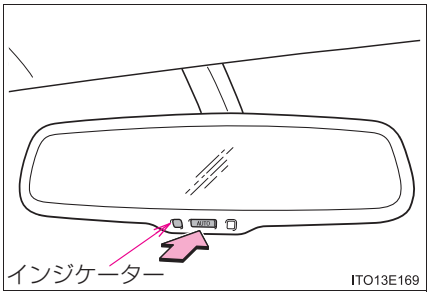
▶ 自動防眩ミラー

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ

ON ／ OFF

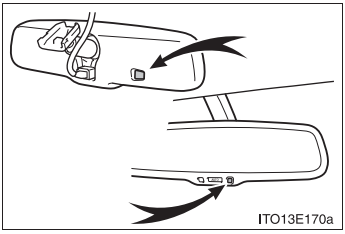
ON のときはインジケーターが点灯します。
エンジンスイッチを“ ON ”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはイグニッション ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。
ボタンを押すと OFF になりインジケーターが消灯します。



知識

■センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたり、センサーを覆ったりしないでください。



⚠ 警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

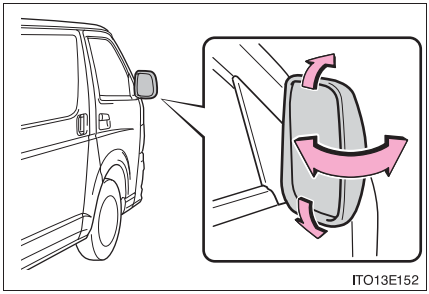
アウターミラー

調整のしかた

▶ 手動タイプ

ミラー全体を手で動かして調整する

調整後は運転席に座って、後方確認が十分できることを確認してください。



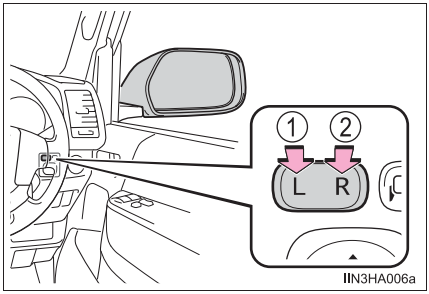
▶ 電動タイプ

スイッチで鏡面の角度調整をします。

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

① 左

② 右



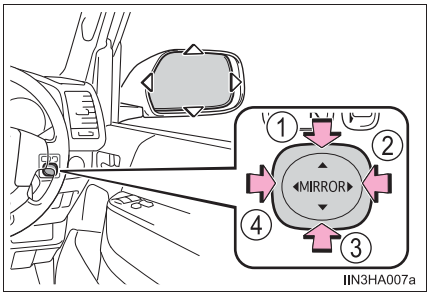
2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを押す

① 上

② 右

③ 下

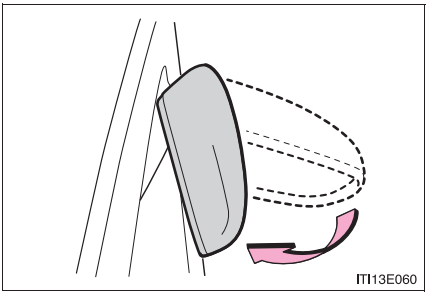
④ 左



アウターミラーを格納する

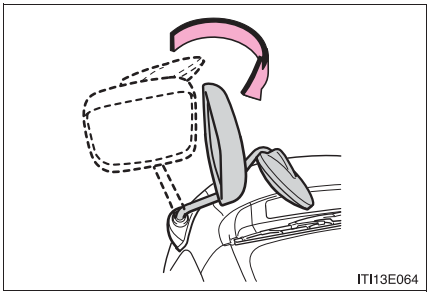
▶ 手動タイプ

運転席側：



手で後方に押して格納する

助手席側：



手で前方に押して格納する

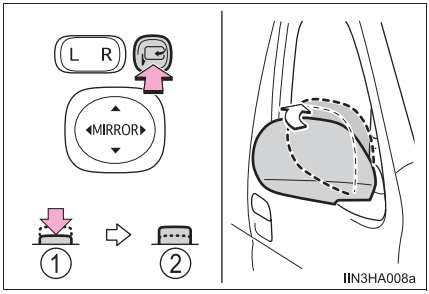
▶ 電動タイプ

ボタンを押してアウターミラーを格納する

① 格納状態

② 復帰状態

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



知識

■作動条件（電動タイプ）

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ ACC ”または“ ON ”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 259, 265）

⚠ 警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ミラーの調整をしない
- ●ミラーを格納したまま走行しない
- ●走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき（電動タイプ）

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

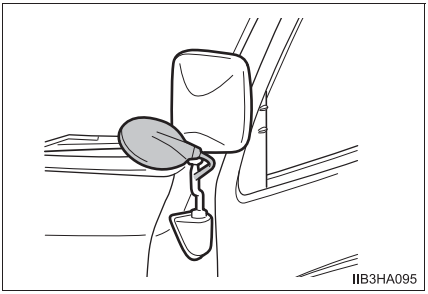
鏡面が熱くなるのでふれないでください。

補助ミラー

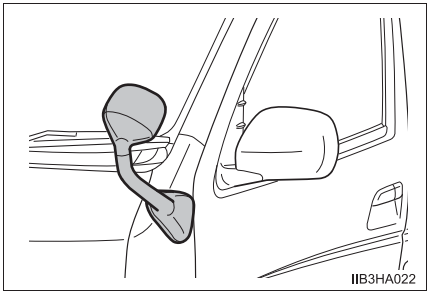
フロントアンダーミラー

発進時またはごく低速時に、車両前面を確認するときに役立ちます。

▶ 電動アウターミラー非装着車



▶ 電動アウターミラー装着車

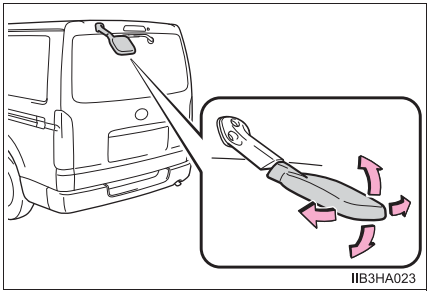


リヤアンダーミラー★

後退時の視界確保に貢献します。

ミラー全体を手で動かして調整する

調整後は運転席に座って、後方確認が十分できることを確認してください。



⚠ 注意

■補助ミラーについて

- 補助ミラーの鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は直接確認するか、インナーミラー・アウターミラーなども併用し十分注意して行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーウインドウ

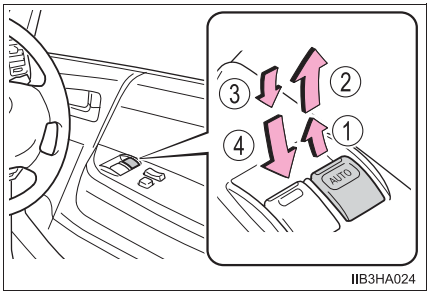
調整のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

① 閉める
② 自動全閉（運転席のみ）※
③ 開ける
④ 自動全開（運転席のみ）※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

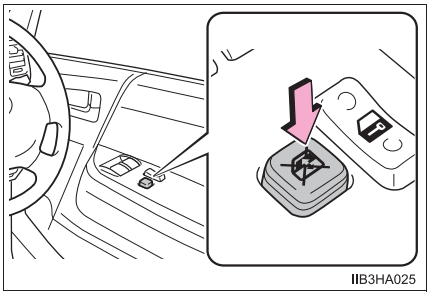


IIB3HA024

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、助手席のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。


IIB3HA025

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ ON ”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン OFF 後の作動（運転席ドアガラスのみ）

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ ACC ”または“ LOCK ”にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能（運転席ドアガラスのみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ドアガラスを閉じることができないときは（運転席ドアガラスのみ）

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉じることができないときは、パワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジンスイッチを“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）の状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉じない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 エンジンスイッチを“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にする

2 半分までドアガラスを開ける

3 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けてドアガラスを全閉し、そのままスイッチを約 1 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーを再接続したときは

運転席ドアガラスの自動開閉や挟み込み防止機能などが作動しなくなります。
パワーウインドウを適切に作動させるために、下記の初期設定を行ってください。

1 半分まで運転席のドアガラスを開ける

2 スイッチを引き上げて運転席のドアガラスを全閉し、そのままスイッチを 11 秒間保持する

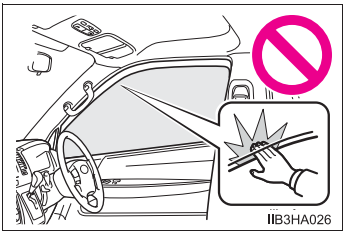
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するときは

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 142）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●車から離れるときはエンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能（運転席ドアガラスのみ）

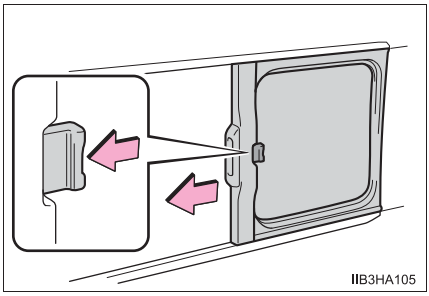
●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

スライド式リヤサイドガラス★

開けるときは、ノブを押してロックをはずし、ガラスをスライドさせる

ガラスの開度は、3 段階から選択できます。
操作後は、ガラスが確実に固定されたことを確認してください。



⚠ 警告

■スライド式リヤサイドガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤサイドガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、リヤサイドガラスの操作をさせないでください。
リヤサイドガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

運転 4

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 148
荷物を積むときの注意..... 161

4-2. 運転のしかた
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）..... 163
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）..... 167
オートマチックトランスミッション..... 173
マニュアルトランスミッション..... 180
方向指示レバー 182
パーキングブレーキ..... 183

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ..... 184
フォグランプスイッチ 187
ワイパー & ウォッシャー（フロント）..... 190
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）..... 193

4-4. 給油のしかた
給油口の開け方..... 195

4-5. 運転支援装置について
バックモニター..... 199
運転を補助する装置..... 210
排出ガス浄化装置（ディーゼル車）..... 212

4-6. 運転のアドバイス
寒冷時の運転..... 217

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 163, 167

発進する

▶ オートマチック車

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 173）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 183）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

▶ マニュアル車

1 クラッチペダルを踏んだまま、シフトレバーを 1 速にする（→ P. 180）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 183）

3 クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

▶ オートマチック車

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→ P. 173）

▶ マニュアル車

1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを N にします。（→ P. 180）

駐車する

▶ オートマチック車

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 183）、シフトレバーを P にする（→ P. 173）

3 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジンスイッチを“ LOCK ”にしてエンジンを停止する

スマートエントリー&スタートシステム装着車：
エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

4 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止めを使用してください。（→ P. 370）

▶ マニュアル車

1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む

2 シフトレバーを N にする（→ P. 180）

3 パーキングブレーキをかける（→ P. 183）

4 エンジンスイッチを“ LOCK ”にしてエンジンを停止する

5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じてシフトレバーを 1 速または R にし、輪止めを使用してください。（→ P. 370）

上り坂の発進のしかた

▶ オートマチック車

1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し、発進する

▶ マニュアル車

1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを 1 速にする

2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し、発進する

知識

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について（オートマチック車）

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

■運転者標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

■エンジン停止前のアイドリング運転について（ディーゼル車）

ターボ装置の損傷を防ぐため、高速走行・登坂走行直後は、アイドリング運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況		アイドリング運転時間
市街地などの一般走行		不要
高速走行	約 80km/h 定速	約 20 秒
	約 100km/h 定速	約 1 分
山岳ドライブウェイなど急な登坂、または 100km/h 以上の連続走行		約 2 分

■環境に配慮した運転（オートマチック車）

▶アナログメーター

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

●エコドライブインジケーターランプは、次の条件のときに作動します。

・シフトポジションが D で走行中
・スノーモード★（→ P. 176）を使用していないとき
・車速が約 100km/h 以下のとき

●エコドライブインジケーターランプの作動／非作動を設定できます。（→ P. 63）

▶オプティトロンメーター
→ P. 69

■エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、メーター内のブレーキオーバーライドシステム警告灯（→ P. 356）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイ（オプティトロンメーター装着車）にメッセージ（→ P. 360）が表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき（オートマチック車）

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 344を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 175, 180）

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 走行中はハンドル・シート・アウターミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
  やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
  また 4WD 車でも、この車は本格的なオフロード走行を目的とした車両ではありません。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
  電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
  急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

- オートマチック車では、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。（オートマチック車）
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
  シフトレバーが P（オートマチック車）または N 以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。
パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
  シフトレバーが P（オートマチック車）または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをP(オートマチック車）にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをP（オートマチック車）にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。特にディーゼル車は高温になる場合がありますので、注意してください。（→P. 212）

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また、制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したとき（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■運転しているとき（オートマチック車）

- ●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■運転しているとき（マニュアル車）

- ●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- ●クラッチペダルを確実に踏み込んでいない状態で、シフトレバーを操作しないでください。クラッチやトランスミッションが損傷するおそれがあります。
- ●クラッチの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・クラッチペダルに足を乗せたまま走行しない
  - ・1 速以外での発進は避ける
  - ・坂道発進時など、必要以上に半クラッチのままで走行しない
- ●車がまだ動いているときに R に入れないでください。
  クラッチ・トランスミッション・ギヤに損傷を受けるおそれがあります。

■駐車するとき（オートマチック車）

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- ●パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

⚠ 注意

■ ターボ装置の故障を防ぐために（ディーゼル車）

- 高速走行・登坂走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドリング運転を行い、ターボ装置を冷却してからエンジンを停止してください。（→ P. 151）
- 排気管などには指定以外の部品を使わないでください。
- 排気管の改造は絶対にしないでください。
- エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。
- 定期的なオイル交換を必ず行ってください。（→ P. 403）

■ クラッチがすべっていると感じたら（マニュアル車）

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。
クラッチをつないだ状態でアクセルペダルを踏み込んでも加速できない場合、クラッチがすべっている可能性があり、走行不能になるおそれがあります。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 367 を参照してください。

⚠ 注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- 電動ファンシステム
- エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- ●燃料が入った容器
- ●スプレー缶

■荷物を積むときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、クラッチペダル（マニュアル車のみ）・ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●できるだけ荷物は荷室に積んでください。
- ●次の場所には荷物を積まないでください。
  - ・運転席足元
  - ・助手席・フロント中央席★・リヤ席★（荷物を積み重ねる場合）
  - ・インストルメントパネル
  - ・ダッシュボード
- ●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- ●セパレーターバー装着車は、セパレーターバーを取りはずした状態で、荷室に荷物を絶対に積まないでください。
  急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。また、セパレーターバーを取りはずしたまま走行すると、不正改造になります。
- ●寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ●荷室に人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
  乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
  お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

エンジンのかけ方

▶ オートマチック車

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

4 エンジンスイッチをまわす

ガソリン車：“START”の位置にまわします。

ディーゼル車：“ON”の位置までまわし、（予熱表示灯）が点灯後消灯したら“START”の位置にまわします。

▶ マニュアル車

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーがNの位置にあることを確認する

3 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏む

4 エンジンスイッチをまわす

ガソリン車：“START”の位置にまわします。

ディーゼル車：“ON”の位置までまわし、（予熱表示灯）が点灯後消灯したら“START”の位置にまわします。

エンジンスイッチの位置の切りかえ

① “ LOCK ”（OFF）
- ステアリングロックがかかります。
- キーを抜き挿しすることができます。
（オートマチック車は、シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しできます）

② “ ACC ”

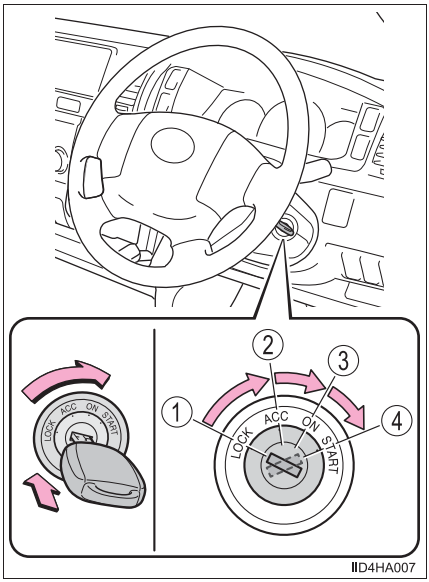
アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

③ “ ON ”

すべての電装品が使用できます。

④ “ START ”

エンジンが始動できます。

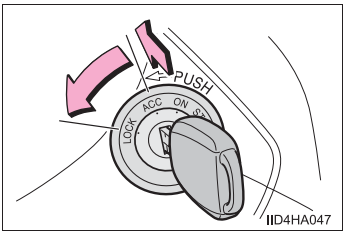


知識

■キーを“ ACC ”から“ LOCK ”にまわすには

1 シフトレバーが P（オートマチック車）または N（マニュアル車）の位置にあることを確認する

2 キーを押し込みながら“ LOCK ”までまわす



■エンジンが始動しないときは（エンジンイモビライザーシステム装着車）

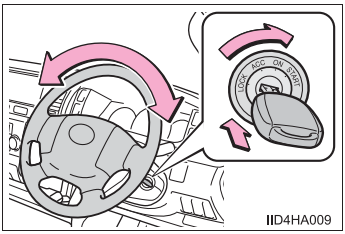
エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
（→ P. 49）
トヨタ販売店へご連絡ください。

■クラッチスタートシステム（マニュアル車）

クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンスイッチを“ START ”の位置にまわしても、安全のためエンジンが始動しません。

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。



■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジンスイッチが“ ACC ”または“ LOCK ”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

■極寒時のエンジン始動について（ディーゼル車）

極寒時は約 30 秒を限度に、エンジンが始動するまでエンジンスイッチをまわし続けてください。約 30 秒スターターをまわしても始動しないときは、エンジンスイッチを“ ACC ”にもどし、約 20 秒以上待ってから再始動してください。

⚠ 警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。
緊急時、走行中にエンジンを停止したい場合には“ACC”にしてください。
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
（→P. 344）

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■予熱表示灯について（ディーゼル車）

- 予熱表示灯が消灯してからエンジンを始動してください。消灯する前に始動操作を行うと、バッテリーの寿命に悪影響をおよぼします。
- 予熱表示灯の点灯時間は、エンジンが冷えていると長くなります。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーがＰの位置にあることを確認する

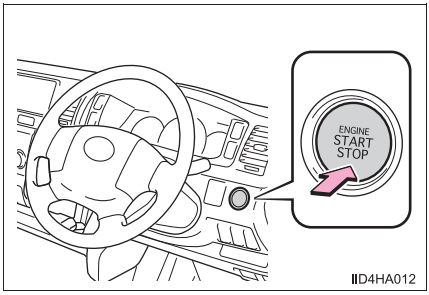
3 ブレーキペダルをしっかり踏む

スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

4 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。
エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



ディーゼル車：（予熱表示灯）が点灯後消灯したらエンジンが始動します。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

エンジン停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 183）、シフトレバーを P の位置にする

3 エンジンスイッチを押す

4 ブレーキペダルから足を離した状態にしてスマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

エンジンスイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

① OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

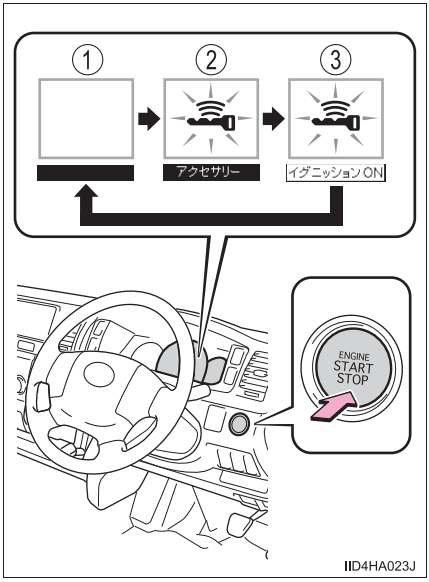
スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。



シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P の位置にする

3 スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す

4 スマートエントリー&スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

知識

■電子キーの検知に関する留意事項

電子キーはポケットなどに携帯してください。

電子キーがフロア上、ダッシュボード上、オープントレイ内、カップホルダー内、荷室内などにあるときは、スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しません。また、リヤシート上にある場合も、正常に作動しないことがあります。（作動範囲：→ P. 104）

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンスイッチの操作について

スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジン始動ができない場合があります。

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 107

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 105

■ご留意いただきたいこと

→ P. 106

■エンジンが始動しないとき

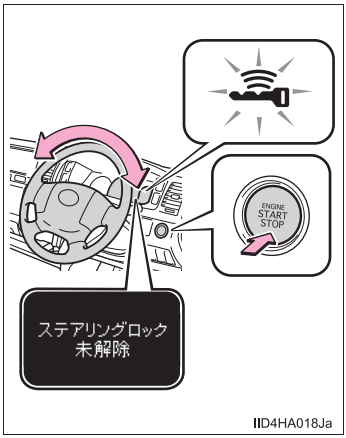
エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→ P. 49)
トヨタ販売店へご連絡ください。

■ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色に速く点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジン始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■スマートエントリー&スタートシステム表示灯が黄色に点滅およびマルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステムチェック」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 318

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 388

⚠ 警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 344)
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンスイッチの操作を行った場合、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジンスイッチを押し続けるとエンジン非常停止」が表示され、警告音が吹鳴します。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーがP以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーがP以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

■ エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

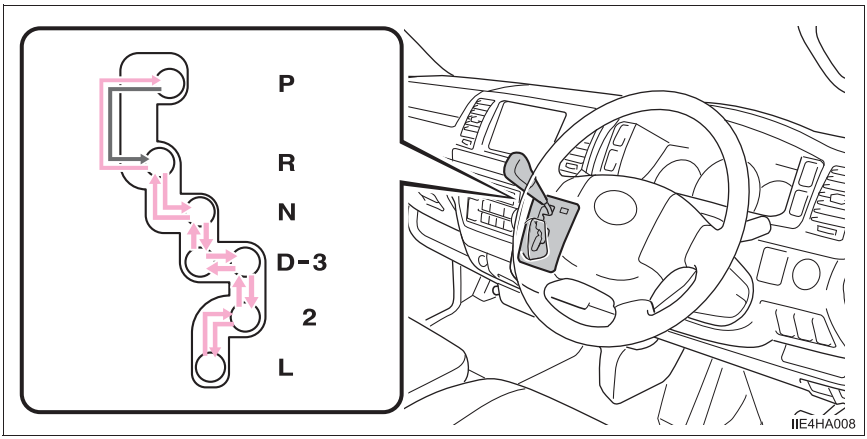
■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション★

シフトレバーの動かし方

▶ 4 速オートマチック車



スマートエントリー&スタートシステム非装着車：

⬅ エンジンスイッチが“ ON ”の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

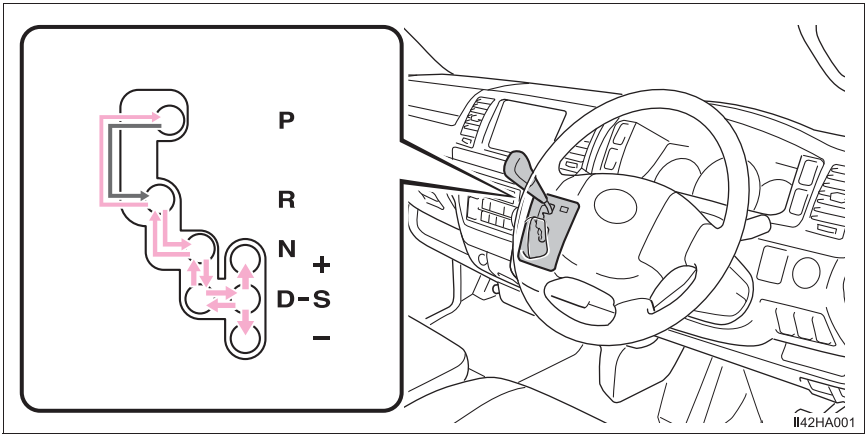
スマートエントリー&スタートシステム装着車：

⬅ エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 6 速オートマチック車



スマートエントリー&スタートシステム非装着車：

エンジンスイッチが“ ON ”の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：

エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的	
	4 速オートマチック車	6 速オートマチック車
P	駐車またはエンジン始動・停止	
R	後退	
N	動力が伝わらない状態	
D	通常走行※ 1	
S	−	S モード走行※ 2 （→ P. 176）
3	坂道走行	−
2	下り坂走行	−
L	急な下り坂走行	−

※ 1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※ 2 S モードではエンジンブレーキ力の選択が可能です。また、D ポジションにくらべエンジン回転数を高く制御するため、加速応答性が向上します。

S モードでのシフトレンジ切りかえ（6 速オートマチック車）

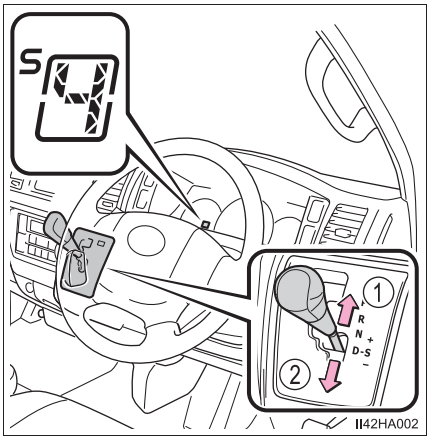
シフトレバーが S の位置にあるとき、シフトレバーを次のように操作できます。

① シフトアップ

② シフトダウン

1 ～ 6 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは、車速に応じて 5 または 4 レンジに設定されます。
ただし、D ポジションにて AI-SHIFT 制御中はそれに従い、初期のシフトレンジが3レンジになる場合があります。
(→ P. 178)



■ シフトレンジ機能

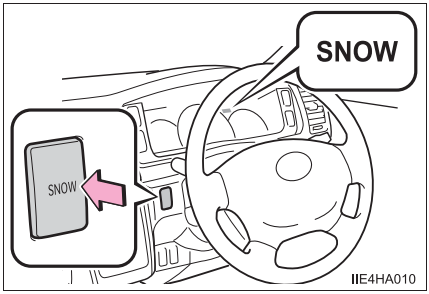
- エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字の小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

スノーモードの選択★

雪道などすべりやすい路面での発進時に選択します。

スノーモードスイッチを押す

もう一度押すと、解除されます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤動作を防ぐシステムです。エンジンスイッチが “ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または、イグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし、一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロック解除のしかた：

1 パーキングブレーキをかける

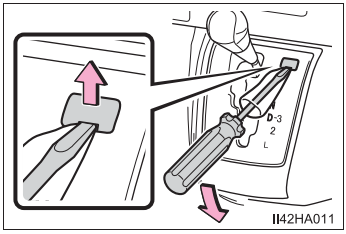
2 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジンスイッチを “ LOCK ”にする

スマートエントリー&スタートシステム装着車：
エンジンスイッチを OFF にする

3 ブレーキペダルを踏む

4 マイナスドライバーなどを使ってカバーをはずす

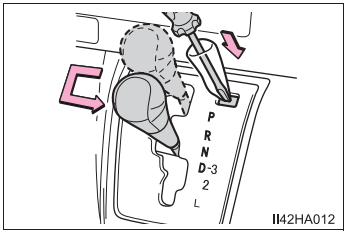
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



II42HA011

5 ドライバーの先などでシフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



II42HA012

■S モードについて

4 レンジ以下のとき、シフトレバーを“+”側へ保持すると 6 レンジに設定されます。

■シフトレバーを S にしても“ S ”が点灯しないときは（6 速オートマチック車）

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■シフトダウン制限警告ブザー（S モード走行時）

6 速オートマチック車は、安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

■スノーモードの自動解除★

スノーモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■AI-SHIFT について★

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤに切りかえます。
AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに、自動的に作動します。（シフトレバーを S ポジションにすると、機能が解除されます。）

■オートマチックトランスミッション保護機能（6 速オートマチック車）

ぬかるみや砂地・雪道などでスタックしてタイヤが空転する状態が続くときや、走行時にアクセルペダルをくり返し踏んだり離したりする状況が続くと、トランスミッションが高温になり損傷するおそれがあります。
このとき、トランスミッションが損傷しないように、ギヤが一時的に固定される場合があります。
トランスミッションの温度が下がるとギヤの固定は解除され、通常作動に戻ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ すべりやすい路面では

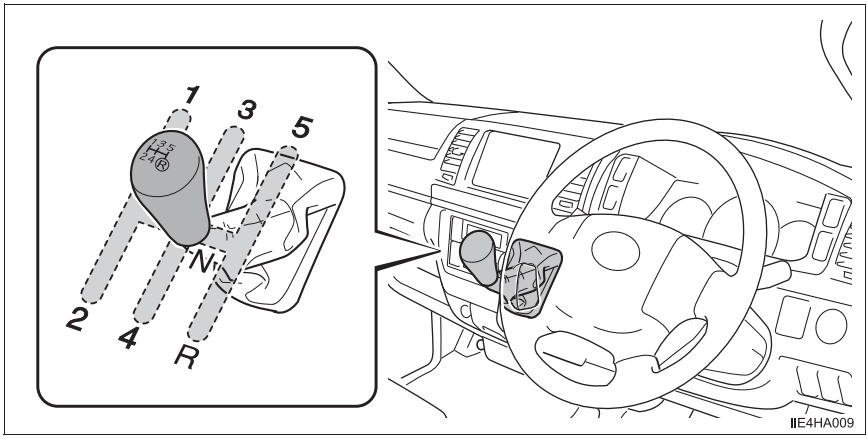
急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

マニュアルトランスミッション★

シフトレバーの動かし方



クラッチペダルをしっかり踏み、シフトレバーをゆっくり操作します。

誤操作を防ぐため、5 速から R へは直接入れることができません。
いったん N にしてから R に入れます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■各シフト位置の速度限界

エンジンを過回転させないために各シフト位置での速度が次に記載してある数値をこえないようにしてください。

シフト位置	最高速度（km/h）	
	1TR-FE エンジン	1KD-FTV エンジン
4	160	130
3	105	90
2	60	55
1	35	30

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

① 左折

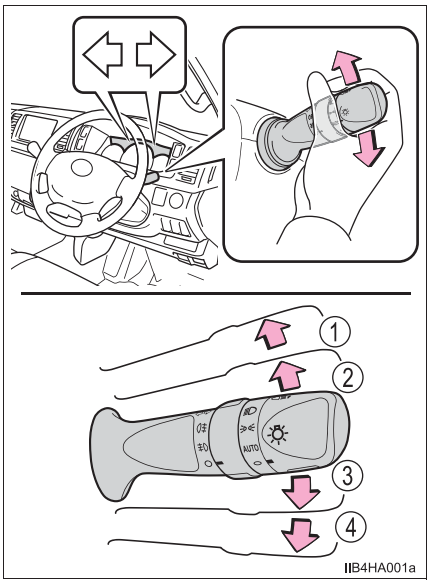
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折



知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ ON ”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

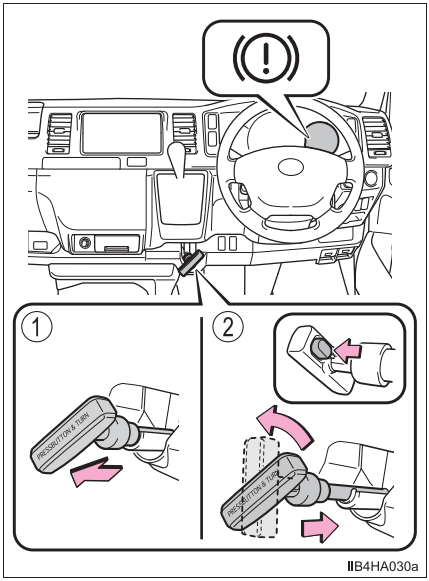
方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

① パーキングブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く

② パーキングブレーキを解除するには、レバー裏側にあるボタンを押しながら左にまわし完全に奥までもどす



知識

■駐車するとき

→P. 149

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P. 217

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動★または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

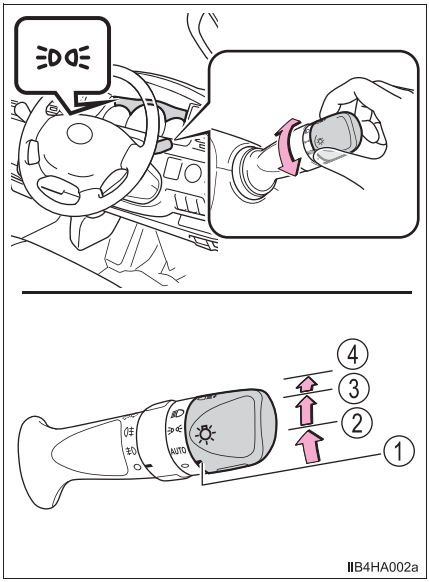
① ○　消灯

② AUTO　ヘッドランプ・車幅灯などを自動点灯・消灯（コンライト※装着車）

※ エンジンスイッチが“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、またはイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）のときに使用できます。

③ 車幅灯・尾灯・番号灯を点灯

④ 上記ランプとヘッドランプを点灯



IIB4HA002a

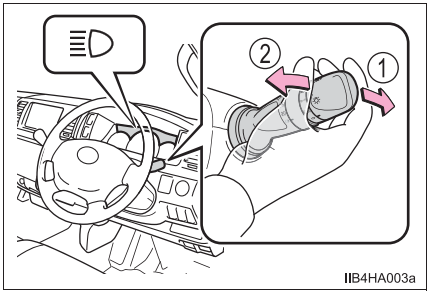
ハイビームにする

① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



IIB4HA003a

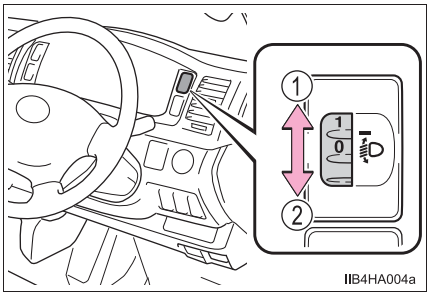
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

① 上向きに調整

② 下向きに調整



■ 目盛り設定の目安

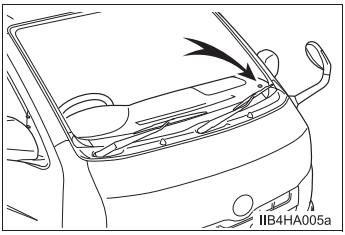
乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員およびフロント中央席乗員※	ラゲージルーム満載時	3

※ フロント中央席装着車のみ

知識

■ライトセンサー（コンライト装着車）

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

ランプ点灯時、エンジンスイッチを“ ACC ”または“ LOCK ”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、またはエンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF（スマートエントリー & スタートシステム装着車）にして運転席ドアを開けると、ヘッドランプと尾灯などが消灯します。
再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを“ ON ”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、またはエンジンスイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー & スタートシステム装着車）にするか、一度ランプスイッチを O にもどし、再度 または の位置にします。

ただし、ランプスイッチを O にもどし、再度ランプを点灯させ、エンジンスイッチからキーを抜く（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、またはエンジンスイッチを OFF スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にして運転席ドアを開けた場合は、ランプ類の消し忘れを防止するブザーが鳴ります。
（コンライト装着車は、ランプ点灯時に作動します）

■オートレベリングシステム（LED ヘッドランプ装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P. 413）

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

フォグランプスイッチ★

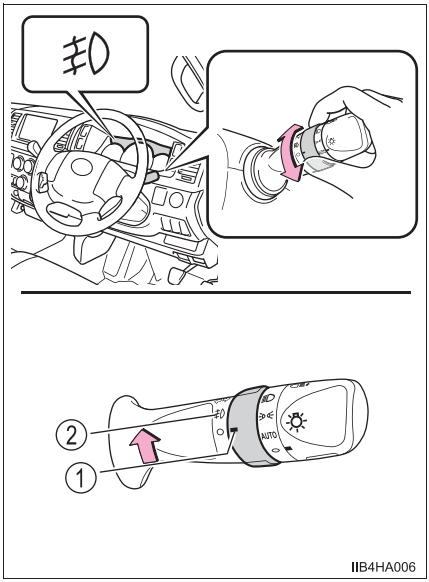
雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

▶ フロントフォグランプ装着車

① O 消灯する

② 点灯する



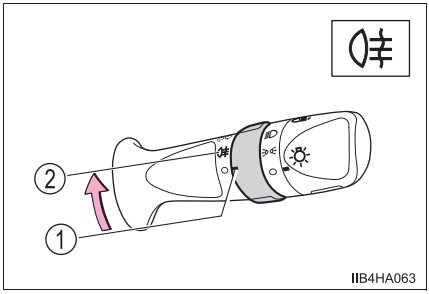
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ リヤフォグランプ装着車

① ○ 消灯する

② 点灯する

手を離すと ○ の位置までもどります。
再度操作すると消灯します。



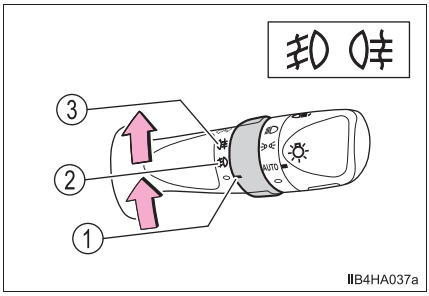
▶ フロント&リヤフォグランプ装着車

① ○ 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ リヤフォグランプを点灯する

手を離すと の位置までもどります。
再度操作すると消灯します。



知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：ヘッドランプまたはフロントフォグランプ（装着車）が点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプについて

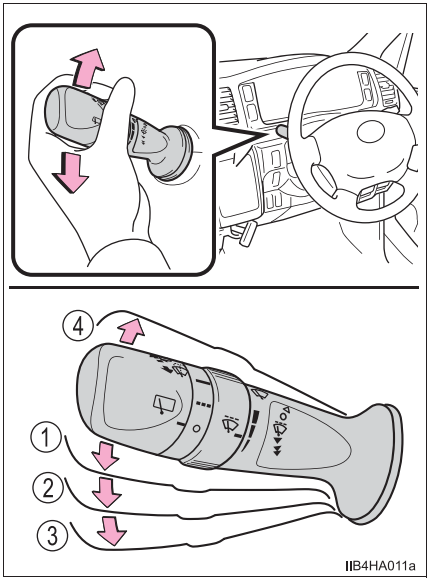
- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

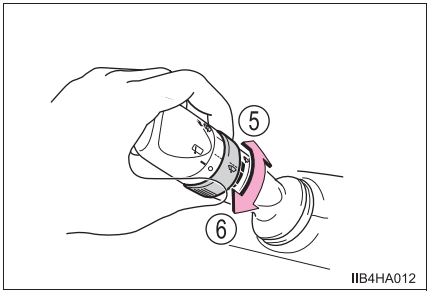
次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

① 間欠作動
② 低速作動
③ 高速作動
④ 一時作動



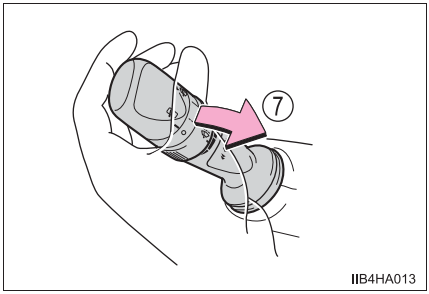
間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。（間欠時間調整式ワイパー装着車）

⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（増）
⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（減）



⑦ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。



知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ ON ”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ フロントガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）★

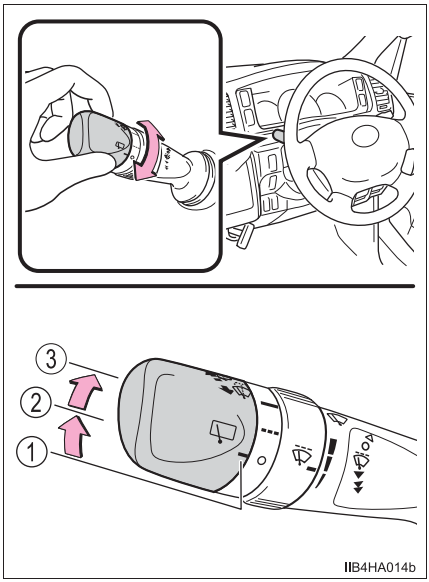
操作のしかた

次のようにレバーの端をまわして、ワイパーの作動を選択します。レバーを前方へ押すと、ウォッシャー液を出すことができます。

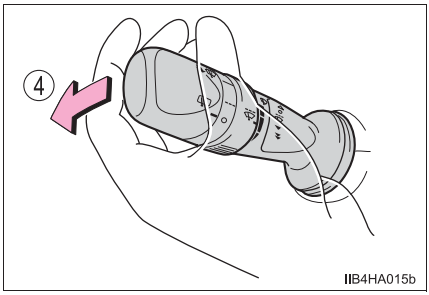
① o 停止

② - - - 間欠作動

③ ― 通常作動



④ ウォッシャー液を出す



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ ON ”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- すべてのドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを“ LOCK ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

▶ガソリン車

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

▶ディーゼル車

超低硫黄軽油（S10ppm 以下）

■バイオ混合ガソリンについて

ガソリン車は、エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

⚠ 警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
  静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意

■給油するとき

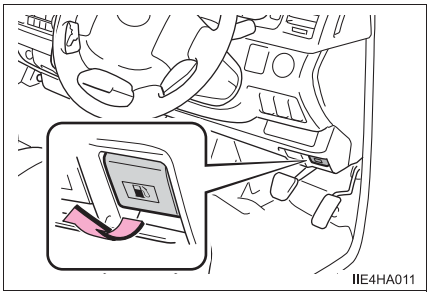
指定のガソリン・軽油を使用してください。
指定以外のガソリンまたは軽油や、他の燃料（粗悪ガソリン・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する
- 排出ガス浄化装置が正常に機能しない（ディーゼル車）
  指定以外の軽油を補給すると、白煙が発生し続ける場合があります。また、排出ガス浄化装置の故障につながるおそれがあります。

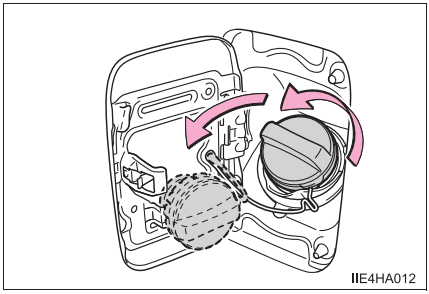
※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22% をこえるもの

給油口の開け方

1 オープナーを引いて、給油扉を開ける



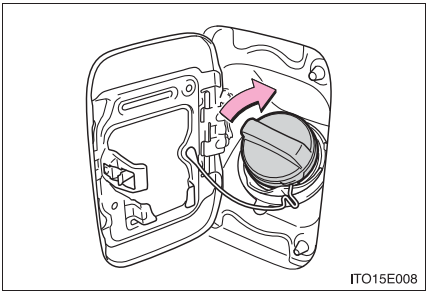
2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠ 警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

バックモニター★

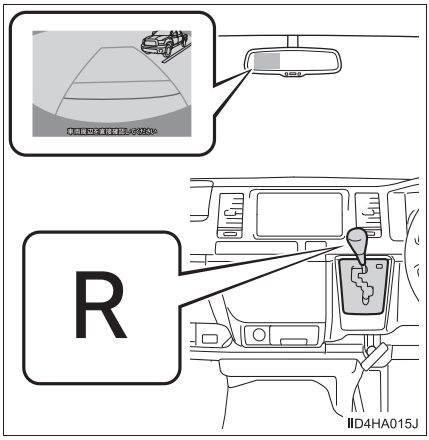
車両後方の映像とガイド線をモニター画面に映し出し、駐車時などの後退操作を補助する装置です。

本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

エンジンスイッチが“ ON ”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、またはイグニッション ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）のとき、シフトレバーを R にすると、バックモニターの画面が表示されます。

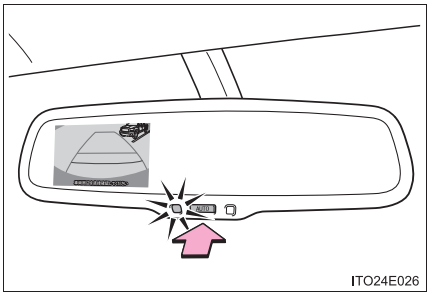
次のとき、バックモニターの画面が解除されます。

・ シフトレバーを R 以外にしたとき
・ バックモニターの画面を表示して、5 分が経過したとき



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

画面の表示／非表示



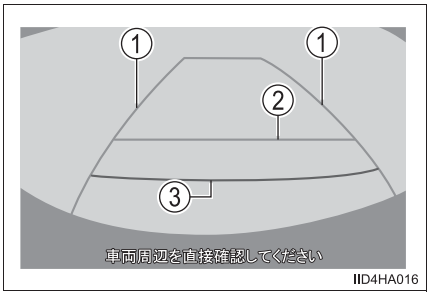
バックモニターの画面が表示されているとき、インナーミラーのAUTO ボタンを押して、画面の ON モードと OFF モードを切りかえることができます。

ON モード：画面が表示され、緑色のインジケーターが点灯します。

OFF モード：画面が非表示になり、橙色のインジケーターが点灯します。

エンジンスイッチを“ LOCK ”から“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または OFF から ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にすると、バックモニターの画面は ON モードになります。

画面の見方について



ガイド線は画面に表示されます。
ガイド線は車両や路面の状況により、誤差を生じることがあります。

① 車幅延長線（青色）
車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示します。
実際の車幅より広く表示します。

② 距離目安線（青色）
バンパー後端から約1m先を示します。

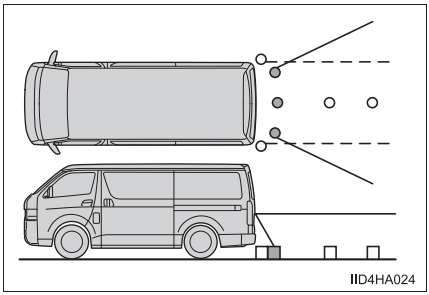
③ 距離目安線（赤色）
バンパー後端から約 0.5m 先を示します。

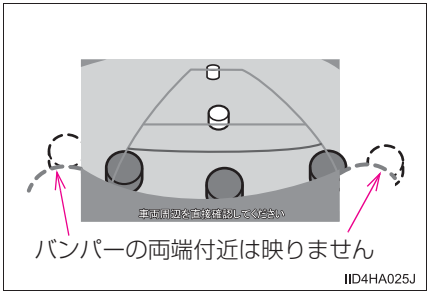
バックモニターの注意点について

■ 画面に映る範囲について

バックモニターは、バンパー後端から車の後方が映ります。

・車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
・バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
・カメラのレンズの特性により、画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
・カメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。
・字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。

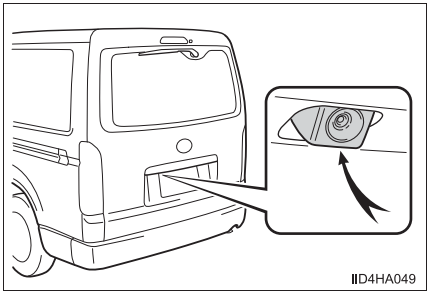

IID4HA024



IID4HA025J

■ カメラについて

バックモニターのカメラは、ナンバープレートの左上側にあります。


IID4HA049

● カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像をみることができません。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。

■ 画面と実際の路面との誤差について

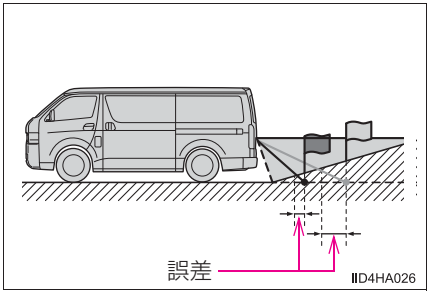
距離目安線や車幅延長線と駐車スペースの区画線が画面では平行に見えても、実際は平行ではないことがあります。必ず直接確かめてください。

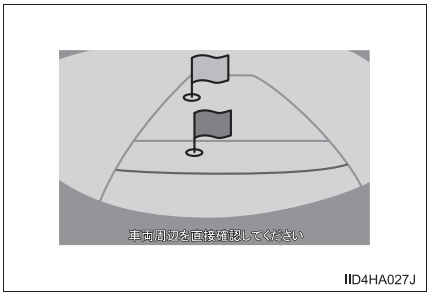
車幅延長線と駐車スペース左右の区画線の間隔が画面では左右均等に見えても、実際は左右均等ではないことがあります。必ず直接確かめてください。

距離目安線は、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、次の状態のときは、画面のガイドと実際の路面上の距離・進路に誤差が生じます。

● 急な上り坂が後方にあるとき

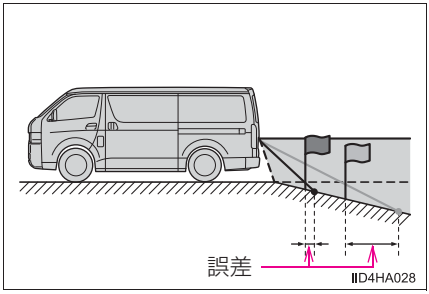
実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂にある障害物は実際より遠くにあるように見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。

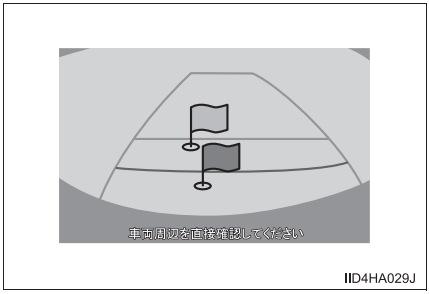




● 急な下り坂が後方にあるとき

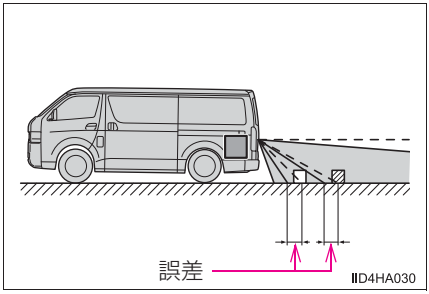
実際の距離よりうしろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂にある障害物は、実際より近くにあるように見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。





● 車が傾いているとき

乗車人数、積載量などにより車が傾いているときは、実際の距離、進路と誤差が生じます。

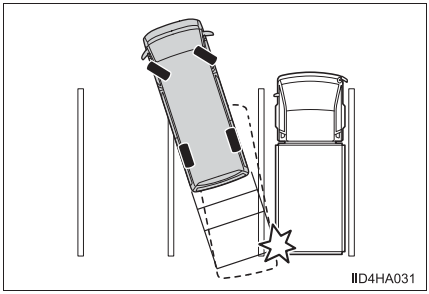


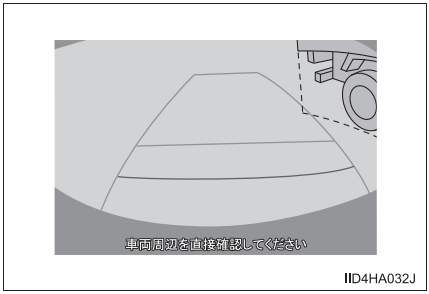
■ 立体物が近くにあるとき

車幅延長線・距離目安線は路面に対して表示されているため、立体物の距離を判断することができません。張り出しのある立体物（トラックの荷台のような障害物）が近くにあるときは、次のことにご注意ください。

● 車幅延長線について

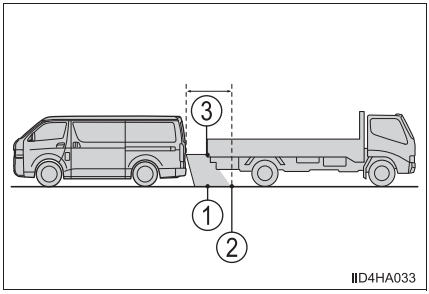
後方や周囲の安全を直接確認してください。画面では、トラックの荷台が車幅延長線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際は荷台が進路上に張り出しているためぶつかることがあります。



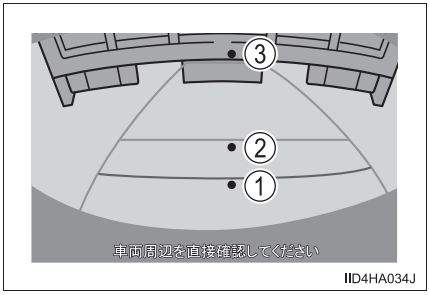


● 距離目安線について

後方や周囲の安全を直接確認してください。画面では、距離目安線により②の位置にトラックが駐車してあるように見えますが、実際には①の位置まで後退すると、ぶつかります。画面では①、②、③の順に近く見えますが、実際の距離は①と③は同じ距離で、②は①と③より遠い距離にあります。



IID4HA033



IID4HA034J

知っておいていただきたいこと

■ 故障とお考えになる前に

下記のような症状になったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。
処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

考えられる原因	処置
❑ 画面が見にくい	
・夜間など暗いところで使用するとき ・レンズ付近の温度が高い、または低いとき ・外気温が低いとき ・カメラに水滴が付いたとき ・雨天時など湿度が高いとき ・カメラ付近に異物（泥など）が付いたとき ・カメラにすり傷が付いたとき ・白壁や明るいものが画面に映り込んだとき ・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたったとき ・蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明下で使用したとき	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、バックモニターをご使用ください）
❑ 画面が不鮮明	
カメラのレンズに水滴・雪・泥など異物や汚れが付着しているとき	大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。
❑ 画面がずれている	
カメラ部に強い衝撃が加わったとき	トヨタ販売店で点検を受けてください。
❑ ガイド線が大きくずれる	
カメラの位置がずれているとき	トヨタ販売店で点検を受けてください。
・車が傾いているとき（重い荷物の積載やパンクしてタイヤ空気圧が低いときなど） ・傾斜地で使用するとき	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。

知識

■バックモニターを使用するときは

インナーミラーの防眩機能が解除されます。

■バックモニターの設定について

エンジンスイッチが“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、またはイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）かつシフトレバーが R のとき、下記の設定ができます。

●画面を継続的に非表示にするには

AUTO ボタンを 12 秒以上押し続けると、次のように画面が切替り、画面が継続的に非表示になります。

・ ボタンを押し続けると、画面が非表示になり、約 6 秒後にいったん画面が表示されます。それから約 6 秒後に画面が非表示になり、インジケーターが橙色に点灯します。
・ エンジンスイッチを“ LOCK ”から“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または OFF からイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にしても画面が表示されなくなります。

●画面を表示するには

AUTO ボタンを押します。（インジケーターが緑色に点灯します）

⚠ 警告

■バックモニターを使用するときは

後退するときは、必ず目視やミラーなどで後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に後退してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックモニターは、後退操作を補助する装置です。バックモニターを過信しないでください。
  とくに周辺に駐車している車や障害物などに接触しないようにしてください。
- 画面だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。
  画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て後退すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 後退するときは、ブレーキペダルを踏んで速度調整しながら、ゆっくり後退してください。
- 駐車時の道路事情・路面や車の状況などにより、ハンドル操作のタイミング・操作量は異なります。十分理解したうえで、バックモニターをご使用ください。
- 駐車するときは、必ず駐車スペースに車を駐車できるかを確認してから後退してください。
- 次のような状況では、使用しないでください。
  - ・雪道、凍結した道などのすべりやすい路面
  - ・タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき
  - ・バックドアが完全に閉まっていないとき
  - ・カーブや坂道など平坦・まっすぐではない道路
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れたりすることがあります。とくに動いている物の映像が歪む、または画面から見えなくなることがあります。
- タイヤサイズを変更した場合、画面に表示されるガイド線の位置に誤差が生じることがあります。
- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。（→ P. 201）

⚠ 警告

■駐車するとき

●乗車人数・積載量などにより、画面のガイド線の示す位置は変わります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

●車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

⚠ 注意

■カメラの取り扱いについて

●バックモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけたりして、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
・カメラのカバーは樹脂でできていますので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

知識

■ABS・ブレーキアシストの作動音と振動

- ●エンジン始動時や発進直後、ブレーキをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- ●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - ・車体やハンドルに振動を感じる
  - ・車両停止後もモーター音が聞こえる
  - ・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
  - ・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

⚠ 警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪で覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 409）
異なったタイヤを装着すると、ABS など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

排出ガス浄化装置（ディーゼル車）

排出ガス浄化装置内のフィルターに捕集したススが一定量堆積すると、自動的にススを燃焼（再生）処理します。

◆ 燃焼（再生）処理について

- 一般走行では数百km※走行するごとに、自動で捕集したススの燃焼処理が行われます。
- ススが規定量以上になったとき、スイッチ操作で燃焼処理を行うことができます。

※ 気候や走行状況等により異なります。

◆ 排出ガス浄化装置について

排出ガス浄化装置には、次のような特徴があります。

- 燃焼処理中はアイドリング回転数が上がる
- 排気ガスの臭いが従来のディーゼル車とは異なる
- 始動時や燃焼処理中に、排気管から白い煙（水蒸気）が出る場合がある
- 燃焼処理中は作動音（シューという音）が出る場合がある
- 燃焼処理中は加速が悪くなる場合がある

排出ガス浄化装置堆積モニターについて

アナログメーター装着車はメーター内、オプティトロンメーター装着車は、マルチインフォメーションディスプレイ内の表示でススの堆積量を確認することができます。

ススが堆積して目盛りがいっぱいになる前に、排出ガス浄化スイッチの作動表示灯と、メーター内の（排出ガス浄化装置警告灯）が点滅します。点滅を確認したら、必ずススの燃焼（再生）処理をしてください。（→ P. 214）

① 多い

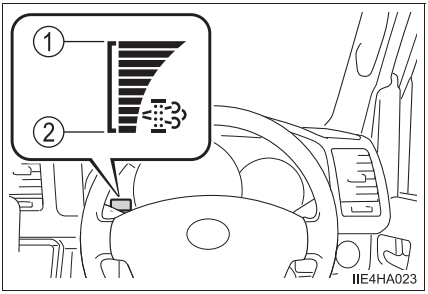
目盛りがいっぱいになると、メーター内の（エンジン警告灯）が点灯し、（排出ガス浄化装置警告灯）が点灯します。

万一、（エンジン警告灯）が点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。（→ P. 216）

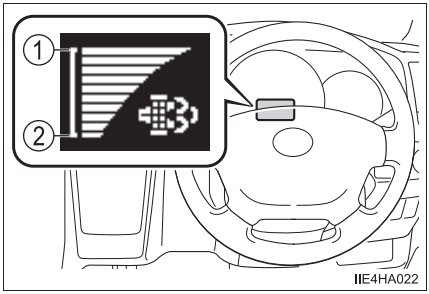
② 少ない

ススの堆積量が一定量未満のときは、いちばん下の目盛りも表示されません。

▶ アナログメーター



▶ オプティトロンメーター



排出ガス浄化装置警告灯が点滅したときは

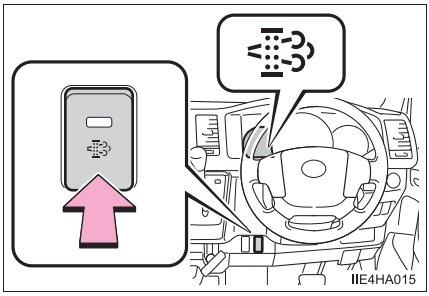
排出ガス浄化スイッチの作動表示灯とメーター内の（排出ガス浄化装置警告灯）が点滅したときは、次の手順で燃焼処理を行ってください。

1 車を安全な場所に停車する

2 パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は N にする

エンジンは停止しないでください。
また、排気管の周辺に可燃物等がないことを確認してください。（→ P. 215）

3 排出ガス浄化スイッチを押す



スイッチの作動表示灯とメーター内の排出ガス浄化装置警告灯が点滅から点灯にかわり、アイドリング回転数が上がります。

燃焼（再生）処理が終了するまでに、約 15 ～ 40 分※程度の時間が必要です。

排出ガス浄化装置警告灯が消灯して、アイドリング回転数がもとにもどれば終了です。

※ 外気温により異なります。

知識

■燃焼処理について

●排出ガス浄化スイッチを押したあとは、オートマチック車はアクセルペダルを、マニュアル車はアクセルペダル・クラッチペダルを踏まないでください。ペダルを踏むと処理が中断されます。処理が中断されてしまった場合は、すみやかに燃焼処理をやり直してください。

●走行直後など排気管の温度が高いときに行うと、エンジンが冷えているときよりも早く処理が終了します。

■エンジンオイルについて

必ず指定の規格に相当する品質のオイルをご使用ください。（→ P. 403）

■排出ガス浄化装置警告灯について

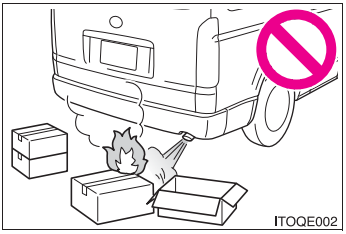
走行距離が短い運転が連続したときや、ひんぱんなアイドリングストップを行った場合などに、通常より早く排出ガス浄化装置警告灯が点滅する場合があります。

⚠警告

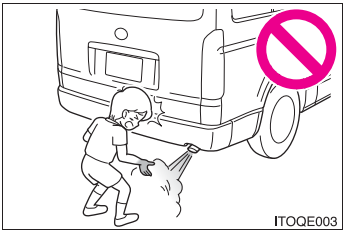
■ススの燃焼（再生）処理中は

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、高温になった排気管・排気ガスによりやけどなどの重大な傷害を受けたり、火災などが発生するおそれがあり危険です。

●排気管周辺に燃えやすいものを置かない


ITOQE002

●排気管周辺に人がいないことを確認する


ITOQE003

●車庫内など囲まれた場所ではススの燃焼処理を行わない

●燃焼処理中は排気管・排気ガスにふれない

⚠ 注意

■排出ガス浄化装置警告灯が点滅したとき

- 点滅が開始してから、約 50km 走行以内に排出ガス浄化スイッチを押して、燃焼処理をしてください。
- 排出ガス浄化装置警告灯が点滅したまま走行を続けると、エンジン警告灯が点灯し、排出ガス浄化装置警告灯も点灯にかわります※。そのまま放置すると、排出ガス浄化装置やエンジンが損傷するおそれがあるため、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ このときは、排出ガス浄化スイッチが機能しなくなります。

■排出ガス浄化装置の故障を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、排出ガス浄化装置やエンジンなどの損傷につながるおそれがあります。

- 排出ガス浄化装置警告灯が点滅したまま長時間走行しない
- 指定以外の燃料を補給しない
- 指定の規格に相当する品質以外のエンジンオイルを使用しない
- 排気管の改造をしない
- 排気管の腐食や亀裂、異音の発生などがないか定期的に点検する
  異常が発見された場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
  - ・燃料（ディーゼル車）
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。

  タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 310）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は下り坂では R、上り坂では 1 速に入れて駐車し、必ず輪止めをしてください。(→ P. 370)
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと※を確認してください。

※ ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- ●安全に作業できる場所で行う
- ●後 2 輪に取り付ける
- ●タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- ●取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- ●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- ●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■ディーゼル車の燃料について

軽油は外気温が低温になると凍結し、燃料配管のつまりなどの故障の原因となります。寒冷地へ行くときは、現地に着くまでに燃料残量を半分以下にしておき、現地に着いたら寒冷地用燃料を補給してください。

使用燃料	使用限界温度の目安※
JIS 2 号軽油	− 5 ℃
JIS 3 号軽油	− 12 ℃
JIS 特 3 号軽油	− 19 ℃

※ 環境や使用状況により異なります。

⚠ 警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●指定サイズのタイヤを使用する
- ●空気圧を推奨値に調整する
- ●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- ●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- ●路面の凹凸や穴を避ける
- ●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- ●カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

⚠ 注意

■ タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

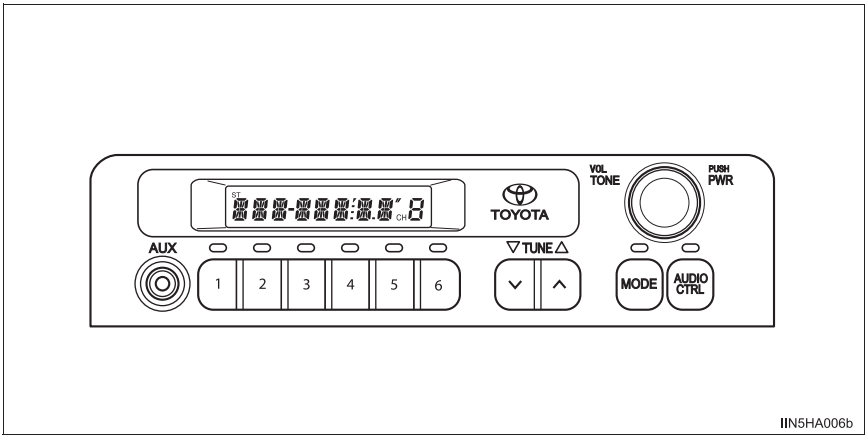
たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

オーディオ 5

5-1. オーディオの基本操作
オーディオの種類.....222
ステアリングスイッチの使い方.....224
AUX 端子／ USB 端子について.....226
5-2. オーディオの使い方
快適に聞くために.....228
5-3. ラジオの使い方
ラジオの使い方.....231
アンテナ.....235
5-4. CD、MP3 ／ WMA の聞き方
CD プレーヤーの使い方.....236
5-5. 外部入力接続機器の使い方
iPod の聞き方.....244
USB メモリーの聞き方.....250
AUX 端子（外部入力接続）の使い方.....256

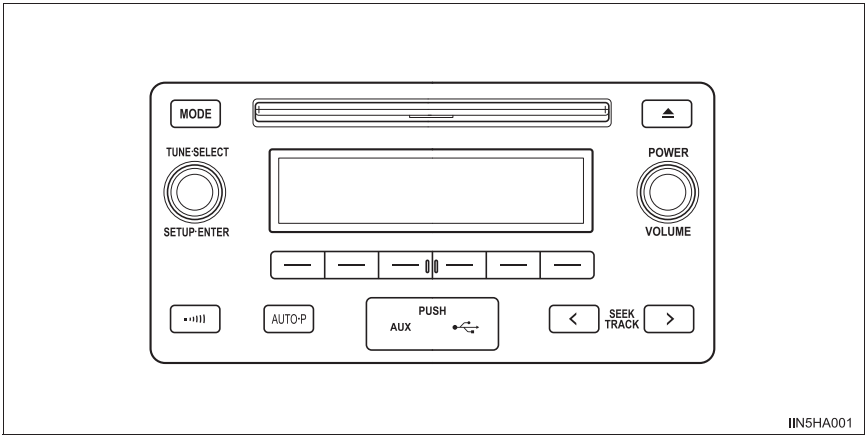
オーディオの種類★

▶ AM ／ FM ラジオ



IIN5HA006b

▶ CD プレーヤー& AM ／ FM ラジオ



IIN5HA001

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■オーディオの取り扱いについて

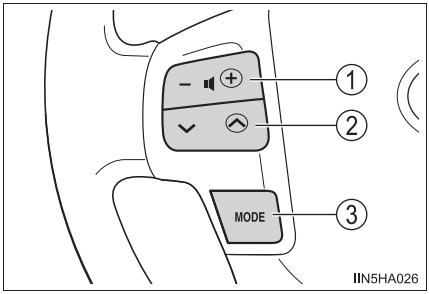
オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

ステアリングスイッチの使い方★

次の機能はステアリングスイッチで操作することができます。

メーカーオプションおよび、この車のステアリングスイッチに対応している販売店装着オプションのオーディオ・ナビゲーションシステムで使用することができます。装着されたオーディオ・ナビゲーションシステムにより操作が異なる場合があります。

ステアリングスイッチで操作する



① 音量の調節
- 音量を大きく（+ 側）または、小さくする（−側）：スイッチを押します。
- 音量を連続して調整する：スイッチを押し続けます。

② ラジオ：
- 周波数を検索する：スイッチを押します。
- 自動で受信可能な周波数を選択する：“ピッ”と音がするまでスイッチを押し続けます。

CD ／ iPod ／ USB メモリー：
- ファイル・トラックを選択する：スイッチを押します。
- フォルダ・アルバムを選択する（MP3 ／ WMA ディスク、USB メモリー）：“ピッ”と音がするまでスイッチを押し続けます。

③ 電源を入れる：スイッチを押します。

モードを切りかえる（電源がオンのとき）：スイッチを押すごとに切りかわります。

消音または再生を一時停止する：“ピッ”と音がするまでスイッチを押し続けます。

解除するには、もう一度“ピッ”と音がするまでスイッチを押し続けます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

AUX 端子／ USB 端子について★

ポータブルオーディオプレーヤーなどの機器を接続して、車両のスピーカーで聞くことができます。

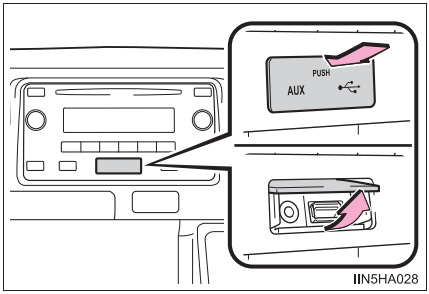
“MODE”ボタンを押して“iPod”／“USB”／“AUX”を選択してください。

ポータブルオーディオプレーヤーなどとの接続

■ iPod（CD プレーヤー& AM ／ FM ラジオ）

フタを開けて iPod を接続する

iPod の電源が入らない場合は、電源を入れます。



■ USB メモリー（CD プレーヤー& AM ／ FM ラジオ）

フタを開けて USB メモリーを接続する

接続した機器の電源が入らない場合は、電源を入れます。

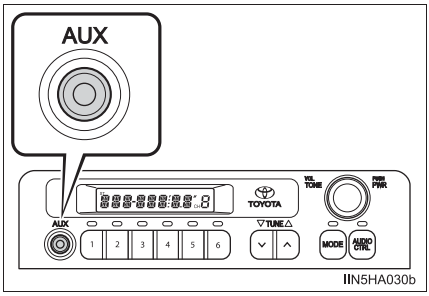
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ポータブルオーディオプレーヤー

▶ AM ／ FM ラジオ

ポータブルオーディオプレーヤーを接続する

接続したポータブルオーディオプレーヤーの電源が入らない場合は、電源を入れます。



▶ CD プレーヤー& AM ／ FM ラジオ

フタを開けてポータブルオーディオプレーヤーを接続する

接続したポータブルオーディオプレーヤーの電源が入らない場合は、電源を入れます。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

運転中に接続した機器を操作しないでください。

快適に聞くために

音質や音量バランスの設定を変更することができます。

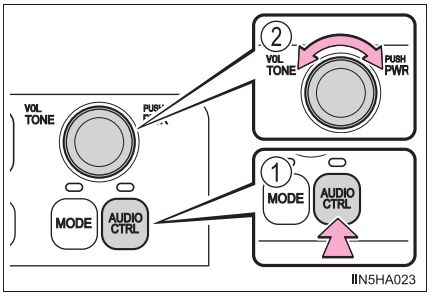
▶ AM ／ FM ラジオ

① 調整したいモードを表示する

② 音質と音量バランスの設定を変更する（→ P. 229）

5 秒間操作を行わないと、画面が戻ります。

最適な音質と音量バランスで聞くために設定を変更することができます。

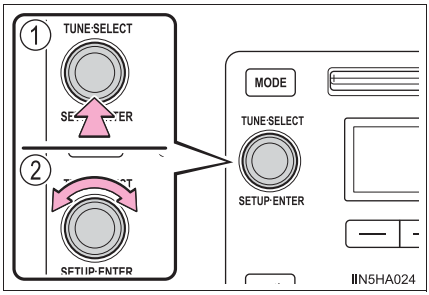


▶ CD プレーヤー& AM ／ FM ラジオ

① “SETUP” メニューを表示する／モードを選択する

② 音質と音量バランスの設定を変更する（→ P. 229）

最適な音質と音量バランスで聞くために設定を変更することができます。



設定を変更するには

■ 調整モードの切りかえ

▶ AM ／ FM ラジオ

“AUDIO CTRL” ボタン押して調整したいモードを選ぶ

“BAS”、“TRE”、“BAL” の設定を変更できます。

▶ CD プレーヤー& AM ／ FM ラジオ

1 “TUNE・SELECT” ダイヤルを押す

2 “TUNE・SELECT” ダイヤルをまわして調整したいモードを選ぶ

“BASS”、“TREBLE”、“FADER”、“BALANCE” の設定を変更できます。

3 “TUNE・SELECT” ダイヤルを押す

■ 音質・音量バランスの調整

▶ AM ／ FM ラジオ

“TONE” ダイヤルをまわして、音質・音量バランスのレベルを調整します。

調整モード	表示	レベル	左にまわす	右にまわす
低音※	BAS	−5～+5	弱	強
高音※	TRE	−5～+5		
左右音量バランス	BAL	L7～R7	右側小	左側小

※ 音質レベルは、ラジオなどそれぞれで調整できます。

▶ CD プレーヤー& AM ／ FM ラジオ

“TUNE・SELECT” ダイヤルをまわして、音質・音量バランスのレベルを調整します。

調整モード	表示	レベル	左にまわす	右にまわす
前後音量バランス	FADER	R7 ～ F7	後側大	前側大
低音※	BASS	− 5 ～ 5	弱	強
高音※	TREBLE	− 5 ～ 5		
左右音量バランス	BALANCE	L7 ～ R7	左側大	右側大

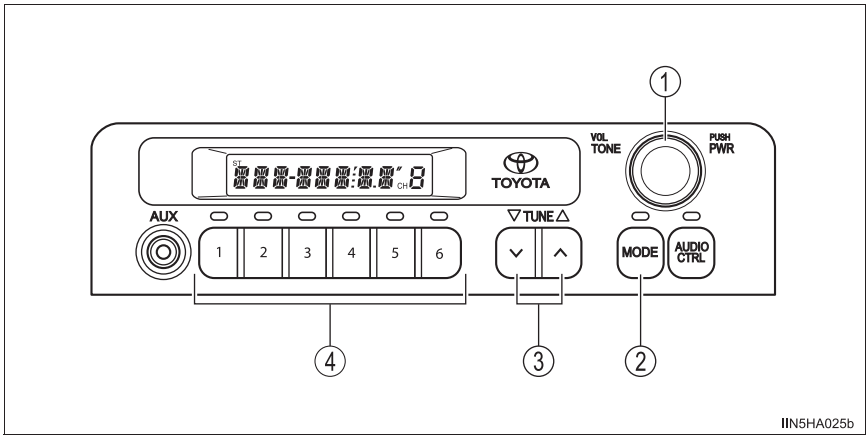
※ 音質レベルは、ラジオまたは CD プレーヤーなどそれぞれで調整できます。

前の画面に戻るには、“TUNE･SELECT” ダイヤルまたは [—] (BACK) を押します。

ラジオの使い方

ラジオを聞くために“AM”または“FM”が表示されるまで“MODE”ボタンを押してください。

▶ AM／FM ラジオ



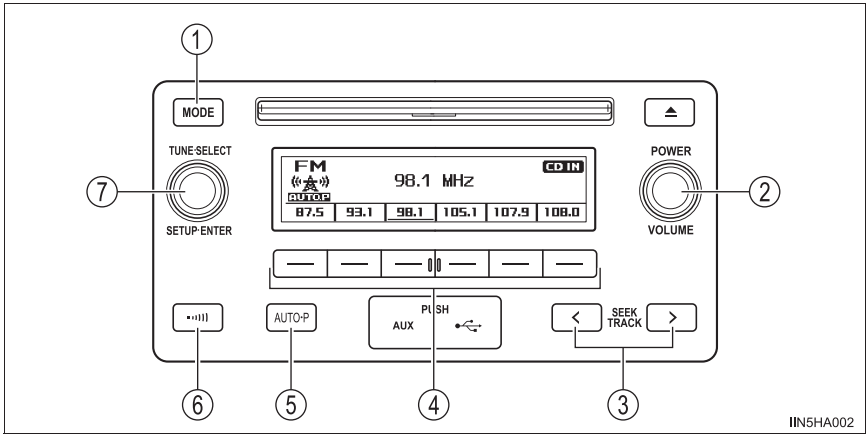
① 電源の ON／OFF：押す
音量調節：まわす

② AM／FM の切りかえ

③ 周波数の調整
自動選局するときは、0.8 秒以上 1.5 秒未満押す
もう一度押すと解除されます。

④ 選局

▶ CD プレーヤー& AM ／ FM ラジオ



① AM ／ FM の切りかえ

② 電源の ON ／ OFF：押す
音量調節：まわす

③ 周波数の検索

④ 選局

⑤ 放送局の自動設定

⑥ 交通情報

⑦ “TUNE・SELECT” ダイヤル
周波数の調整

放送局を記憶させる

■ 手動設定

▶ AM ／ FM ラジオ

1 “TUNE” ボタンの “∧”（高い周波数）、または “V”（低い周波数）を押す、または “TUNE” ボタンの “∧”（高い周波数）か “V”（低い周波数）を “ピッ” と音が鳴るまで押し続けて、お好みの放送局を探す

2 記憶させたい “1” ～ “6” のボタンを” ピッ” と音が鳴るまで押し続ける

▶ CD プレーヤー& AM ／ FM ラジオ

1 “TUNE·SELECT” ダイヤルをまわす、または “SEEK ／ TRACK” ボタンの “>”（高い周波数）、または “<”（低い周波数）を押して、お好みの放送局を探す

2 記憶させたいスイッチ [—] を “ピッ” と音が鳴るまで押し続ける

■ 自動設定（CD プレーヤー& AM ／ FM ラジオ）

“AUTO・P”ボタンを“ピッ”と音が鳴るまで押し続ける

受信感度のよい周波数が低い順に 6 局まで記憶されます。記憶が終了すると、“ピッピッ”と音が鳴ります。

交通情報を受信する（CD プレーヤー& AM ／ FM ラジオ）

[ ]を押す

もう一度押すと解除されます。

知識

■交通情報について（CD プレーヤー& AM ／ FM ラジオ）

●新車時は、1620kHz にセットしてあります。

●AM ラジオモードのとき、[ ]を“ピッ”と音が鳴るまで押し続けると、その周波数を変更することができます。

●[ ]を押してラジオ受信しているときは、“TUNE・SELECT”ダイヤル・“SEEK ／ TRACK”ボタン・[—]・”AUTO・P”ボタンを操作しても周波数は切りかわりません。

■バッテリーとの接続が断たれたときは（AM ／ FM ラジオ）

“1”～“6”のボタンに設定されていた放送局が消去されます。

■受信感度について

●車の向きにより、アンテナの向きもかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合があります。

●放送局を自動設定しているとき、自動選局や自動記憶ができないことがあります。（CD プレーヤー& AM ／ FM ラジオ）

●アンテナについて

・ピラーアンテナ★については、P. 235 を参照してください。
・リヤクォーターガラスアンテナ★は、アンテナがリヤクォーターガラスに取り付けられています。良好な受信状態を保つために、リヤクォーターガラスに着色したり金属などを取り付けたりしないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

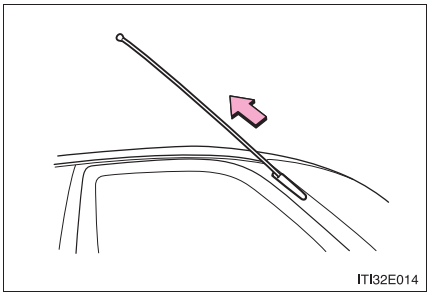
■ **リヤクォーターガラスアンテナ★のコネクターの損傷を防ぐために**

コネクター部分にものをぶつけたりして、衝撃を与えないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アンテナ★

ラジオ使用時は、いっぱいまで引き出してください。



⚠ 注意

■アンテナの損傷を防ぐために

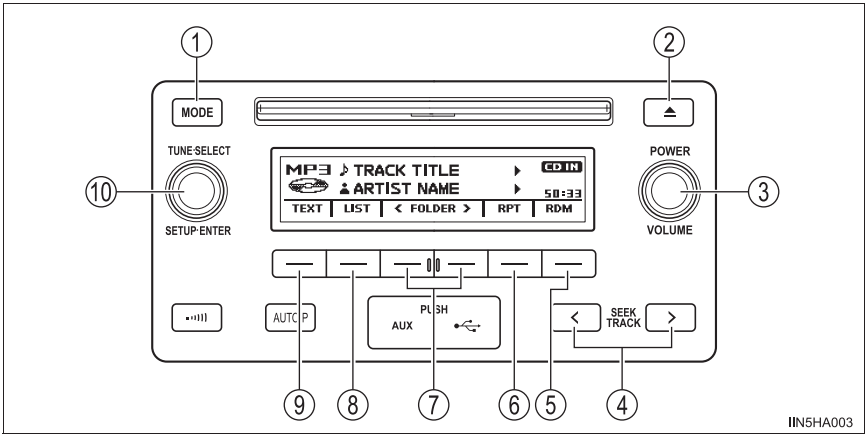
次のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき
- 自動洗車機で洗車するとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

CD プレーヤーの使い方★

ディスクを挿入し、ディスクを再生するために“MODE”を押してください。



① モードの切りかえ／再生
② CD の取り出し
③ 電源の ON ／ OFF：押す
音量調節：まわす
④ 選曲／ファイルの選択／早もどし／早送り
⑤ ランダム再生／前の画面にもどる
⑥ リピート再生
⑦ フォルダの選択（MP3 ／ WMA のみ）
⑧ 曲・ファイル・フォルダリストの表示
⑨ 表示の切りかえ
⑩ “TUNE・SELECT”ダイヤル
選曲／ファイルの選択

CD または MP3 ／ WMA ディスクを挿入する

CD または MP3 ／ WMA ディスクを 1 枚、挿入する

CD または MP3 ／ WMA ディスクを取り出す

[▲] を押して CD または MP3 ／ WMA ディスクを取り出す

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

CD プレーヤーの使い方

■ 曲を選ぶ

“TUNE・SELECT”ダイヤルをまわす、または“SEEK ／ TRACK”ボタンの“>”（次曲）か“<”（前曲）を押して、聞きたい曲の番号を表示させる

■ リストから曲を選ぶ

1 —（LIST）を押して、リストを表示する

2 “TUNE・SELECT”ダイヤルをまわして曲を選び、“TUNE・SELECT”ダイヤルを押して曲を再生する

前の画面に戻るには—（BACK）を押します。

■ 早もどし・早送りする

早もどしするときは“SEEK ／ TRACK”ボタンの“<”を、早送りするときは“SEEK ／ TRACK”ボタンの“>”を押し続ける

■ リピート（RPT）再生する

—（RPT）を押す

もう一度押すまで同じ曲が再生されます。

■ ランダム（RDM）再生する

—（RDM）を押す

もう一度押すまで無作為な順序で曲が再生されます。

■ 表示を切りかえる

—（TEXT）を押すごとに、アルバムのタイトルを表示または非表示にする

表示に続きがある場合は、▶ が表示されます。
続きを表示するにはボタンを押し続けます。

MP3 ／ WMA ディスクの聞き方

■ フォルダを選ぶ

[—]（< FOLDER）（前フォルダ）または [—]（> FOLDER）（次フォルダ）を押して聞きたいフォルダを選ぶ

■ フォルダのリストからフォルダまたはファイルを選ぶ

1 [—]（LIST）を押して、リストを表示する

2 “TUNE・SELECT”ダイヤルをまわしてフォルダまたはファイルを選び、“TUNE・SELECT”ダイヤルを押してフォルダまたはファイルを決定する

前の画面に戻るには [—]（BACK）を押します。

■ 最初のフォルダにもどる

[—]（< FOLDER）を“ピッ”と音が鳴るまで押し続ける

■ ファイルを選ぶ

“TUNE・SELECT”ダイヤルをまわす、または“SEEK ／ TRACK”ボタンの“<”（前曲）または“>”（次曲）を押して、聞きたいファイルを探す

■ 早もどし・早送りする

早もどしするときは“SEEK ／ TRACK”ボタンの“<”を、早送りするときは“SEEK ／ TRACK”ボタンの“>”を押し続ける

■ ランダム（RDM）再生する

[—]（RDM）を押すごとに、次のようにモードが切りかわる

フォルダランダム→ディスクランダム→解除

■ リピート（RPT）再生する

[—]（RPT）を押すごとに、次のようにモードが切りかわる

ファイルリピート→フォルダリピート※→解除

※ ランダム（RDM）再生時以外

■ 表示を切りかえる

—（TEXT）を押すごとに、アルバムのタイトルを表示または非表示にする

表示に続きがある場合は、▶ が表示されます。
続きを表示するにはボタンを押し続けます。

知識

■表示について

記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■エラー表示

エラーメッセージが表示されたときは、次の表を参照して処置をしてください。
処置をしても直らないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

表示	エラーの内容	処置
“CD CHECK”	・ディスクが汚れている ・裏表逆になっている	・ディスクの汚れをとる ・ディスクを正しい向きで入れる
“ERROR”	プレーヤー内部に異常がある	ディスクを取り出す
“WAIT”	プレーヤーの温度異常を検出すると、自動的にプレーヤーの機能が停止します。	しばらくしてから“MODE”ボタンを押してください。 再生されないときは、トヨタ販売店にご相談ください。
“NO SUPPORT”	ディスク内に MP3 ／ WMA ファイルが収録されていない	ディスクを取り出す

■再生可能な CD

次のマークの付いたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性・傷・汚れ・劣化により再生できないことがあります。

コピープロテクト機能付 CD などは使用できません。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■CDをプレーヤー内部に挿入したまま、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷付き使用できなくなるおそれがあります。

■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

■MP3 ／ WMA ファイルについて

MP3（MPEG Audio LAYER3）は、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
MP3 を使用すれば、もとのファイルを約 1/10 のサイズに圧縮することができます。
WMA(Windows Media Audio)は、Microsoft Corporation の音声圧縮フォーマットです。MP3 よりも小さいサイズに圧縮することができます。
使用できる MP3 ／ WMA ファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

●再生可能な MP3 ファイルの規格について

・対応規格
　MP3（MPEG1 LAYER3、MPEG2 LSF LAYER3）
・対応サンプリング周波数
　MPEG1 LAYER3：32、44.1、48（kHz）
　MPEG2 LSF LAYER3：16、22.05、24（kHz）
・対応ビットレート
　MPEG1 LAYER3：32 − 320（kbps）
　MPEG2 LSF LAYER3：8 − 160（kbps）
　※ VBR に対応しています。
・対応チャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

●再生可能な WMA ファイルの規格について

・対応規格
WMA Ver.7、8、9
・対応サンプリング周波数
32、44.1、48（kHz）
・対応ビットレート
Ver.7、8：CBR48 − 192（kbps）
Ver.9：CBR48 − 320（kbps）

※ 2ch 再生のみ対応しています。

●使用できるメディアについて
MP3 ／ WMA ファイルの再生に使用できるメディアは CD-R および CD-RW です。
CD-R、CD-RW の状態によっては再生できないことがあります。また、ディスクに傷や指紋を付けた場合、再生できないことや、音飛びすることがあります。

●使用できるディスクのフォーマットについて
使用できるメディアのフォーマットは次のとおりです。

・ディスクフォーマット：CD-ROM Mode1 および Mode2、CD-ROM　XA、Mode2 Form1 および Form2
・ファイルフォーマット：ISO9660 レベル 1、レベル 2（Romeo, Joliet）
上記フォーマット以外で書き込まれた MP3 ／ WMA ファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されないことがあります。

規格ならびに制限事項は次のとおりです。

・最大ディレクトリ階層：8 階層
・最大フォルダ名／ファイル名文字数：半角 32 文字（全角文字で記録された情報をこのオーディオで表示することはできません）
・最大フォルダ数：192（ルート含む）
・ディスク内最大ファイル数：255

●ファイル名について
MP3 ／ WMA と認識し再生するファイルは、MP3 ／ WMA の拡張子“.mp3”または“.wma”が付いたものだけです。

●マルチセッションについて
マルチセッションに対応しており、MP3 ／ WMA ファイルを追加したディスクの再生が可能です。ただし、ファーストセッションのみ再生します。

●ID3 タグ／ WMA タグについて
MP3 ファイルには、ID3 タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。
ID3 Ver.1.0、1.1、ID3 Ver.2.2、2.3 のタグに対応しています。（文字数は ID3 Ver.1.0、1.1 に準拠します）
WMA ファイルには、WMA タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、ID3 タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。

●MP3 ／ WMA の再生について
MP3 ／ WMA ファイルが収録されているディスクを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初の MP3 ／ WMA ファイルを再生します。
ディスク内のチェックを早く終わらせるために、MP3 ／ WMA ファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。
音楽データと MP3、または WMA 形式のデータが混在しているディスクは、音楽データのみ再生できます。

●拡張子について
MP3 ／ WMA 以外のファイルに“.mp3”または“.wma”の拡張子が付いていると、MP3 ／ WMA ファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損することがあります。

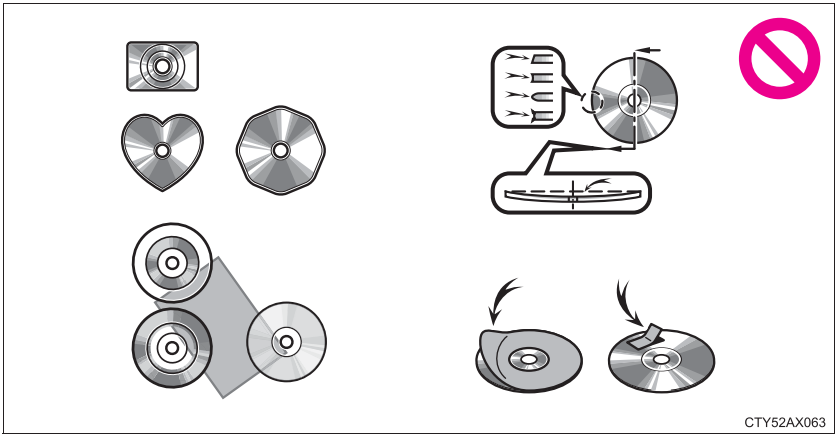
●再生について

・安定した音質で再生するために、MP3 の場合、128kbps の固定ビットレート、44.1kHz のサンプリング周波数を推奨します。
・CD-R、CD-RW はディスクの特性により再生できないことがあります。
・MP3／WMA は市場にフリーウェアなど多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質が劣化したり再生開始時にノイズが発生したりするおそれがあります。また、再生できないことがあります。
・ディスクに MP3 ／ WMA 以外のファイルを記録すると、ディスクの認識に時間がかかったり、再生できないことがあります。
・Microsoft、Windows、Windows Media は米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標および商標です。

⚠ 注意

■使用できない CD・アダプター

次のような CD を使用しないでください。
また、8cmCD アダプター・DualDisc・プリンタブルディスク（ラベル面印刷に対応したディスク）も使用しないでください。
使用すると、プレーヤーが故障したり、CD の出し入れができなくなるおそれがあります。



- 直径 12cm の円形以外の CD
- 低品質または変形している CD
- 記録部分が透明または半透明の CD
- セロハンテープ・シール・CD-R 用ラベルなどを貼った CD や、はがしたあとのある CD

■CD プレーヤーの取り扱いについて

次のことをお守りいただかないと、CD が聞けなくなったり、CD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

- CD 挿入口に CD 以外のものを入れない
- CD プレーヤーにオイルを塗ったりしない
- CD は直射日光を避けて保管する
- CD プレーヤーを分解しない

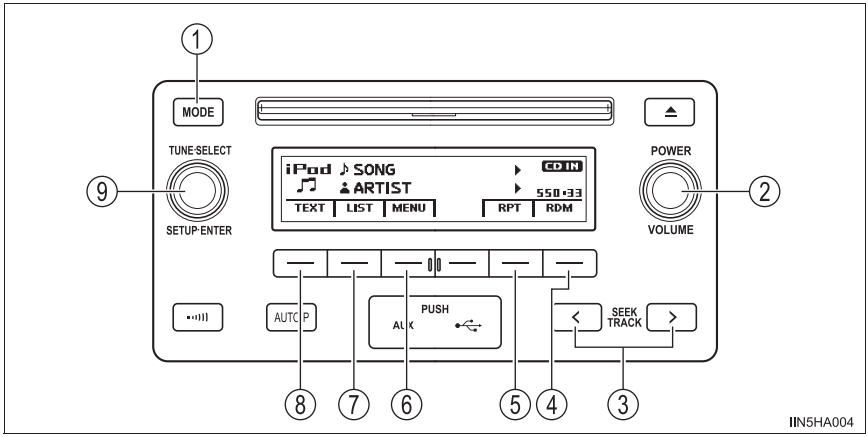
iPod の聞き方★

USB 端子に接続した iPod の音楽ファイルを再生することができます。
“MODE”ボタンを“iPod”が表示されるまで押してください。

iPod を接続する

→ P. 226

基本操作



① モードを切りかえる／再生
② 電源の ON ／ OFF：押す
音量調節：まわす
③ 選曲／早もどし／早送り
④ ランダム再生／前の画面にもどる
⑤ リピート再生
⑥ 選曲リストを表示する／再生
⑦ 再生中のリストを表示する
⑧ 表示を切りかえる
⑨ “TUNE・SELECT”ダイヤル
選曲リストを選択する／選曲

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

選曲リストを選ぶ

1 ［—］（MENU）を押して選曲リストを表示する

2 “TUNE・SELECT”ダイヤルを右にまわして、選曲リストを変更する

選曲リストは次のように変更されます。

“Playlists”→“Artists”→“Albums”→“Songs”→“Podcasts”→“Genres”→“Composers”→“Audiobooks”

3 “TUNE・SELECT”ダイヤルを押して聞きたい曲を選ぶ

■ 選曲リストの構造

選曲リスト	第 1 選択	第 2 選択	第 3 選択	第 4 選択
“Playlists”	プレイリストを選ぶ	曲を選ぶ	—	—
“Artists”	アーティストを選ぶ	アルバムを選ぶ	曲を選ぶ	—
“Albums”	アルバムを選ぶ	曲を選ぶ	—	—
“Songs”	曲を選ぶ	—	—	—
“Podcasts”	Podcasts を選ぶ	エピソードを選ぶ	—	—
“Genres”	ジャンルを選ぶ	アーティストを選ぶ	アルバムを選ぶ	曲を選ぶ
“Composers”	作曲者を選ぶ	アルバムを選ぶ	曲を選ぶ	—
“Audiobooks”	オーディオブックを選ぶ	チャプターを選ぶ	—	—

■ リストを選ぶ

1 “TUNE・SELECT”ダイヤルをまわして、選曲リストの第 1 選択を選ぶ

2 “TUNE・SELECT”ダイヤルを押して、聞きたいリストを決定する

選択項目が表示されます。

3 聞きたい曲などを選ぶために同じ手順を繰り返す

1 つ前のリストに戻るには［—］（BACK）を押します。

聞きたい曲などを再生するには［—］（PLAY）を押します。

曲を選ぶ

“TUNE・SELECT”ダイヤルをまわす、または“SEEK／TRACK”ボタンの“<”（前曲）か“>”（次曲）を押して、聞きたい曲を探す

再生中のリストから曲を選ぶ

1 —（LIST）を押して、再生中のリストを表示する

2 “TUNE・SELECT”ダイヤルをまわして、曲を選ぶ

3 “TUNE・SELECT”ダイヤルを押して、曲を再生する

一つ前の画面に戻るには —（BACK）を押します。

早もどし・早送りする

早もどしするときは“SEEK／TRACK”ボタンの“<”を、早送りするときは“SEEK／TRACK”ボタンの“>”を押し続ける

リピート（RPT）再生する

—（RPT）を押す

もう一度押すまで同じ曲が再生されます。

ランダム（RDM）再生する

—（RDM）を押すごとに、次のようにモードが切りかわる

トラックランダム → アルバムランダム → 解除

表示を切りかえる

—（TEXT）を押すごとに、アルバムのタイトルを表示または非表示にする

表示に続きがある場合は、▶ が表示されます。
続きを表示するにはボタンを押し続けます。

知識

■iPod について

- 「Made for iPod」「Made for iPhone」とは、iPod/iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって設定された電子アクセサリであることを示します。
- アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。このアクセサリを iPod あるいは iPhone と使用することにより、無線の性能に影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。
- iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod touch は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。

■iPod の機能について

- iPod が接続されている状態で、他モードより iPod モードに切り替えたとき、前回、最後に再生していた曲から再生されます。
- 接続している iPod によって、特定の機能が使用できない場合があります。接続を解除して、再び接続するといくつかの誤作動が解消することがあります。
- iPod を接続している間、iPod 自体で操作することができません。車載機のオーディオから操作してください。

■iPod に問題が起きたとき

iPod を使用しているときに問題が起きた場合は、接続を解除して再び接続をしてから iPod をリセットしてください。
リセットの方法は、iPod の説明書を参照してください。

■表示について

→ P. 239

■エラー表示

エラーメッセージが表示されたときは、次の表を参照して処置をしてください。処置をしても直らないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

表示	エラーの内容
“ERROR”	iPod または接続に問題がある
“NO SONGS”	iPod に音楽データがない
“NO PLAYLIST”	選曲リストに音楽データがない
“UPDATE YOUR iPod”	iPodのソフトウェアバージョンが対応していません。 iPodのソフトウェアバージョンを最新版にアップグレードしてください。

■使用できるモデル

本機は下記の iPod®、iPod nano®、iPod classic®、iPod touch®、iPhone® を使用することができます。

●Made for

・iPod touch（第 5 世代）
・iPod touch（第 4 世代）
・iPod touch（第 3 世代）
・iPod touch（第 2 世代）
・iPod touch（第 1 世代）
・iPod classic
・iPod with video
・iPod nano（第 7 世代）
・iPod nano（第 6 世代）
・iPod nano（第 5 世代）
・iPod nano（第 4 世代）
・iPod nano（第 3 世代）
・iPod nano（第 2 世代）
・iPod nano（第 1 世代）
・iPhone 5
・iPhone 4S
・iPhone 4
・iPhone 3GS
・iPhone 3G
・iPhone

使用できるモデルに該当していても、機種やソフトウェアバージョン、個体差などにより使用できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

規格ならびに制限事項は次のとおりです。

- 最大リスト数：9999
- 最大曲数：65535
- リスト内最大曲数：65535

⚠ 警告

■走行中の警告

運転中に iPod を操作しないでください。

⚠ 注意

■iPod や USB 端子の故障を防ぐために

- 炎天下など、車室内が高温になるため、iPod を車室内に放置しないでください。
- iPod が接続されているときに、iPod の上に乗ったり、物を上に置かないでください。
- USB 端子に異物などを入れないでください。

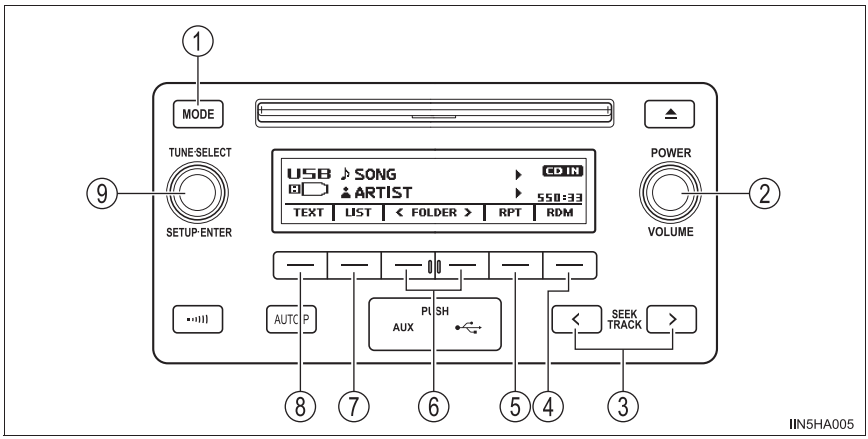
USB メモリーの聞き方★

USB 端子に接続した USB メモリーを再生することができます。
“MODE”ボタンを“USB”が表示されるまで押してください。

USB メモリーを接続する

→ P. 226

基本操作



① モードを切りかえる／再生
② 電源の ON ／ OFF：押す
音量調節：まわす
③ ファイルの選択／早もどし／早送り
④ ランダム再生／前の画面にもどる
⑤ リピート再生
⑥ フォルダの選択
⑦ フォルダリストを表示する
⑧ 表示の切りかえ
⑨ “TUNE・SELECT”ダイヤル
ファイルの選択

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フォルダを選ぶ

■ フォルダを選ぶ

[—]（< FOLDER）（前フォルダ）または[—]（> FOLDER）（次フォルダ）を押して聞きたいフォルダを選ぶ

■ フォルダリストからフォルダまたはファイルを選ぶ

1 [—]（LIST）を押して、フォルダリストを表示する

2 “TUNE·SELECT”ダイヤルをまわして、または“TUNE·SELECT”ダイヤルを押して聞きたいフォルダまたはファイルを選ぶ

前の画面に戻るには[—]（BACK）を押します。

■ 最初のフォルダにもどる

[—]（< FOLDER）を“ピッ”と音が鳴るまで押す

ファイルを選ぶ

“TUNE · SELECT”ダイヤルをまわす、または“SEEK ／ TRACK”ボタンの“<”（前ファイル）か“>”（次ファイル）を押して、聞きたいファイルを選ぶ

早もどし・早送りする

早もどしするときは“SEEK ／ TRACK”ボタンの“<”を、早送りするときは“SEEK ／ TRACK”ボタンの“>”を押し続ける

ランダム（RDM）再生する

[—]（RDM）を押すごとに、次のようにモードが切りかわる

フォルダランダム → ディスクランダム → 解除

リピート（RPT）再生する

[—]（RDM）を押すごとに、次のようにモードが切りかわる

ファイルリピート → フォルダリピート※ → 解除

※ ランダム（RDM）再生時以外

表示を切りかえる

“TEXT”ボタンを押すごとに、アルバムのタイトルを表示または非表示にする

表示に続きがある場合は、▶ が表示されます。
続きを表示するにはボタンを押し続けます。

知識

■USB メモリーの機能について

●接続している USB メモリーによって、USB メモリー自体を使用できなかったり、特定の機能が使用できない場合があります。接続を解除して、再び接続するといくつかの誤作動が解消することがあります。

●接続を解除して再び接続しても操作できない場合は、メモリーを初期化してください。

■表示について

→ P. 239

■エラー表示

エラーメッセージが表示されたときは、次の表を参照して処置をしてください。処置をしても直らないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

表示	エラーの内容
“ERROR”	USB メモリーまたは接続に問題がある
“NO MUSIC”	MP3 ／ WMA ファイルが USB メモリーに入っていない

■USB メモリーについて

●再生可能な機器の規格について

USB メモリーで再生できるファイルの規格は MP3 ／ WMA です。

●使用できる機器のフォーマットについて

使用できる機器のフォーマットは次のとおりです。

・USB コミュニケーションフォーマット：USB2.0 FS（12mbps）
・ファイルフォーマット：FAT12/16/32（Windows）
・通信クラス：Mass storage class

上記フォーマット以外で書き込まれた MP3 ／ WMA ファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されないことがあります。

規格ならびに制限事項は次のとおりです。

・最大ディレクトリ階層：8 階層
・最大フォルダ数：999（ルート含む）
・最大ファイル数：9999
・フォルダ内最大ファイル数：255

●MP3 ／ WMA ファイルについて

MP3（MPEG Audio LAYER3）は、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

MP3 を使用すれば、もとのファイルを約 1/10 のサイズに圧縮することができます。

WMA（Windows Media Audio）は、Microsoft Corporation の音声圧縮フォーマットです。MP3 よりも小さいサイズに圧縮することができます。

使用できる MP3 ／ WMA ファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

●再生可能な MP3 ファイルの規格について

・対応規格
MP3（MPEG1 LAYER3、MPEG2 LSF LAYER3）
・対応サンプリング周波数
MPEG1 LAYER3：32、44.1、48（kHz）
MPEG2 LSF LAYER3：16、22.05、24（kHz）
・対応ビットレート
MPEG1 LAYER3：32 − 320（kbps）
MPEG2 LSF LAYER3：8 − 160（kbps）
※ VBR に対応しています。
・対応チャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

●再生可能な WMA ファイルの規格について

・対応規格
WMA Ver.7、8、9
・対応サンプリング周波数
32、44.1、48（kHz）
・対応ビットレート
Ver.7、8：CBR48 − 192（kbps）
Ver.9：CBR48 − 320（kbps）
※ 2ch 再生のみ対応しています。

●ファイル名について

MP3 ／ WMA と認識し再生するファイルは、MP3 ／ WMA の拡張子“.mp3”または“.wma”が付いたものだけです。

●ID3 タグ／ WMA タグについて

MP3 ファイルには、ID3 タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。

ID3 Ver.1.0、1.1、ID3 Ver.2.2、2.3 のタグに対応しています。（文字数は ID3 Ver.1.0、1.1 に準拠します）

WMA ファイルには、WMA タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、ID3 タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。

●MP3 ／ WMA の再生について

・ MP3 ／ WMA ファイルが収録されている機器を接続すると、最初に USB メモリー機器内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初の MP3 ／ WMA ファイルを再生します。
ファイルのチェックを早く終わらせるために、MP3 ／ WMA ファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。
・ USB 機器を接続すると USB メモリーモードに切り替わり、最初のフォルダ内の最初のファイルを再生します。同じ USB 機器の接続を解除して再び接続すると（収録されている内容に変更がないとき）、USB メモリーは最後に再生したところから再生されます。

●拡張子について

MP3 ／ WMA 以外のファイルに“.mp3”または“.wma”の拡張子が付いていると、再生されずにスキップします。

●再生について

・ 安定した音質で再生するために、MP3 の場合、128kbps の固定ビットレート、44.1kHz のサンプリング周波数を推奨します。
・ MP3／WMAは市場にフリーウェアなど多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質が劣化したり再生開始時にノイズが発生したりするおそれがあります。また、再生できないことがあります。
・ Microsoft、Windows、Windows Media は米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標および商標です。

⚠ 警告

■走行中の警告

運転中に USB メモリーを操作しないでください。

⚠ 注意

■USB メモリーや USB 端子の故障を防ぐために

- 炎天下など、車室内が高温になるため、USB メモリーを車室内に放置しないでください。
- USB メモリーが接続されているときに、USB メモリーの上に乗ったり、物を上に置かないでください。
- USB 端子に異物などを入れないでください。

AUX 端子（外部入力接続）の使い方★

ポータブルオーディオプレーヤーを車両のスピーカーから聞くことができます。
“MODE”ボタンを“AUX”が表示されるまで押してください。

ポータブルオーディオプレーヤーなどとの接続

→ P. 227

知識

■ポータブルオーディオの操作について

音量の調整をするときは、車両のオーディオで調整してください。
その他の操作は、ポータブルオーディオで行ってください。

■ポータブルオーディオの電源について

車両のアクセサリーコンセント★に接続して使用すると、再生時にノイズが発生することがあります。ポータブルオーディオに付属のバッテリーなどを使用してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

室内装備・機能 6

6-1. エアコン・デフォッガーの使い方

マニュアルエアコン.....258
オートエアコン.....263
リヤクーラー.....269
リヤヒーター.....271
パワーヒーター.....272

6-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....274
・フロントルームランプ.....275
・フロントルームランプ／パーソナルランプ.....275
・リヤルームランプ（標準タイプ）.....275
・リヤルームランプ（大型タイプ）.....276

6-3. 収納装備の使い方

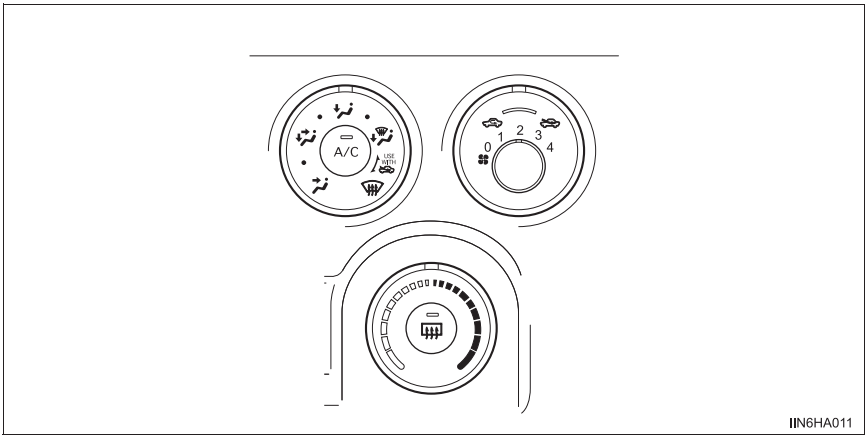
収納装備一覧.....277
・グローブボックス.....279
・センターコンソールボックス.....279
・シートバックコンソール.....281
・カップホルダー／ボトルホルダー.....282
・カードホルダー.....283
・オープントレイ.....284
荷室内装備.....286

6-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....288
・サンバイザー.....288
・バニティミラー.....288
・灰皿.....289
・アクセサリーソケット／アクセサリーコンセント.....290

マニュアルエアコン★

エアコン操作について



■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは を右に、下げるときは左にまわす

エアコン（冷房・除湿機能）の ON・OFF を切りかえるには A/C スイッチを押します。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは を右に、減らすときは左にまわす

送風を止めるときは、ダイヤルを 0 の位置にします。

■ 吹き出し口を切りかえる

をまわす

ダイヤルの位置を各吹き出し口のあいだにすると、吹き出し口を細かく選択できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

をまわす

内気循環にするには、ダイヤルの位置を にします。

外気導入にするには、ダイヤルの位置を にします。

■ フロントガラスの曇りを取るには

を の位置に合わせる

内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

A/C スイッチを押してエアコン（冷房・除湿機能）を ON にすると、曇りが早く取れます。

■ リヤウインドウデフォッガー★ & ミラーヒーター★

リヤウインドウの曇りを取るときや、アウターミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

を押す

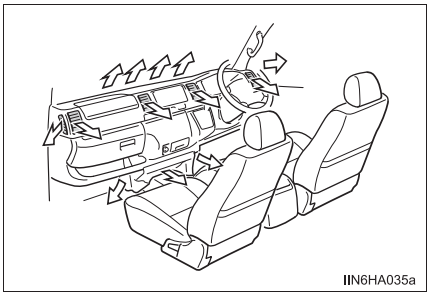
リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

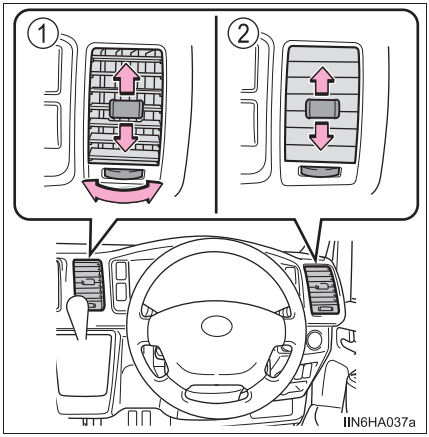
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉



知識

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C スイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●A/C スイッチを ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内気循環／外気導入について

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

■外気温度が 0℃近くまで下がったとき

A/C スイッチを押しても除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■PTC ヒーター★

エンジン冷間時の暖房効果を高めます。次の条件をすべて満たすと、自動的に作動します。

●ファンが作動しているとき

●最大暖房時

●エンジン冷間時

●外気温が低いとき

■エアコンフィルターについて

→ P. 315

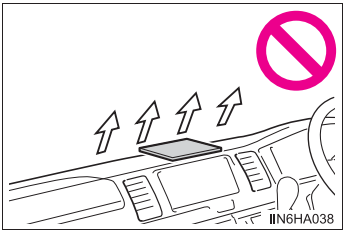
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 を の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター作動中の警告（ミラーヒーター装着車）

アウターミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

⚠ 注意

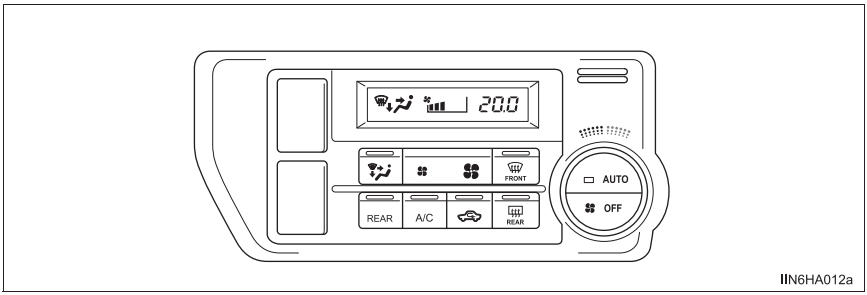
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

オートエアコン★

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作について



IIN6HA012a

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは AUTO / OFF を右に、下げるときは左にまわす

エアコン（冷房・除湿機能）の ON・OFF を切りかえるには A/C スイッチを押します。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは [ ] の を、減らすときは を押す

送風を止めるときは、OFF スイッチを押します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 吹き出し口を切りかえる

を押す

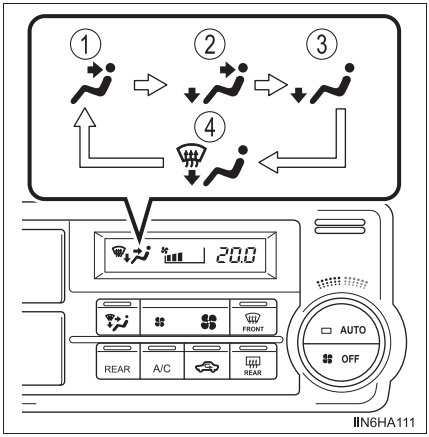
押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風・ガラスの曇りを取る



オート設定で使用する

1 AUTO スイッチを押す

2 温度を設定する

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

を押す

スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。
内気循環を選択しているときは、表示灯が点灯します。

■ フロントガラスの曇りを取るには

を押す

除湿機能が作動します。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度 を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター★

リヤウインドウの曇りを取るときや、アウターミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

を押す

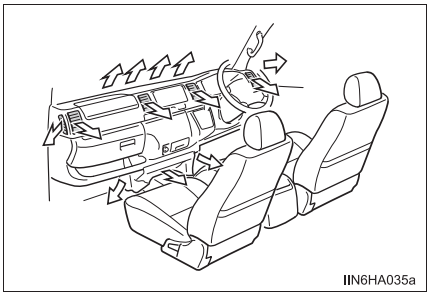
リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的にOFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

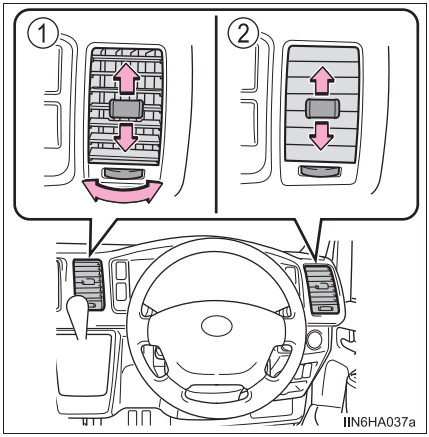
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉



知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C スイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- A/C スイッチを ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内気循環／外気導入について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

A/C スイッチを押しても除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■PTC ヒーター★

エンジン冷間時の暖房効果を高めます。次の条件をすべて満たすと、自動的に作動します。

- ファンが作動しているとき
- 最大暖房時
- エンジン冷間時
- 外気温が低いとき

■エアコンフィルターについて

→ P. 315

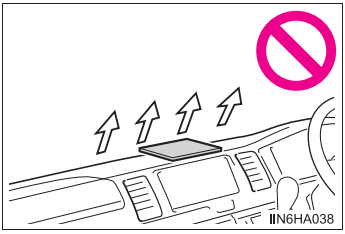
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、FRONTを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター作動中の警告（ミラーヒーター装着車）

アウターミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

⚠ 注意

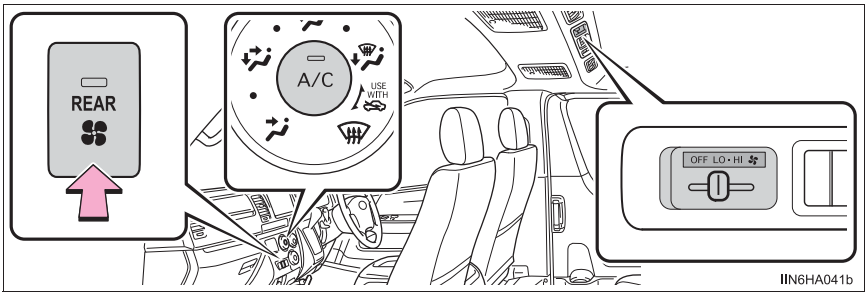
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

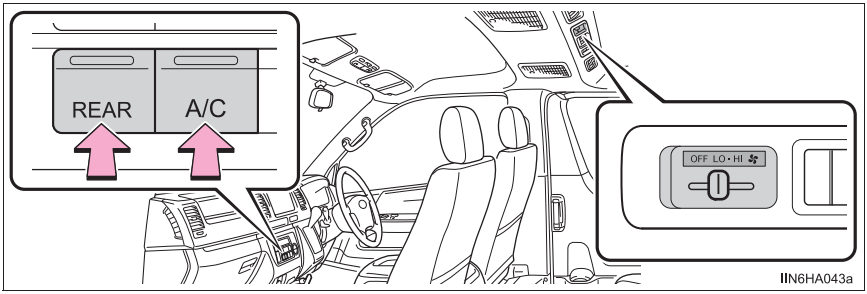
リヤクーラー★

後部座席付近を冷房することができます。

▶ マニュアルエアコン装着車



▶ オートエアコン装着車



リヤクーラーを使用する前に

フロントエアコンの A/C スイッチが ON になっていることを確認し、リヤクーラーメインスイッチを ON にしてください。

A/C スイッチが OFF のときは、リヤクーラーの冷房・除湿機能が作動せず、送風のみとなります。

リヤクーラーを使用するには

ファン調整レバーを右（増）か左（減）に操作する

送風を止めるときは、レバーを OFF の位置にします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

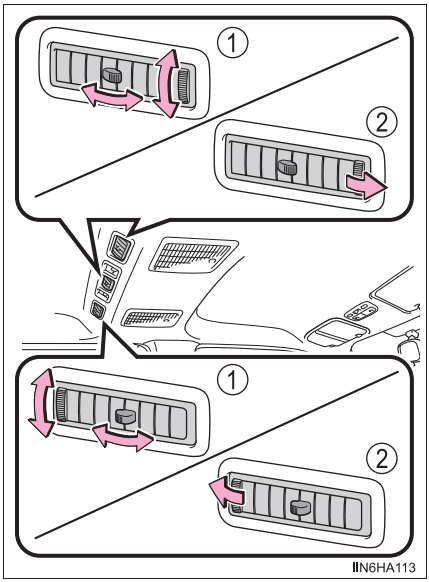
① 風向きの調整

ノブを上下左右に動かして、風向きを調整します。

② 吹き出し口の開閉

センター：閉めるときは、ノブをいっぱいまで右に動かします。

サイド：閉めるときは、ノブをいっぱいまで車両外側に動かします。



⚠ 注意

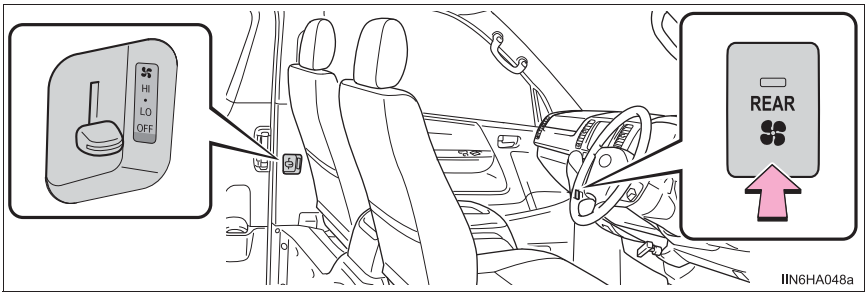
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にリヤクーラーを使用しないでください。

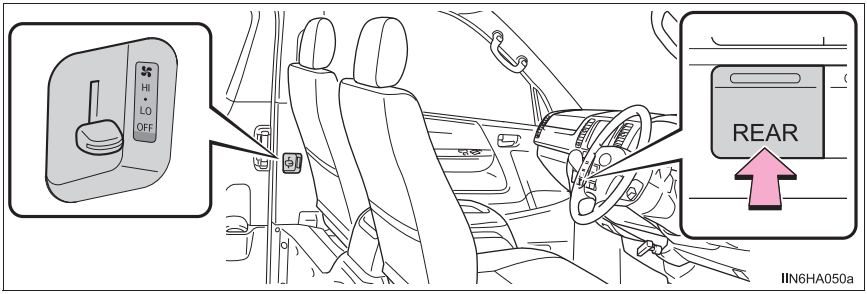
リヤヒーター★

車内の後方部分を暖房することができます。

▶ マニュアルエアコン装着車



▶ オートエアコン装着車



リヤヒーターを使用する前に

リヤヒーターメインスイッチを ON にしてください。

リヤヒーターを使用するには

ファン調整レバーを上（増）か下（減）に操作する

送風を止めるときは、レバーを OFF の位置にします。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にリヤヒーターを使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーヒーター★

車両の暖房機能を補助する装置です。

パワーヒーターの機能について

次の 2 つの機能により、寒冷時の暖房効果を高めます。

● アイドルアップ機能

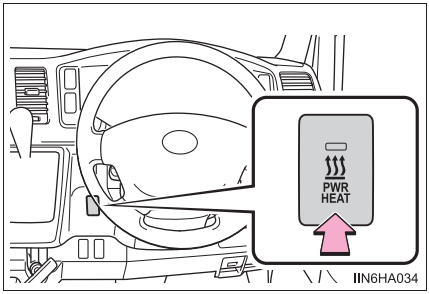
エンジンが冷えているときにアイドル回転数が上がり、暖房効果を高めます

● ホットガスヒーター機能

エアコン装置を利用する補助ヒーターです。作動条件が満たされているとき、自動的に働きます。

パワーヒーターを使用するには

パワーヒータースイッチを押す



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ホットガスヒーター機能の作動条件

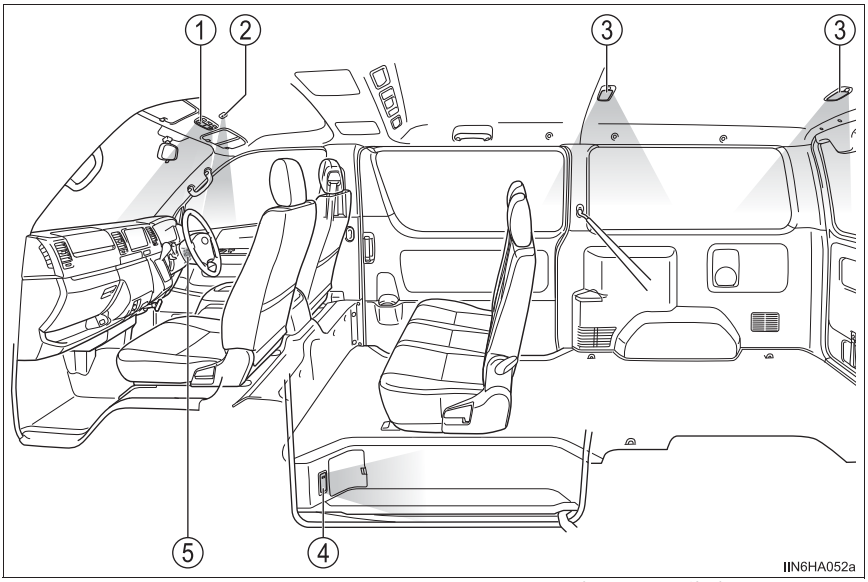
パワーヒータースイッチが ON で、次の条件をすべて満たすと、自動で作動します。

- ファンが作動しているとき
- エンジンが冷えているとき
- 外気温が低いとき（約 3 ～ 5 ℃以下）

■ホットガスヒーター機能の制限事項

- エアコン（冷房・除湿機能）が ON だと、ホットガスヒーター機能が作動しにくくなります。
- − 30 ℃を下まわるような極寒時には作動しません。

室内灯一覧



イラストはスーパー GL で代表しています。

① フロントルームランプ★／パーソナルランプ★（→ P. 275）

② センターコンソール照明（LED ダウンライト）★※ 1

③ リヤルームランプ★※ 2（→ P. 275, 276）

④ スライドドアステップランプ★（→ P. 84）

⑤ エンジンスイッチ照明

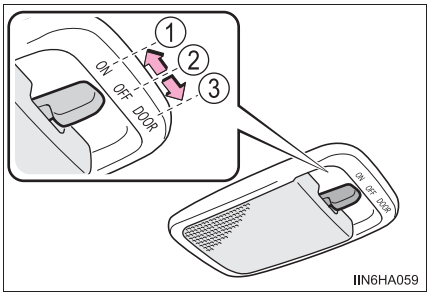
※ 1 ランプスイッチが ON のとき点灯します。

※ 2 リヤルームランプの数は車種により異なります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

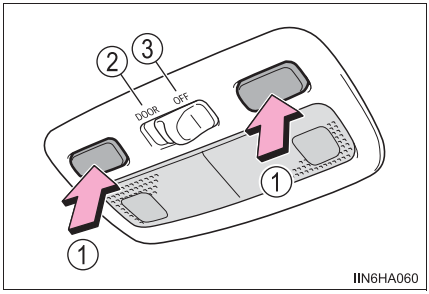
フロントルームランプ★

① ランプを点灯する
② ランプを消灯する
③ ドアの開閉作動に連動して、ランプ点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）



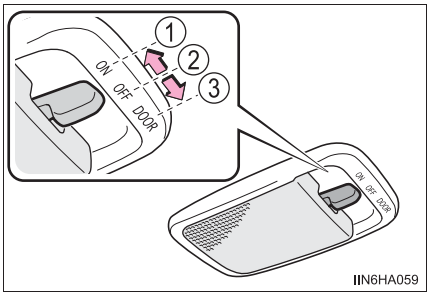
フロントルームランプ／パーソナルランプ★

① ランプを点灯・消灯する
② ドアの開閉作動に連動して、ランプの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）
③ ランプを消灯する



リヤルームランプ（標準タイプ）★

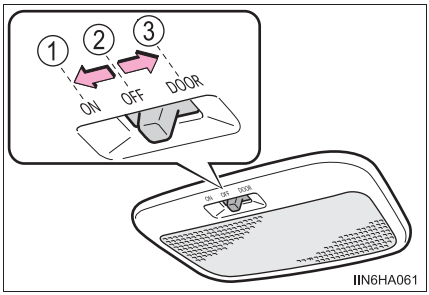
① ランプを点灯する
② ランプを消灯する
③ スライドドアまたはバックドアの開閉作動に連動して、ランプの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤルームランプ（大型タイプ）★

① ランプを点灯する
② ランプを消灯する
③ スライドドアまたはバックドアの開閉作動に連動して、ランプの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）



知識

●イルミネーテッドエントリーシステム：

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチの位置により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

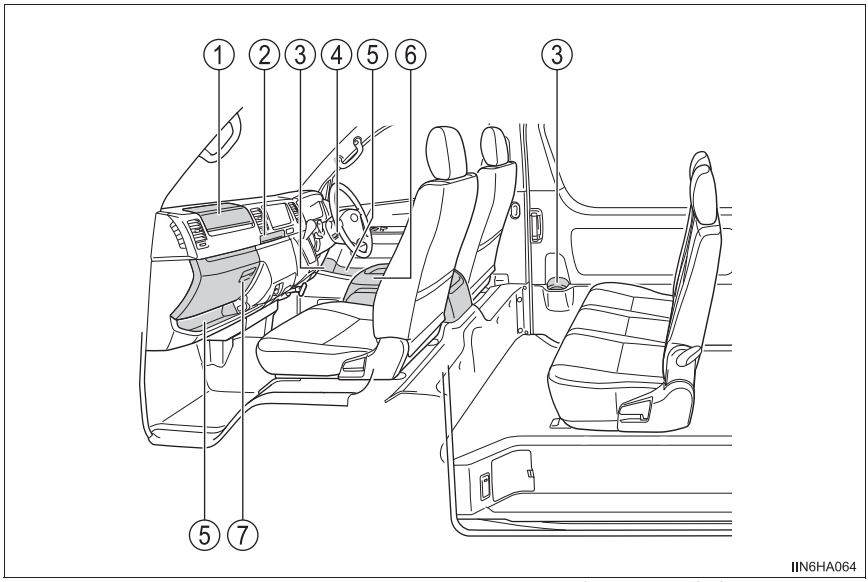
●エンジンスイッチが “LOCK” （スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または OFF （スマートエントリー&スタートシステム装着車）の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

収納装備一覧



イラストはスーパー GL で代表しています。

① アッパーグローブボックス★（→ P. 279）
② カップホルダー（→ P. 282）
③ ボトルホルダー★（→ P. 282）
④ カードホルダー（→ P. 283）
⑤ オープントレイ（→ P. 284）
⑥ センターコンソールボックス★／シートバックコンソール★（→ P. 279, 281）
⑦ ロアグローブボックス（→ P. 279）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

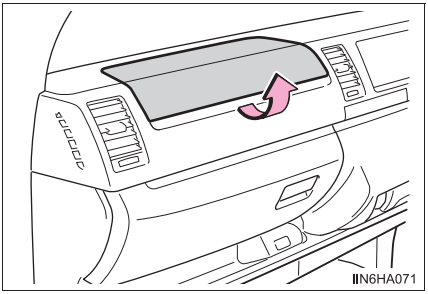
●メガネ･ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

●収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

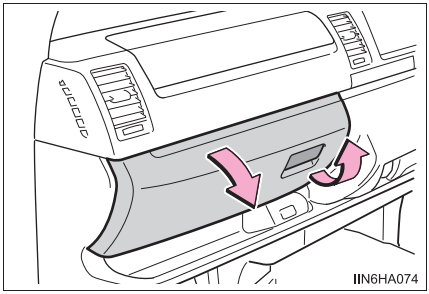
グローブボックス

▶ アッパーグローブボックス★



グローブボックスを開けるには、フタを持ち上げる

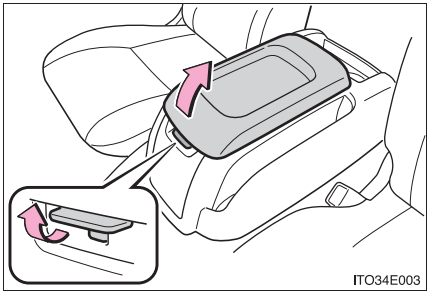
▶ ロアグローブボックス



グローブボックスを開けるには、レバーを引き上げる

センターコンソールボックス★

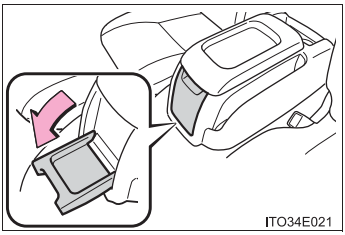
センターコンソールボックスを開けるには、レバーを引き上げる



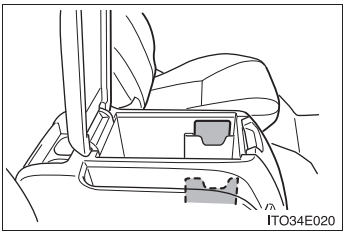
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

●センターコンソールボックスの前面部分を倒すと、トレイとして使用できます。



●ボックス内の側面に、カードなどを収納できるホルダーがあります。



⚠ 警告

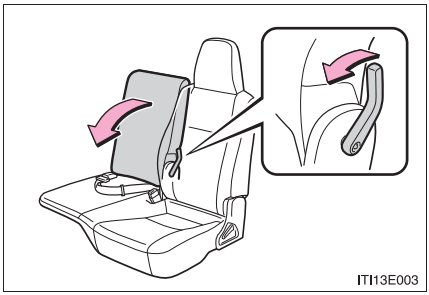
前面トレイにものを載せたまま走行しないでください。急ブレーキ時などに載せていたものが飛び出すなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

前面トレイの破損を防ぐためにトレイの上に手をついたり、長時間ものを置いたままにしたりしないでください。

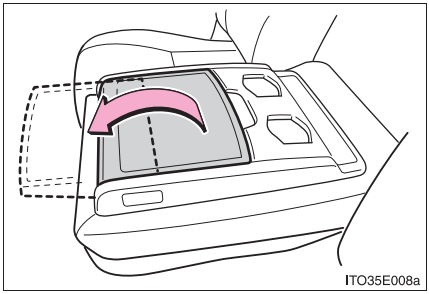
シートバックコンソール★

1 レバーを引いて中央席を前に倒す（→P. 110）



2 フタを持ち上げて開ける

フタを前方に倒すと、テーブルとして使用することができます。



⚠ 警告

- けがを防ぐために、シートバックコンソールのフタを閉じた状態にしてください。
- シートバックコンソールのフタを開けたまま走行しないでください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

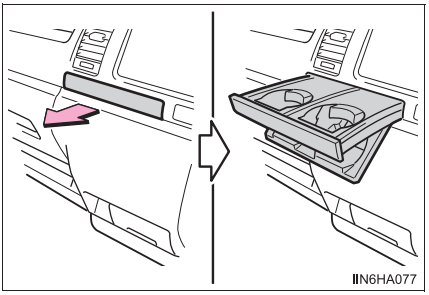
シートバックコンソールの破損を防ぐために、シートバックコンソールのフタをテーブルとして使用するときは、テーブル部に手をついたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

カップホルダー／ボトルホルダー

■ カップホルダー

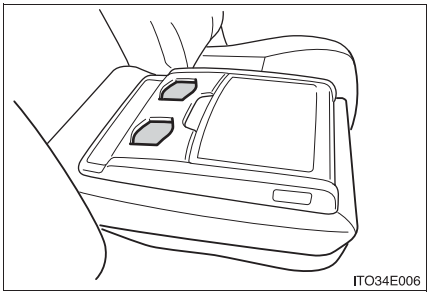
▶ インストルメントパネル



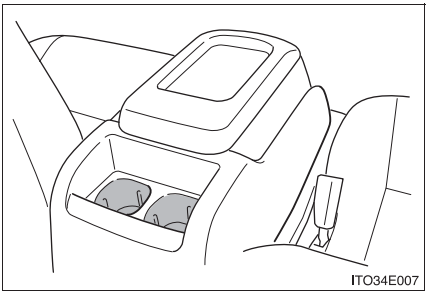
使用するときは、手前にいっぱいまで引き出す

もどすときは、トレイ部を上げてから押し込みます。

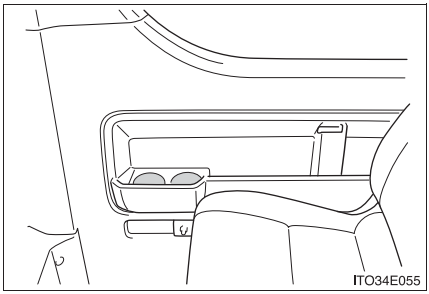
▶ シートバックコンソール★



▶ センターコンソール★

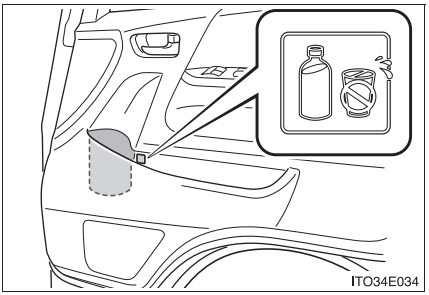


▶ リヤサイド（1 列目）★

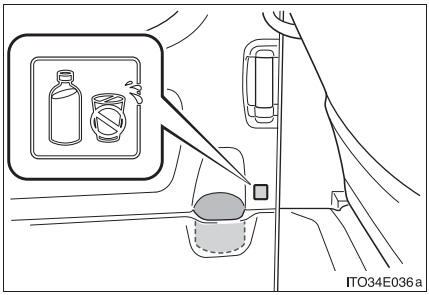


■ ボトルホルダー

▶ フロントドア



▶ スライドドア★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

●カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

●インストルメントパネルのカップホルダーを使わないときは、必ずもとにもどしておいてください。
急ブレーキ時などに、カップホルダーが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

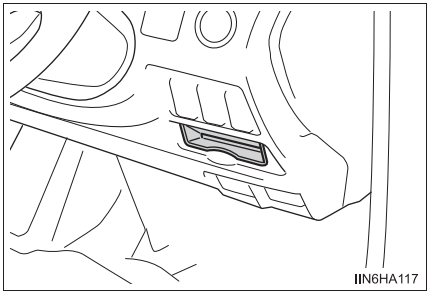
注意

●カップホルダーに手をついたり、足で踏んだりしないでください。

●インストルメントパネルのカップホルダーは、必ずいっぱいまで引き出して使用してください。中間位置で使用すると、走行中にカップホルダーが動いて、飲み物がこぼれるおそれがあります。

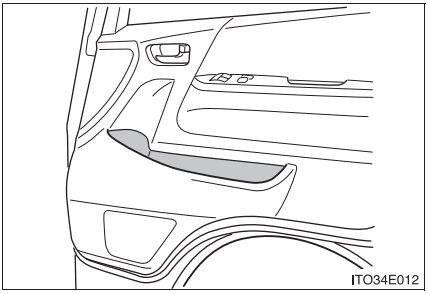
●ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

カードホルダー

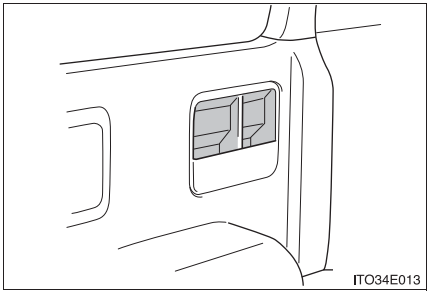


オープントレイ

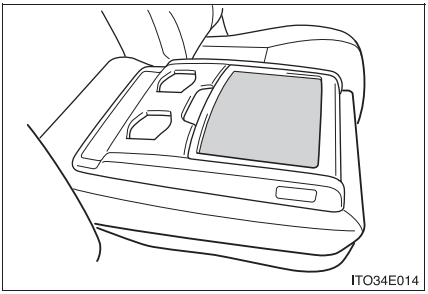
▶ フロントドア



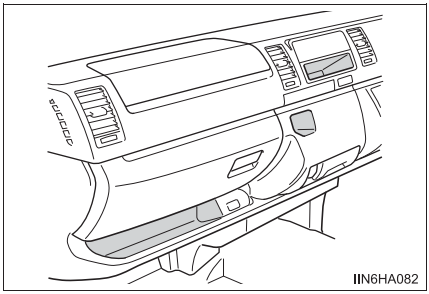
▶ リヤサイド★



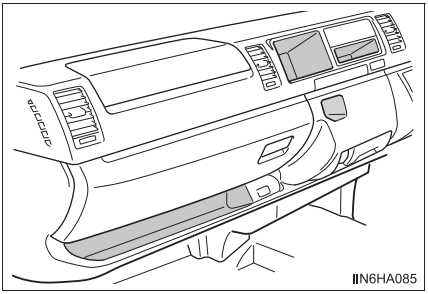
▶ シートバックコンソール★



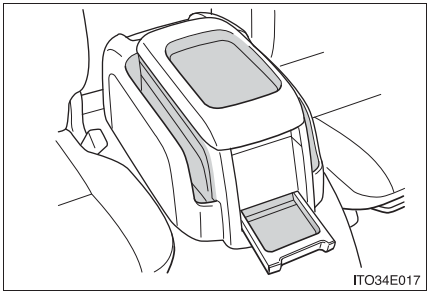
▶ インストルメントパネル（標準タイプ）



▶ インストルメントパネル（幅広タイプ）

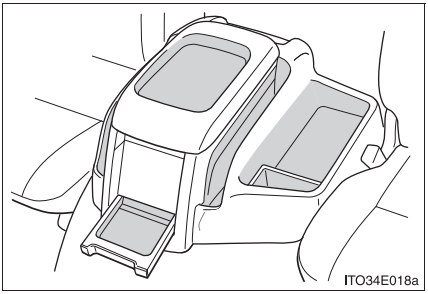


▶ センターコンソール（標準タイプ）★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ センターコンソール（幅広タイプ）★



⚠ 警告

オープントレイには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出すなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

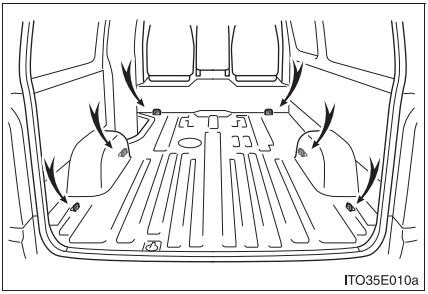
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

荷室内装備★

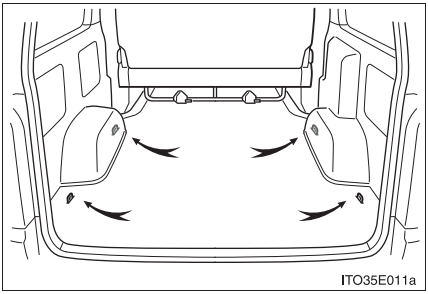
荷物固定用フック

市販のネットやロープなどを使って荷物を固定することができます。

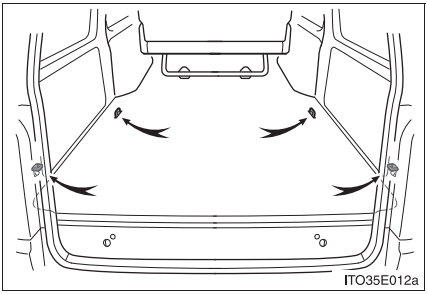
▶ リヤシート非装着車（ジャストローを除く）



▶ リヤシート装着車（ジャストローを除く）



▶ ジャストロー



⚠ 警告

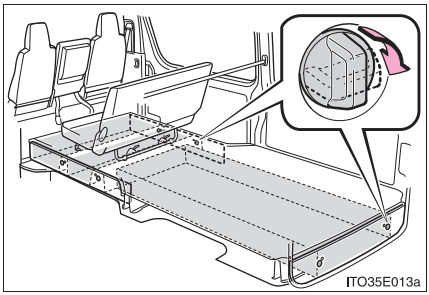
荷物固定用フックを使用しないときは、けがをしないように必ずもとの位置にもどしておいてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

床下収納（ジャストロー）

フロア下部に荷物を収納することができます。

使用するときは、ダイヤルをまわしてロックをはずし、カバーを開ける



⚠ 警告

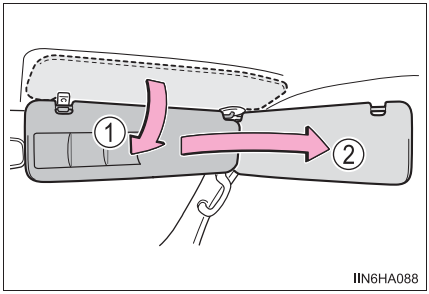
走行中は、床下収納のフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

その他の室内装備

サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

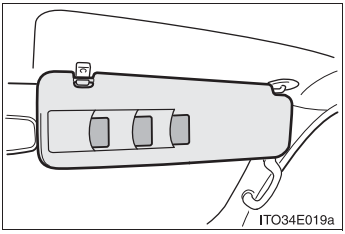
② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



知識

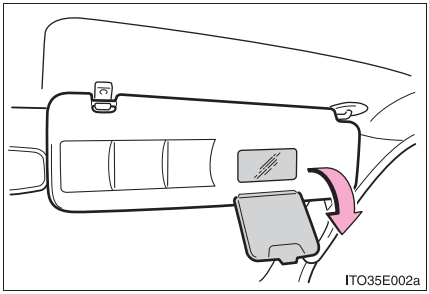
■3 連式カードホルダー（運転席側サンバイザー）

カード類を収納することができます。



バニティミラー★

上側部分を引いてカバーを開ける

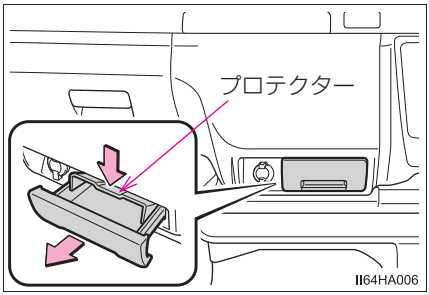


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

灰皿

フタを手前に引いて開ける

取りはずすときは、プロテクターを押さえて手前に引き出します。



知識

灰皿照明：ランプスイッチが ON のとき点灯します。

⚠ 警告

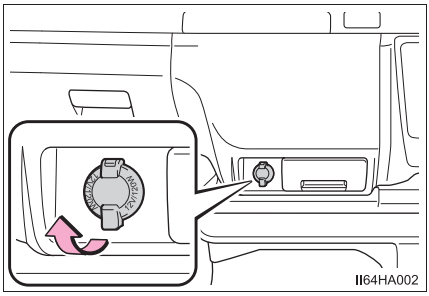
- 使用しないときは、灰皿のフタを必ず閉じてください。
  急ブレーキ時などに、開いた灰皿が体にあたったり、灰が飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 出火を防ぐために、マッチ・タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、灰皿のフタを確実に閉めてください。
- 出火を防ぐために、灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

アクセサリーソケット／アクセサリーコンセント★

次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。
アクセサリーソケット：
DC12V ／ 10A（消費電力 120W）未満の電気製品
アクセサリーコンセント：
AC100V で最大消費電力 100W 未満の電気製品

■ アクセサリーソケット

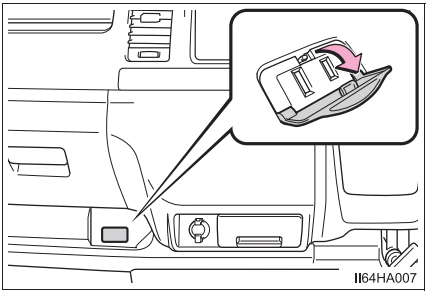
フタを開ける



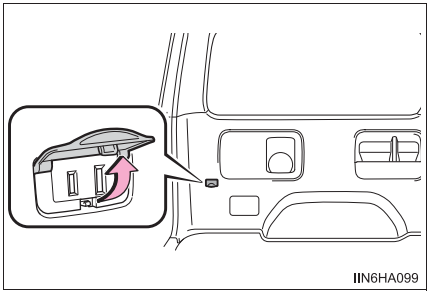
■ アクセサリーコンセント

フタを開ける

▶ フロント



▶ リヤ★



知識

作動条件：

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ ACC ”または“ ON ”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ショートや故障を防ぐために

挿し込み口に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

▶アクセサリーソケット

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

▶アクセサリーコンセント

AC100V で最大消費電力が 100W 以上の電気製品は使用しないでください。消費電力が 100W 以上の電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間使用しないでください。（エンジンがかかっていても、アイドリング状態で長時間使用しないでください）

■AC アダプターを使用するときは（アクセサリーコンセント）

フタが破損するおそれがあるため、直接アクセサリーコンセントに接続しないでください。

■正しく作動しないおそれがある電気製品（アクセサリーコンセント）

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50 ／ 60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

お手入れのしかた 7

7-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....294
内装の手入れ.....297
7-2. 簡単な点検・部品交換
エンジン点検口.....300
ボンネット.....304
ガレージジャッキ.....307
ウォッシャー液の補充.....309
タイヤについて.....310
タイヤ空気圧について.....313
エアコンフィルターの清掃.....315
キーの電池交換.....318
ヒューズの点検・交換.....321
電球（バルブ）の交換.....324

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- アウターミラー・アンテナ★を格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアウターミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■高圧洗車機を使うときは

●車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●バックドア内に水が入るおそれがあるため、ハイマウントストップランプ部とノズル先端の距離を十分離してください（約 50 cm 以上）。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■アルミホイール★

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

⚠ 警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。ディーゼル車は特に高温になりますのでご注意ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使うときは（電動アウターミラー装着車）

車両前面を洗浄するブラシは作動させないでください。
フロントアンダーミラー（→P. 141）が破損するおそれがあります。

■アンテナ★の損傷を防ぐために

→P. 235

■高圧洗浄機を使用するときは

ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

●駆動系部品

●ステアリング部品

●サスペンション部品

●ブレーキ部品

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施ください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

⚠警告

■車の故障や車両火災を防ぐために

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 車内で可燃性のスプレー（洗浄剤・消臭剤・潤滑剤など）を使用する場合は、電気部品などにかからないようにしてください。故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。（→ P. 31）
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次の注意をお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオ★やフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは（リヤウインドウデフォッガー装着車）

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■リヤクォーターガラスの内側を掃除するときは（リヤクォーターガラスアンテナ装備車）

●アンテナ線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、アンテナ線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●アンテナ線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジン点検口

エンジンカバーを持ち上げて、エンジンルームの点検などが行えます。

エンジン点検口を開ける前に

開ける角度によっては、セカンドシート※1 やセパレーターバー※1 が干渉する場合があります。エンジン点検口を開ける前に、確認・調整を行ってください。（→ P. 112, 125）

※1 装着車のみ

エンジン点検口の開け方

1 エンジンを停止し、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は 1 速にする

エンジンをかけたままエンジン点検口を開けるとき、または点検口を開けたあとにエンジンの始動が必要な場合は、シフトレバーを必ず N にしてください。（マニュアル車のみ）

2 パーキングブレーキを確実にかける（→ P. 183）

3 次のようにシートを操作する

▶ スーパー GL・デラックス 2 人乗り

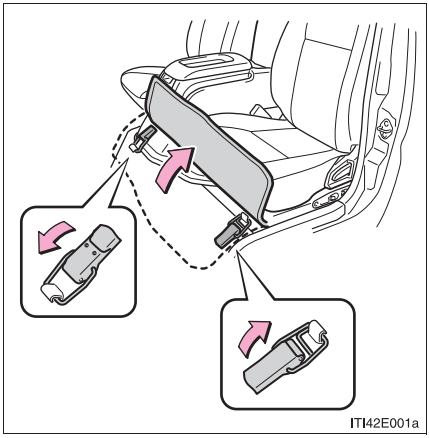
セカンドシートを着座状態にし※2、助手席の前後位置をいちばんうしろに移動してヘッドレストを取りはずす（→ P. 109, 114）

※2 スーパー GL のみ

▶ デラックス（2 人乗り車を除く）

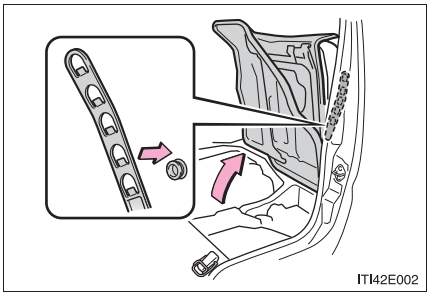
助手席・中央席を前倒しする（→ P. 109）

4 カバーをめくってロック（2ヶ所）を解除する



5 エンジンカバーを持ち上げ、バンドをフックにかけて固定する

フックをバンドの穴にしっかりとはめ込んで、確実に固定されたことを確認してください。



6 エンジン点検口を閉めるときは逆の手順で操作する

セパレーターバーを取りはずした場合は、走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。

⚠ 警告

■走行前の確認

エンジンカバーがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にシートが突然動いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■エンジンカバーを開けるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●走行中にエンジンカバーを開けない
- ●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、オートマチック車はシフトレバーをＰに、マニュアル車はシフトレバーを１速※にする
- ●お子さまに操作させない

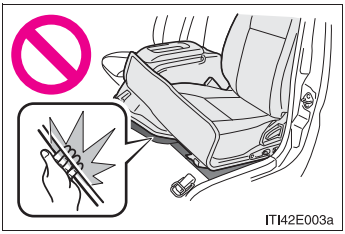
※ エンジンをかけたままエンジン点検口を開けるとき、または点検口を開けたあとにエンジンの始動が必要な場合は、シフトレバーを必ずＮにしてください。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■エンジンカバーを閉めるときは

エンジンカバーを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠ 注意

■ エンジンカバーを開ける前の注意

エンジンカバーを開けると、シートバックコンソール★・センターコンソールボックス★も同時に持ち上がります。荷物の破損などを防ぐため、次のことをお守りください。

- ●オープントレイ上に荷物がある場合は降ろしておく
- ●ボックス内に壊れやすいものがある場合は取り出しておく
- ●カップホルダーに飲み物が置かれていないことを確認する

■ エンジンカバーを閉めるときは

シートベルトを挟み込まないように注意してください。

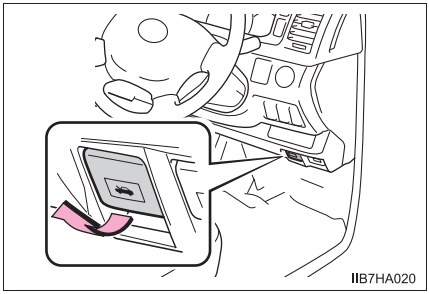
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

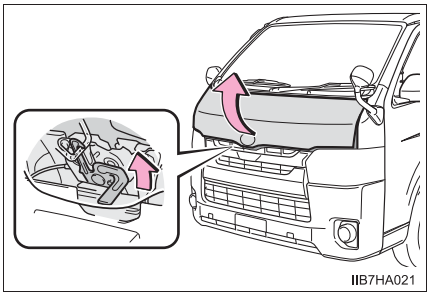
ボンネットが少し浮き上がります。



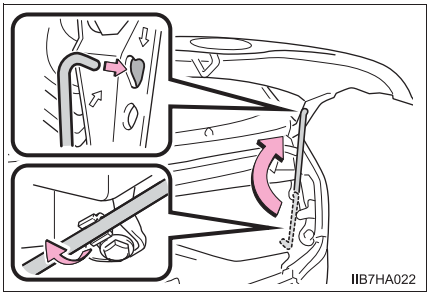
2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

電動アウターミラー非装着車：
開ける前に助手席側アウターミラーが復帰状態になっていることを確認してください。

電動アウターミラー装着車：
開けるときにボンネットが補助ミラーにあたる場合は、補助ミラーを調整してください。



3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



⚠ 警告

■走行前の確認

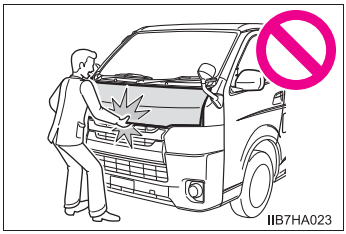
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ボンネット内を点検したあとは

ボンネット内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをボンネット内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、ボンネット内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

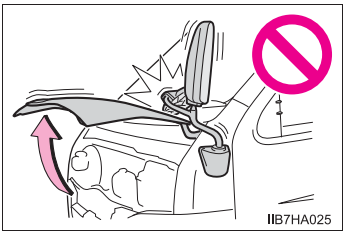


⚠ 注意

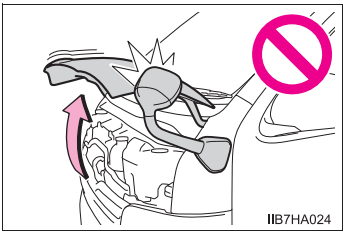
■ ボンネットへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- 補助ミラーまたは、助手席側アウターミラーの位置によっては、ボンネットがあたり、ボンネットとミラーが損傷するおそれがあります。

・電動アウターミラー非装着車：ボンネットを開ける前に、助手席側アウターミラーが復帰状態になっていることを確認してください。



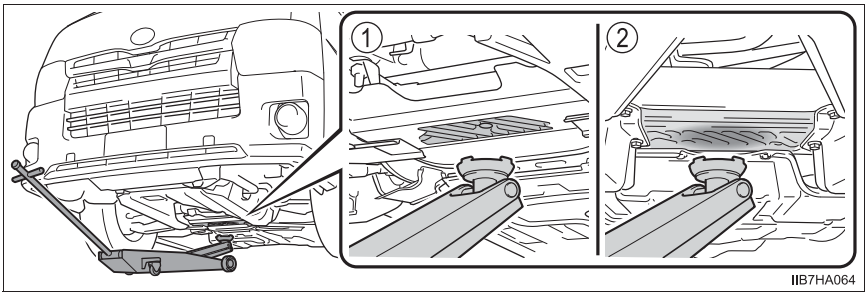
・電動アウターミラー装着車：ボンネットを開けるときに補助ミラーにあたる場合は、補助ミラーの位置を調整してください。



ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。
ガレージジャッキを使用して車両を持ちあげるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

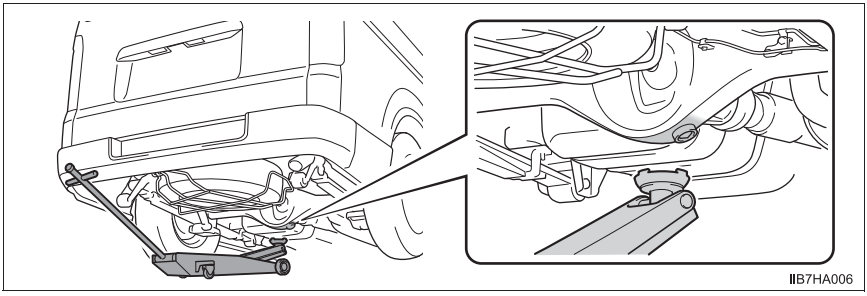
◆ フロント側



① FR 車

② 4WD 車

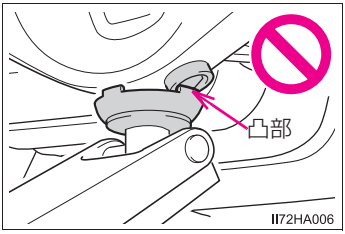
◆ リヤ側



⚠ 注意

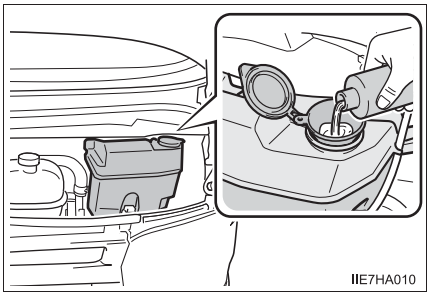
■ ガレージジャッキでリヤ側を持ちあげるとき

ガレージジャッキの受け皿の凸部がボルトにあたらないようにしてください。ボルトがゆるんでオイルがもれるおそれがあります。



ウォッシャー液の補充

タンク側面から液量を確認し、不足しているときは、キャップを開けてウォッシャー液を補充する



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ラジエーターなどの高温部にかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を FR 車は 10,000km ごとに、4WD 車は 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

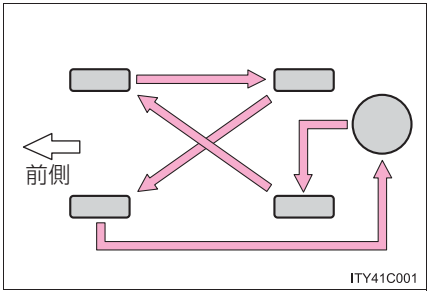
- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

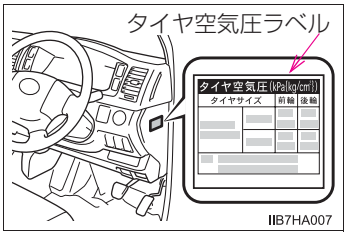
タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、インストルメントパネル横（運転席側）のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

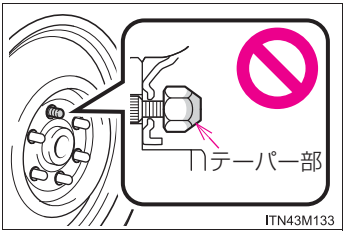
異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

⚠ 警告

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。(→ P. 409)

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

⚠ 警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠ 注意

■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの清掃

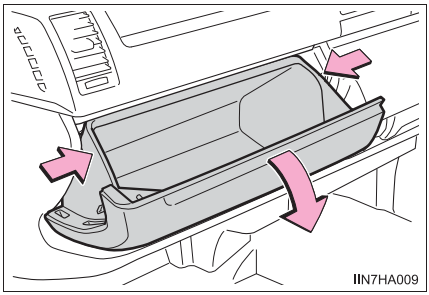
エアコン・リヤクーラー★を快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃してください。

清掃のしかた

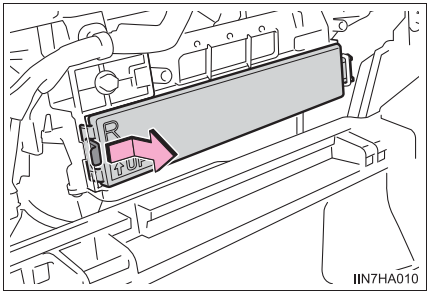
▶ フロントエアコン

1 エンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にする

2 グローブボックスを開き、グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす

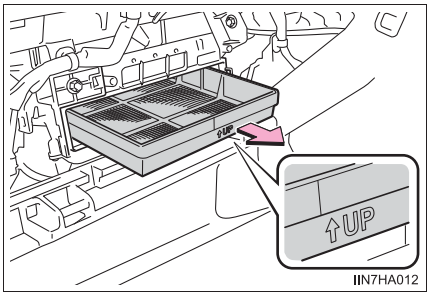


3 フィルターカバーを取りはずす



4 エアコンフィルターを取りはずして清掃する

水洗いするか、裏面からエアブローでほこりを取り除きます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

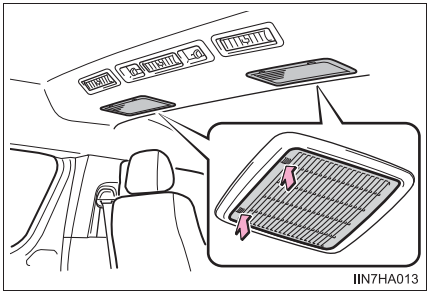
5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

▶ リヤクーラー★

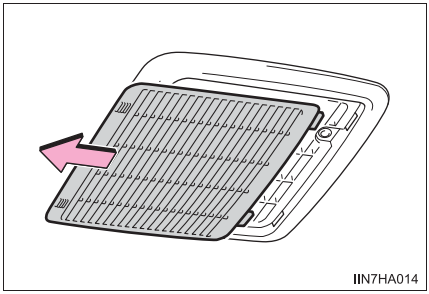
1 エンジンスイッチを“ LOCK ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にする

2 図に示す位置（2ヶ所）を押して、ロックをはずす



3 エアコンフィルターを取りはずして清掃する

水洗いするか、裏面からエアブローでほこりを取り除きます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

エアコンフィルターのツメを挿し込んでから、反対側を押さえてロックします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■フィルターの清掃について

エアコン・リヤクーラー★を快適にお使いいただくために、フィルターを定期的に清掃してください。

■エアコン・リヤクーラー★の風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを清掃してください。

注意

■エアコン・リヤクーラー★を使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコン・リヤクーラー★を使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは水洗いするか、エアブローを使って清掃してください。ブラシなどでこすると、フィルターが損傷するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

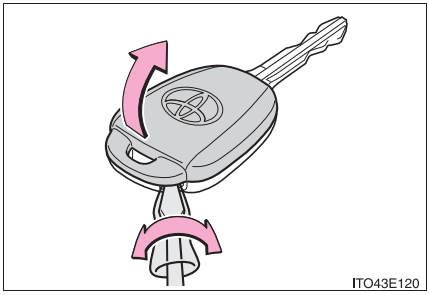
- マイナスドライバー
- リチウム電池
  - ・CR2016（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）
  - ・CR2032（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電池交換のしかた

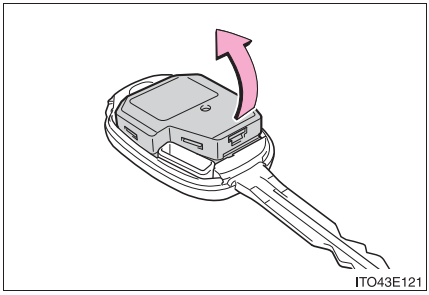
▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

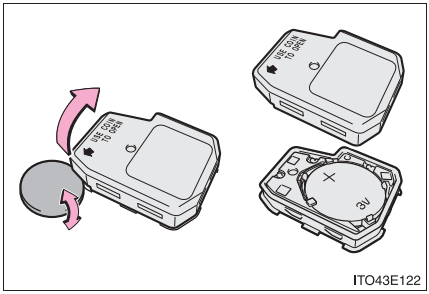

ITO43E120

2 モジュールを取り出す


ITO43E121

3 コインなどを使用してモジュールカバーをはずし、消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。



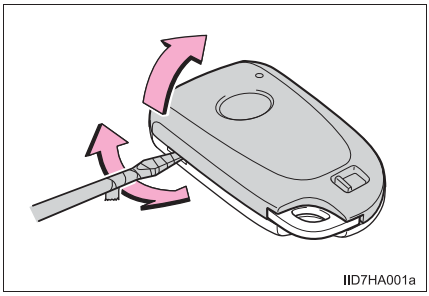
ITO43E122

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

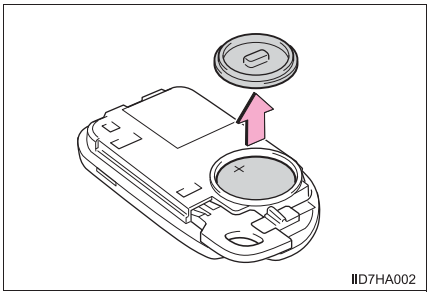
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


IID7HA001a

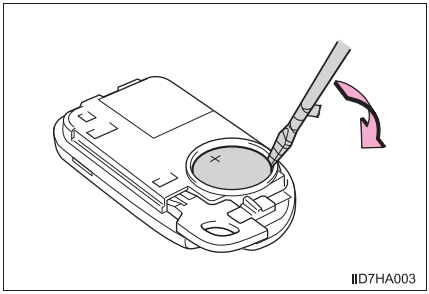
2 電池のフタをはずす

取っ手を引っ張り電池のフタを取りはずします。


IID7HA002

3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+ 極を上にして取り付けます。


IID7HA003

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：CR2016
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：CR2032

■電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム★、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

⚠警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にする

2 ヒューズボックスを開ける

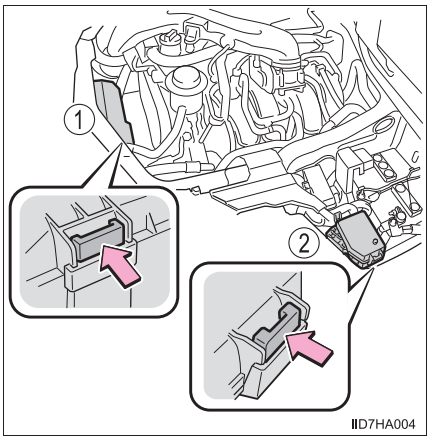
▶ エンジンルーム内

エンジン点検口（→P. 300）を開けて、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

① 中央ヒューズボックス

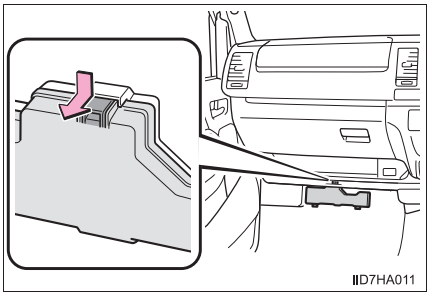
② バッテリー横ヒューズボックス

イラストはガソリン車で代表しています。



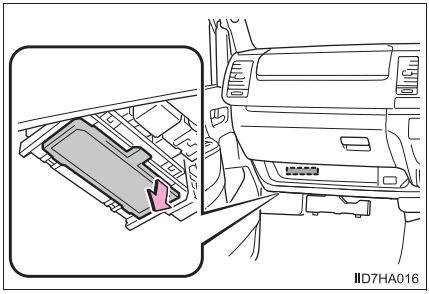
▶ 助手席足元

ツメを押しながら、カバーを手前に引く



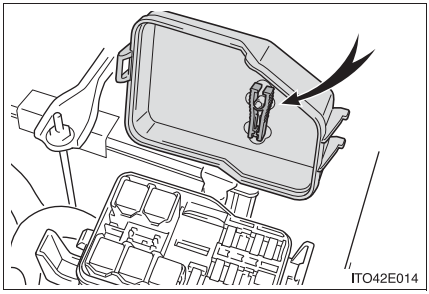
▶ グローブボックス下

ヒューズボックスカバーを取りはずす



3 ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

ヒューズはずしは、エンジンルーム内にある、バッテリー横ヒューズボックスのカバーに付いています。

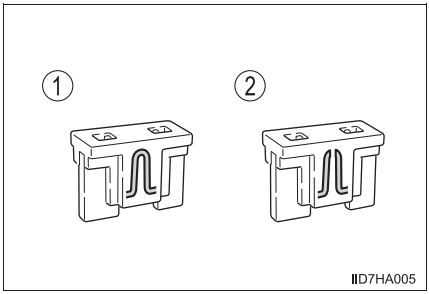


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 324）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■バッテリーがはずされたり、バッテリーがあがってしまった場合は

次の装置の初期化が必要です。

●パワースライドドア★（→ P. 89）

●パワーウインドウ（→ P. 144）

⚠ 警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

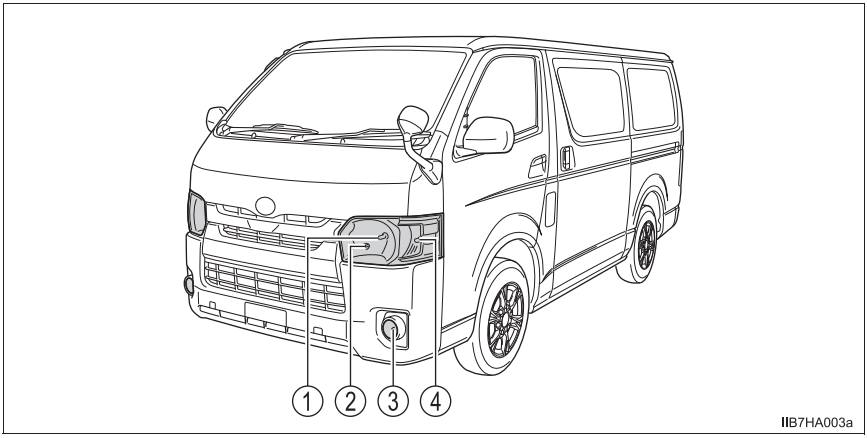
電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→P. 410）

バルブ位置

■ フロント

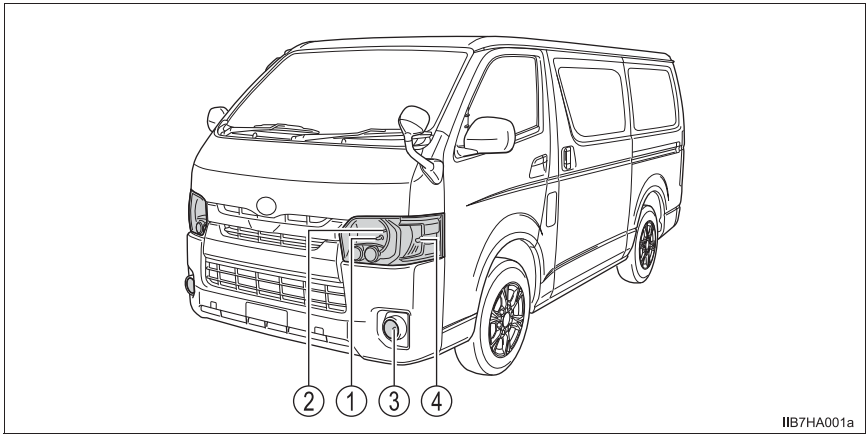
▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



① ヘッドランプ
② 車幅灯
③ フロントフォグランプ★
④ フロント＆サイド方向指示灯／非常点滅灯

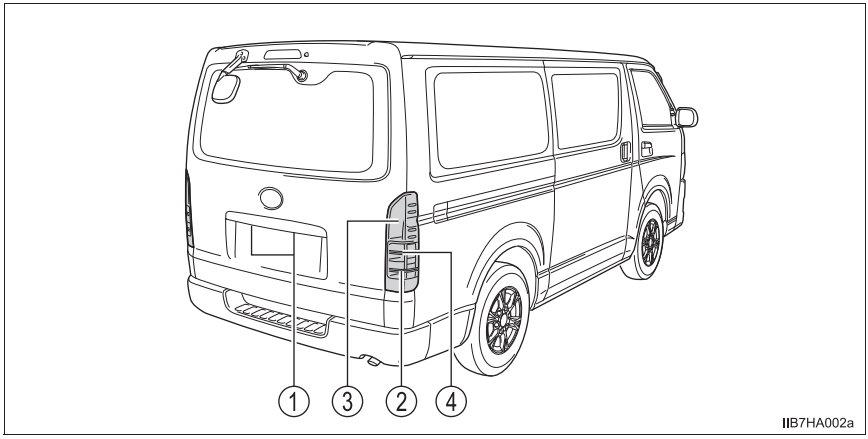
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ LED ヘッドランプ装着車



① ヘッドランプ（ハイビーム）
② 車幅灯
③ フロントフォグランプ★
④ フロント＆サイド
方向指示灯／非常点滅灯

■ **リヤ**



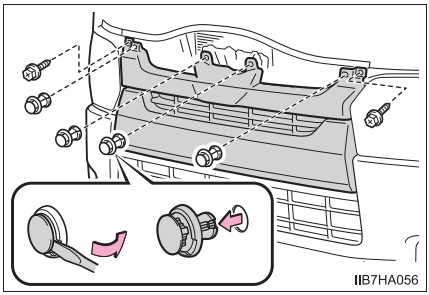
① 番号灯
② 後退灯／リヤフォグランプ★
③ 制動灯／尾灯
④ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球交換のしかた

■ ヘッドランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車）

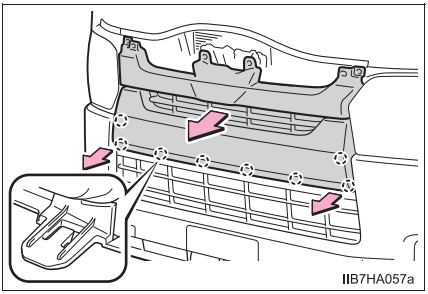
1 クリップ（4 個）とネジ（2 本）をはずす



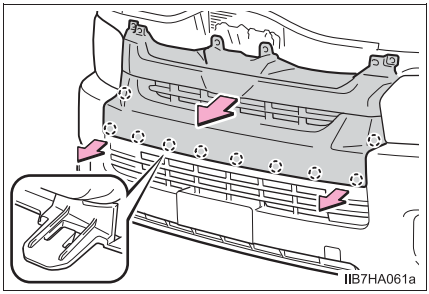
2 ラジエーターグリルを手前に引いて取りはずす

下のツメを先にはずしてから取りはずしてください。

▶ 標準ボデー

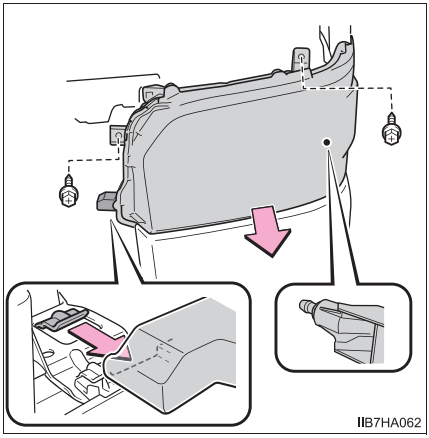


▶ ワイドボデー

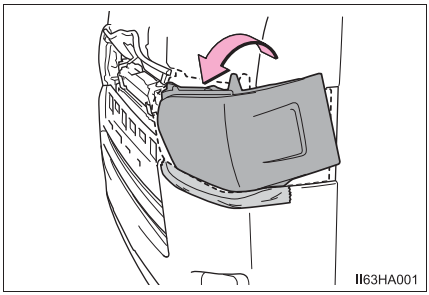


3 電球を交換する側のドア（運転席または助手席）を開けて作業スペースを広げ、バンパーのヘッドランプ前側部分に保護テープを貼る

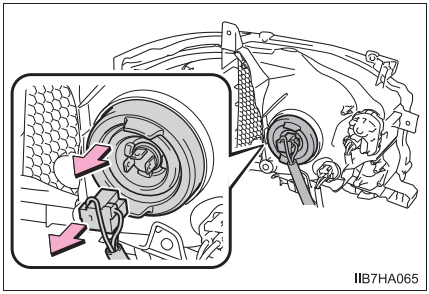
4 ネジ（2 本）をはずし、ヘッドランプ本体を手前に引いて各部の固定をはずす



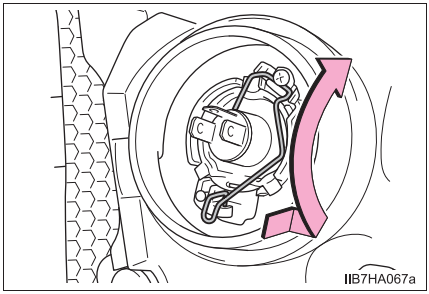
5 ヘッドランプ本体を回転させながら取りはずす



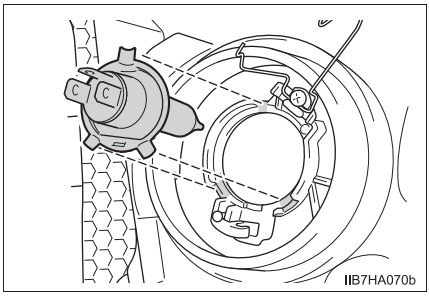
6 コネクターとゴムカバーを取りはずす



7 止め金をはずす



8 電球を取りはずす

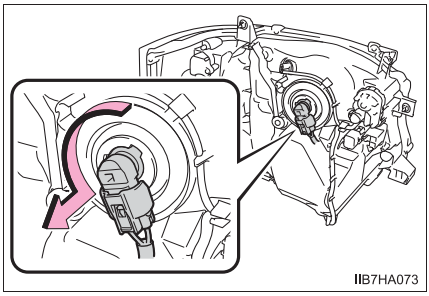


9 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

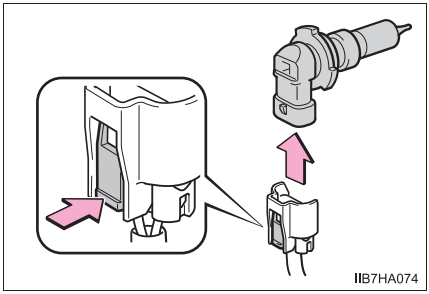
■ ヘッドランプ　ハイビーム（LED ヘッドランプ装着車）

1 ヘッドランプ本体を取りはずす（→ P. 326）

2 ソケットを取りはずす

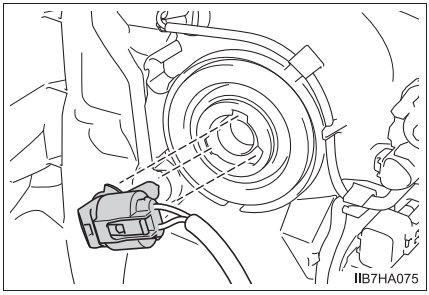


3 電球を取りはずす



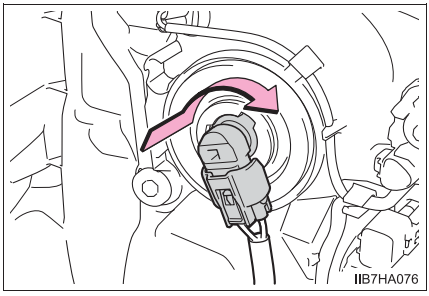
4 電球を交換し、ソケットを取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3 か所）を合わせて挿し込みます。



5 ソケットをまわして固定する

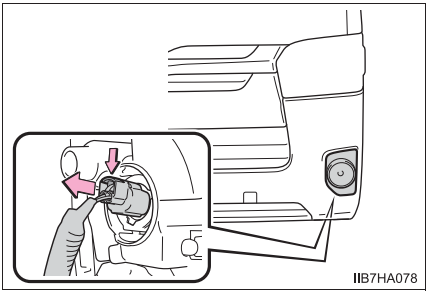
ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



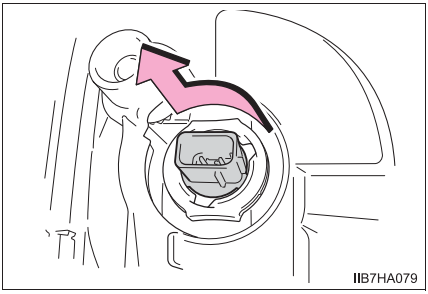
6 ヘッドランプ本体を取り付ける

■ フロントフォグランプ★

1 コネクターを取りはずす

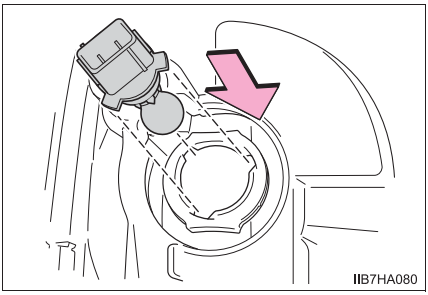


2 電球を取りはずす



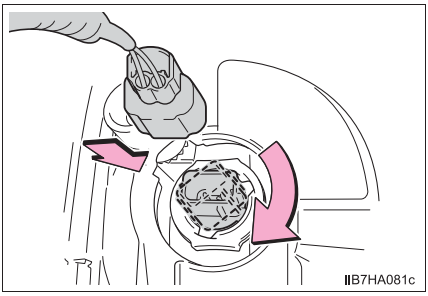
3 新しい電球を取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3 か所）を合わせて挿し込みます。



4 電球をまわして固定し、コネクターを取り付ける

電球を軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんフロントフォグランプを点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



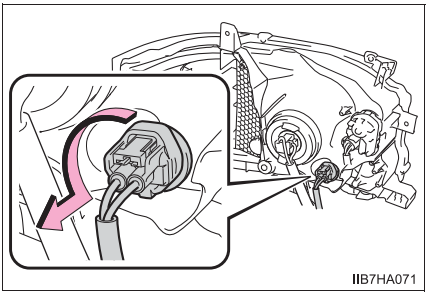
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

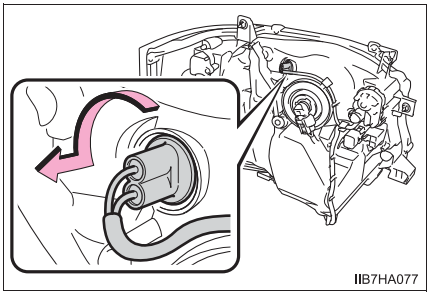
■ 車幅灯

1 ヘッドランプ本体を取りはずす（→ P. 326）

2 ソケットを取りはずす

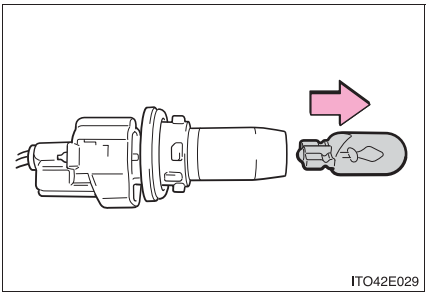
▶ ハロゲンヘッドランプ装着車　▶ LED ヘッドランプ装着車

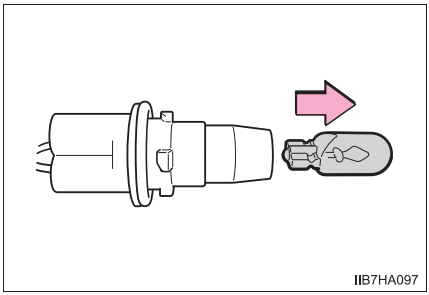




3 電球を取りはずす

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車　▶ LED ヘッドランプ装着車





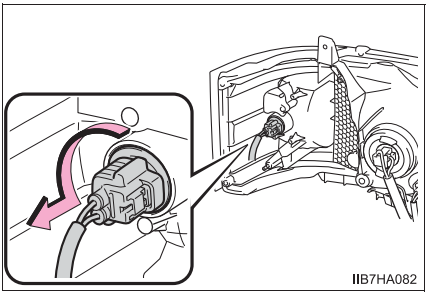
4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ **フロント&サイド方向指示灯／非常点滅灯**

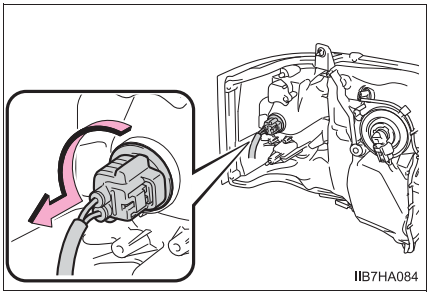
1 ヘッドランプ本体を取りはずす（→ P. 326）

2 ソケットを取りはずす

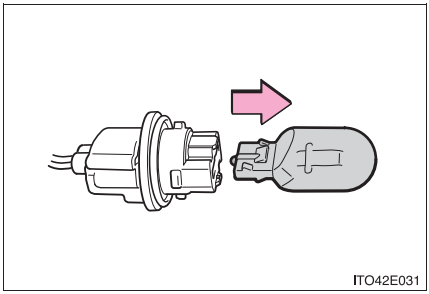
▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



▶ LED ヘッドランプ装着車



3 電球を取りはずす

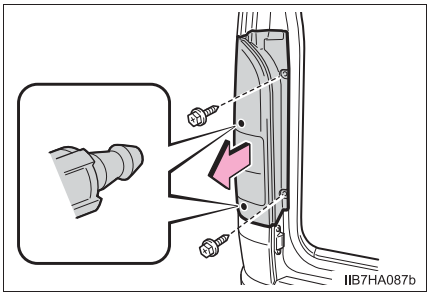


4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 制動灯／尾灯・リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯／リヤフォグランプ★

1 ネジ（2 本）をはずし、ランプ本体を手前に引き出す

コネクターケーブルを損傷しないよう、慎重に作業してください。



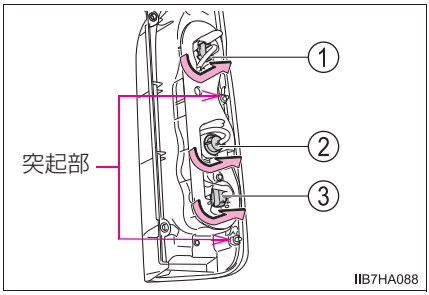
2 ソケットを取りはずす

① 制動灯／尾灯

② リヤ方向指示灯／非常点滅灯

③ 後退灯／リヤフォグランプ※

※ 運転席側のみに装着されます。

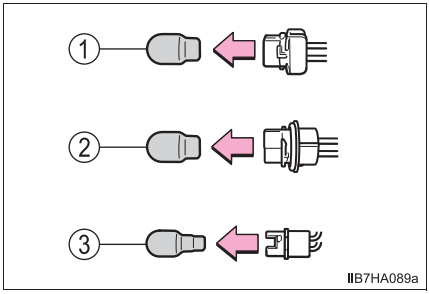


3 電球を取りはずす

① 制動灯／尾灯

② リヤ方向指示灯／非常点滅灯

③ 後退灯／リヤフォグランプ



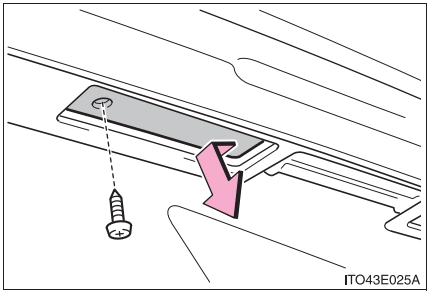
4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

突起部をしっかりとはめ込んでください。

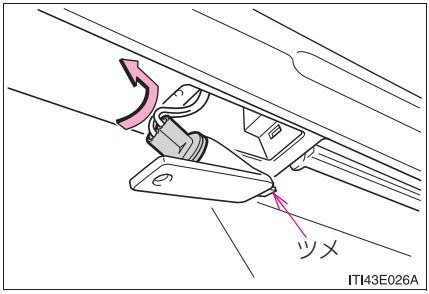
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **番号灯**

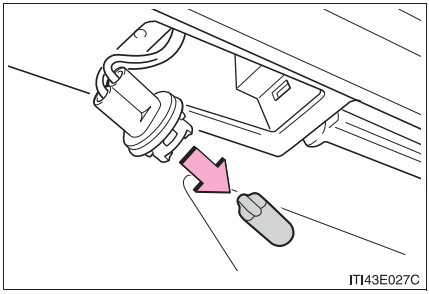
1 交換する側のネジ（1 本）をはずし、ランプ本体を引き出す



2 ソケットを取りはずす



3 電球を取りはずす



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

ランプ本体のツメが確実にかかっていることを確認してください。

■ **次の電球を交換するには**

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ　ロービーム（LED ヘッドランプ装着車）
- ハイマウントストップランプ

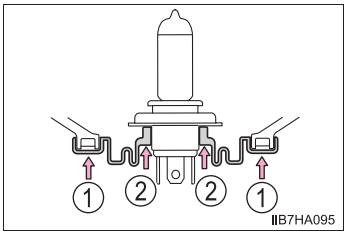
知識

■ハロゲンヘッドランプ★のゴムカバーを取り付けるときは

確実にはめ込まれていることを確認してください。

① ゴムカバーの外周をしっかりとはめ込む

② ゴムカバー内周（電球まわり）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込む



■LED ランプについて

LED ヘッドランプ★とハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

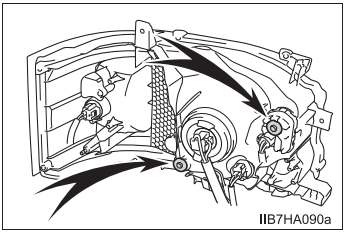
- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

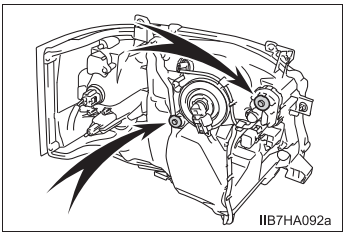
■ヘッドランプ本体の固定をはずすときは

●ヘッドランプの光軸がずれるおそれがあるため、光軸調整用のネジにふれないでください。

▶ハロゲンヘッドランプ装着車



▶LED ヘッドランプ装着車



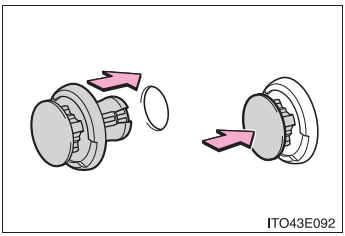
●電球を交換したあとは、トヨタ販売店でヘッドランプの光軸の点検を受けてください。

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ラジエーターグリルのクリップの取り付け

クリップを穴に挿し込み、中央部を押し込む



⚠ 警告

■電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
  また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
  取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には 8

8-1. まず初めに

故障したときは.....340
非常点滅灯（ハザードランプ）.....341
発炎筒.....342
車両を緊急停止するには.....344

8-2. 緊急時の対処法

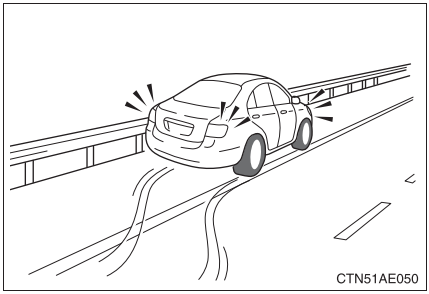
けん引について.....346
フューエルポンプシャットオフシステム（ガソリン車）.....354
警告灯がついたときは.....355
警告メッセージが表示されたときは.....359
パンクしたときは.....367
エンジンがかからないときは.....386
電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）.....388
バッテリーがあがったときは.....390
オーバーヒートしたときは.....395
スタックしたときは.....398

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

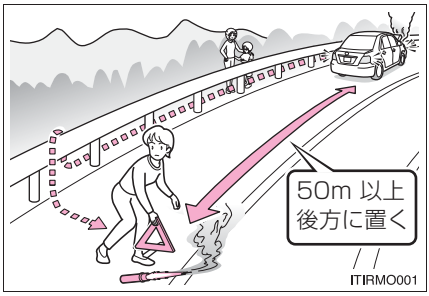
非常点滅灯（→ P. 341）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。


CTN51AE050

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 342）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

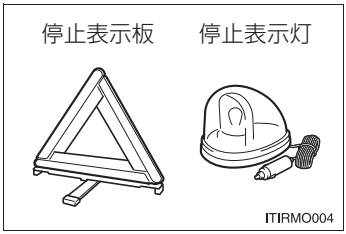


ITIRMO001

知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。



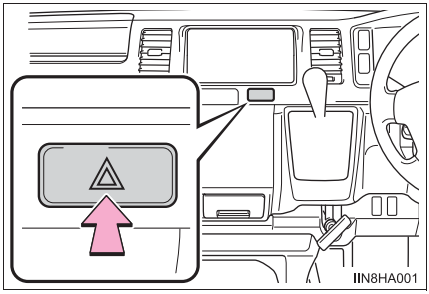
ITIRMO004

非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。



知識

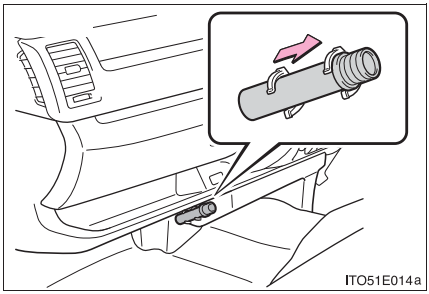
■非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

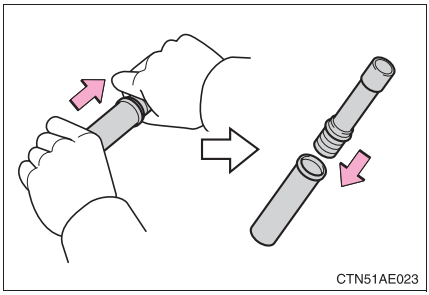
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

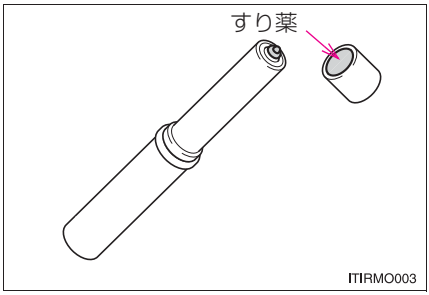


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠ 警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

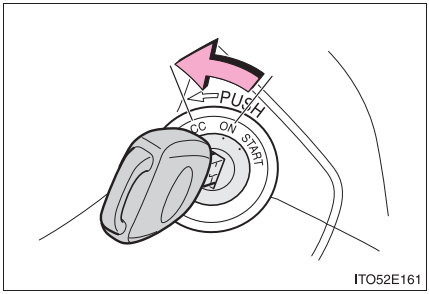
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

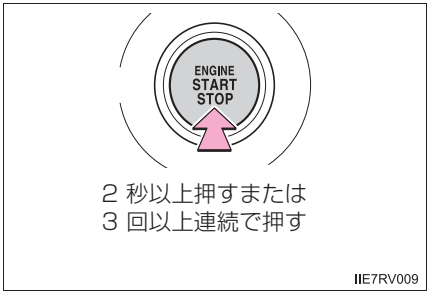
3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“ ACC ”にして、エンジンを停止する



ITO52E161

スマートエントリー＆スタートシステム装着車：エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



2 秒以上押すまたは
3 回以上連続で押す
IIE7RV009

5 車を安全な道路脇に停める

知識

■エンジンを再始動するには（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

走行時のエンジン緊急停止後にエンジンを再始動するには、シフトレバーを N にしてからエンジンスイッチを押します。

⚠警告

■走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

- ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

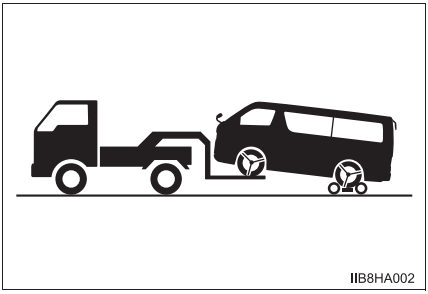
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

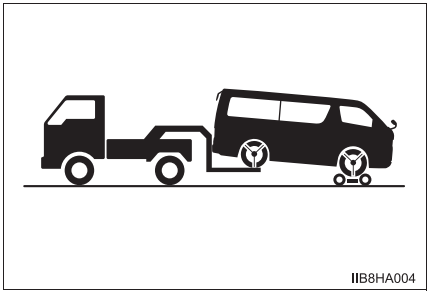
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

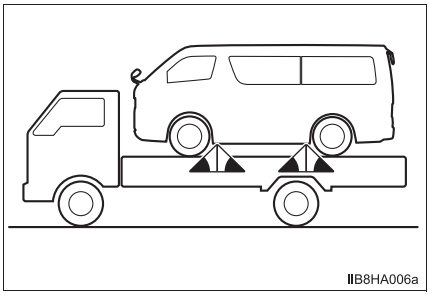
▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する

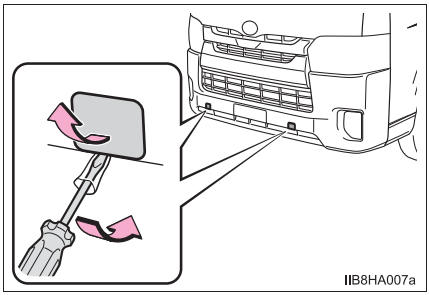


他車にけん引してもらうとき

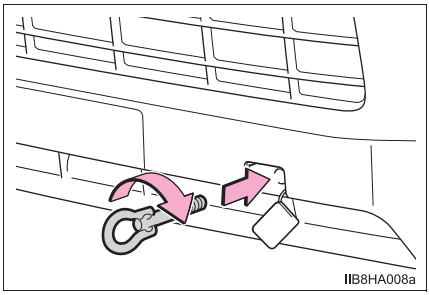
1 けん引フックを取り出す（→ P. 370, 373）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

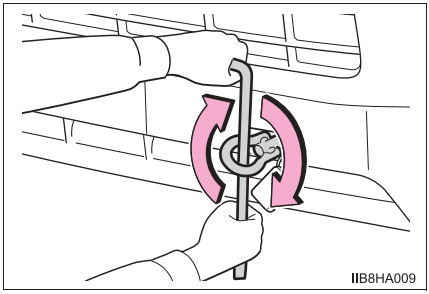
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

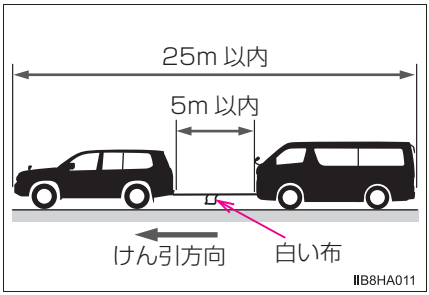


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm × 30cm）以上



7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを“ ON ”にしてください。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車：エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 177

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

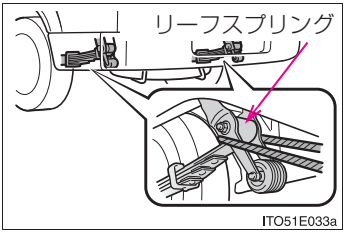
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

工具袋に搭載されています。(→ P. 368, 369)

■リーフスプリングについて

リーフスプリングは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用することができます。ロープは図に示す箇所にかけてください。



⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

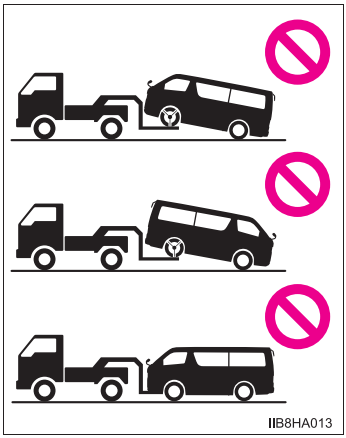
■レッカー車でけん引するとき

▶FR 車

必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きが変わり事故につながったりするおそれがあります。

▶4WD 車

必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。


IIB8HA013

■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または、OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にしないでください。
  ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

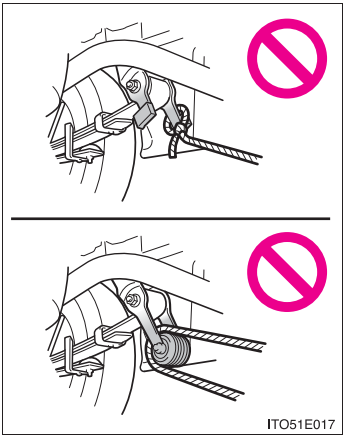
■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないと、けん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 警告

■ やむを得ず他車をけん引するときは

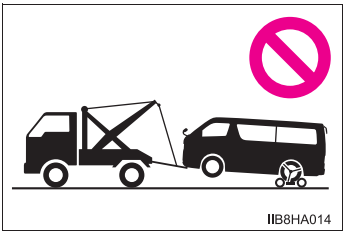
図のようなリーフスプリング付きの車両は、図に示す部分でのけん引は絶対にしないでください。



⚠ 注意

■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■ 車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■駆動系部品の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■リーフスプリングについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム（ガソリン車）

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システム作動後にエンジンを再始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

1 エンジンスイッチを“ ACC ”または“ LOCK ”にする

2 エンジンを再始動する

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

1 エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にする

2 エンジンを再始動する

⚠ 注意

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯（警告ブザー※1） ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
	充電警告灯 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 ・排出ガス浄化装置の異常★ **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステム★の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ABS 警告灯 ABS の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ヘッドランプオートレベリング警告灯★ 自動光軸調整システムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	LED ヘッドランプ警告灯★ LED ヘッドランプの異常 異常時は LED ヘッドランプは点灯しませんが、故障の状況によっては、点灯できる場合があります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	半ドア警告灯（警告ブザー※ 2) いずれかのドアが確実に閉まっていない **→ 全ドアを閉める**
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 10.5 L 以下になった **→ 燃料を補給する**
	運転席／助手席★シートベルト非着用警告灯(警告ブザー※ 3) 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
	マスターウォーニング★ システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 **→ P. 359**
	ブレーキオーバーライドシステム警告灯 警告灯が点灯した場合： アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれてブレーキオーバーライドシステムが作動した(→ P. 151) **→ アクセルペダル、またはブレーキペダルから足を離してください。** 警告灯が点滅した場合： ブレーキオーバーライドシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	タイミングベルト交換警告灯（ディーゼル車） タイミングベルトの交換時期 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	油量警告灯 エンジンオイル量の不足 **→ エンジンオイルを補給してください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	排出ガス浄化装置警告灯（ディーゼル車） 警告灯が点滅した場合： 排出ガス浄化装置に捕集したススの燃焼処理が必要です **→ 手動でススの燃焼処理を行う。（→ P. 214）** 警告灯が点灯した場合： **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	油圧警告灯（警告ブザー） エンジンオイルの圧力異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	フューエルフィルター／燃料・水分離器水位警告灯（ディーゼル車） フューエルフィルターの異常／燃料・水分離器の排水時期 警告灯が点灯した場合： 走行中、フューエルフィルターが目づまりを起こす 警告灯が点滅した場合： エンジン回転中、燃料・水分離器内に規定レベルの水がたまる **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	スマートエントリー＆スタートシステム表示灯（警告ブザー）★ マルチインフォメーションディスプレイの警告表示をもとに適切に対処してください。 **→ P. 362**

※1 **パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：**
パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。
警告ブザーが鳴ったときは、パーキングブレーキを解除してください。
ブレーキ警告ブザー：
ブレーキ液が不足しているときに、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

※2 **半ドア走行時警告ブザー：**
いずれかのドアが確実に閉まっていない状態で走行し、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※3 **運転席／助手席★シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席／助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

⚠ 警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ブレーキ警告灯について（ディーゼル車）

ポンピングブレーキ※を行うと、一時的に点灯することがあります。この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるおそれがあります。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。なお、その後消灯すれば異常ではありません。

※ ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

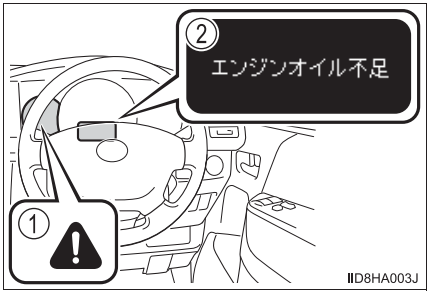
警告メッセージが表示されたときは★

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

① マスターウォーニングランプ

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ・警告ブザー一覧

警告メッセージ	警告内容・対処方法
パーキングブレーキを解除してください 	**パーキングブレーキが解除されていない** パーキングブレーキをかけたまま、車速が約5km/hをこえたときには ⚠ が点滅しブザーが鳴ります。 **→ パーキングブレーキを解除する**
エンジン油圧不足 	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
ﾍｯﾄﾞﾗﾝﾌﾟ システム故障 販売店で 点検してください 	**ヘッドランプオートレベリングの異常★** **LED ヘッドランプシステムの異常★** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
エンジンオイル不足 	エンジンオイル量の不足 警告ブザーが鳴ります。 → エンジンオイルを補給してください。
アクセルとブレーキが 両方踏まれています （点滅）	アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれてブレーキオーバーライドシステムが作動した （→ P. 151） → アクセルペダル、またはブレーキペダルから足を離してください。
ﾌﾞﾚｰｷｵｰﾊﾞｰﾗｲﾄﾞ システム故障 販売店で 点検してください （点滅）	ブレーキオーバーライドシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
排気浄化装置 再生不十分 停車後 浄化装置 スイッチを押してください （点滅）	排出ガス浄化装置に捕集したススの燃焼処理が必要なとき（ディーゼル車） → P. 214
排気浄化装置 再生不可 販売店で 点検してください 	排出ガス浄化装置の異常（ディーゼル車） → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
燃料フィルタの 水抜きを実施ください 	エンジン回転中、燃料・水分離器内に規定レベルの水がたまったとき（ディーゼル車） → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。
タイミングベルト メンテナンス時期です 販売店で 点検してください	タイミングベルトの交換時期（ディーゼル車） → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
駐車時はPレンジに 入れてください （点滅）	シフトレバーがP以外で運転席ドアを開けたとき 警告ブザーが鳴ります。 → シフトレバーをPにする
エンジン停止 Pレンジに 入れてください （点滅）	シフトレバーがP以外でエンジンを停止したとき 警告ブザーが鳴ります。 → シフトレバーをPにする
エンジン停止 安全な場所に 停車してください （点滅）	車両が走行中にエンジンが突然止まったとき 警告ブザーが鳴ります。 → 路肩など安全な場所に停車する
再始動時は Nレンジにして キーを回してください （点滅）	車両が走行中にエンジンを緊急停止させたとき 警告ブザーが鳴ります。 → エンジンを再始動させる場合は、シフトレバーをNにし、エンジンスイッチをまわす※

※ 車両の状態により、エンジンが再始動できない場合があります。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	3 回	キーが 見つかりません （黄色点滅）	エンジンスイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され、同乗者が電子キーを持ち出した → **電子キーを車内にもどす**
			シフトレバーが P の状態で、エンジンスイッチを OFF にせずに運転席ドアが開閉され電子キーを持ち出した → **エンジンスイッチをOFFにしたあと、電子キーを車内から持ち出す**
1 回	5 秒間吹鳴	キーが 見つかりません 電源を OFFしてください （交互に表示） （点滅）（黄色点滅）	エンジンスイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした → **エンジンスイッチをOFFにしたあと、再度施錠する**
1 回	なし	キーが 見つかりません （15 秒間黄色に点滅）	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でエンジンをかけようとした → **車室内に電子キーがあるか確認する**
9 回	なし	キーが 見つかりません （黄色点滅）	正規の電子キーが車室内にない状態で走行をはじめた → **車室内に電子キーがあるか確認する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
連続音	なし	駐車時はPレンジに入れてください （点滅）	シフトレバーが P 以外の状態でエンジンスイッチを OFF にせずに運転席ドアを開いた **→ シフトレバーを P にする**
連続音	連続音	駐車時はPレンジに入れてください キーが見つかりません （交互に表示） （点滅）（黄色点滅）	シフトレバーが P 以外の状態でエンジンスイッチを OFF にせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された **→ シフトレバーを P にする** **→ 電子キーを車内に入れる**
なし	5 秒間吹鳴	車室内にキーがあります （点滅）	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした **→ 車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する**
1 回	5 秒間吹鳴	車室内にキーがあります （点滅）	車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした **→ 車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	なし	ブレーキを踏みながらキーでエンジンスイッチに触れてください （30 秒間黄色に点滅）	メカニカルキーで解錠してエンジンスイッチを押した際、車室内で電子キーを検出できなかった **→ ブレーキペダルを踏みながら電子キーでエンジンスイッチにふれる**
			エンジンスイッチを押したときに車室内で電子キーを検出できないことが 2 回連続で続いた **→ ブレーキペダルを踏みながら電子キーでエンジンスイッチにふれる**
1 回	なし	スマートエントリー&スタートシステムチェック （15 秒間黄色に点滅）	スマートエントリー&スタートシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
1 回	なし	キーバッテリー残りわずか （15 秒間黄色に点滅）	電子キーの電池残量が少ない **→ 新しい電池と交換する** **（→ P. 318）**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
なし	なし	始動時はブレーキを踏みながらエンジンスイッチを押してください	・エンジンスイッチがOFFの状態でドアロックを解錠し、運転席のドアを開閉した ・エンジンを始動せずにエンジンスイッチをアクセサリーモードにした **→ 始動時はブレーキペダルを踏んでエンジンスイッチを押す**
1回	なし		電子キーが正常に働かないときの始動の方法（→ P. 388）でエンジンスイッチに電子キーをふれた **→ ブザーが鳴ってから10秒以内にエンジンスイッチを押す**
1回	なし	ステアリングロック未解除 （15秒間緑色に点滅）	エンジンスイッチを押してから約3秒以内にステアリングロックが解除できなかった **→ ブレーキペダルを踏んでハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを押す**
なし	なし	バッテリー保護の為自動電源OFFしました	自動電源OFF機能が作動した **→ 次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転数を保持してバッテリーを充電する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1回	なし	駐車時はPレンジに入れてください （点滅）	シフトレバーがPまたはN以外の状態でエンジンスイッチをOFFにした **→ シフトレバーをPにする**
1回	なし	電源をOFFしてください （点滅）	シフトレバーがP以外でエンジンスイッチをOFFにしたあとシフトレバーをPにした **→ エンジンスイッチをOFFにする**
断続音	なし	エンジンスイッチを押し続けるとエンジン非常停止 （点滅）	走行中にエンジンスイッチを押した **→ エンジンを緊急停止させるとき以外は、すみやかにエンジンスイッチから手を離す**
連続音	なし	再始動時はNレンジにしてエンジンスイッチを押してください （点滅）	走行中にエンジンを緊急停止させた **→ エンジンを再始動させる場合は、シフトレバーをNにし、エンジンスイッチを押す※**

※ 車両の状態により、エンジンが再始動できない場合があります。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。(タイヤについての詳しい説明は、P. 310 を参照してください)

⚠ 警告

■タイヤがパンクしたとき

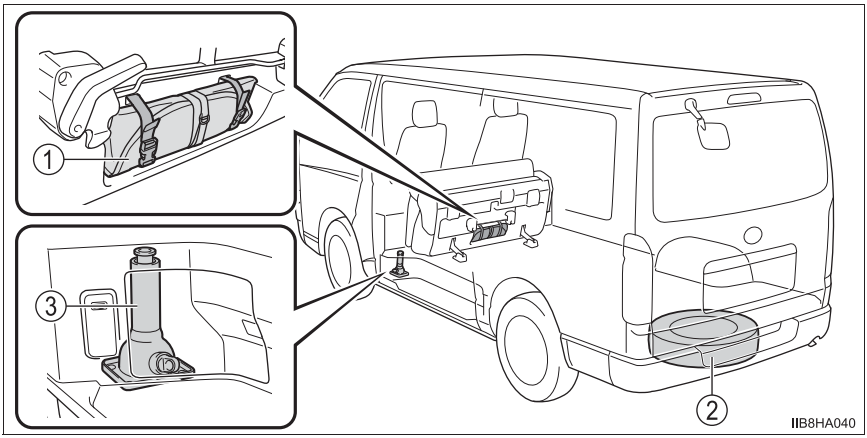
パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- オートマチック車はシフトレバーを P に入れる
- マニュアル車はシフトレバーを R に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 341）
- パワースライドドアメインスイッチを OFF にする（パワースライドドア装着車のみ：→ P. 87）

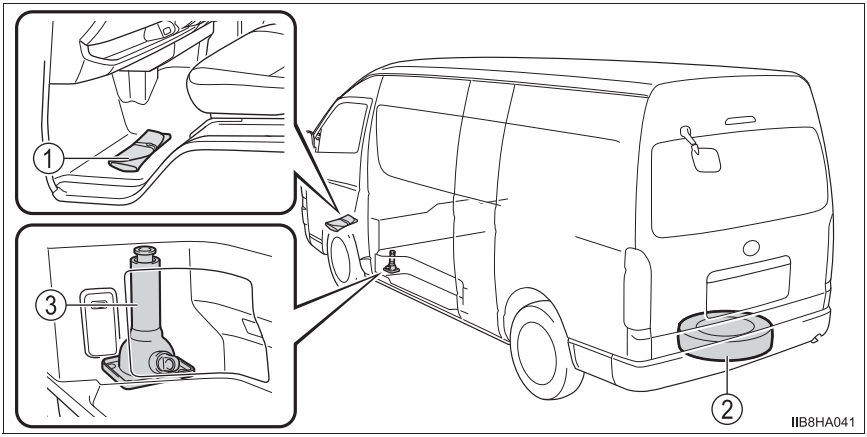
スペアタイヤ・工具・ジャッキの位置

▶ スーパー GL



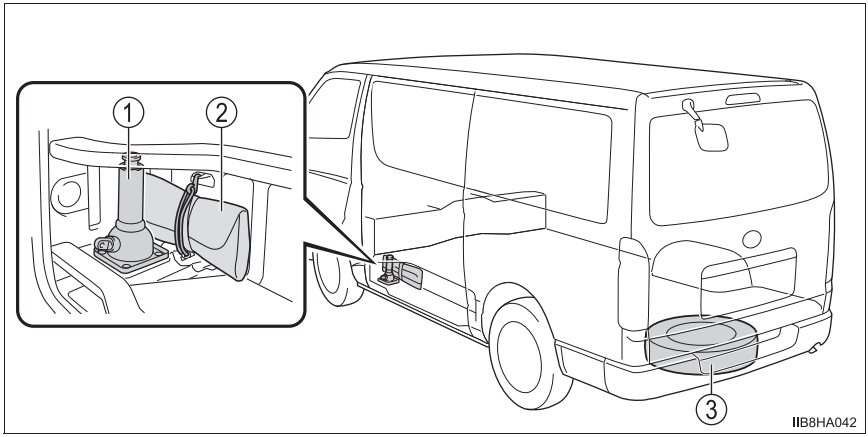
① 工具袋
② スペアタイヤ
③ ジャッキ

▶ デラックス（2 人乗り）



① 工具袋（工場出荷時）
② スペアタイヤ
③ ジャッキ

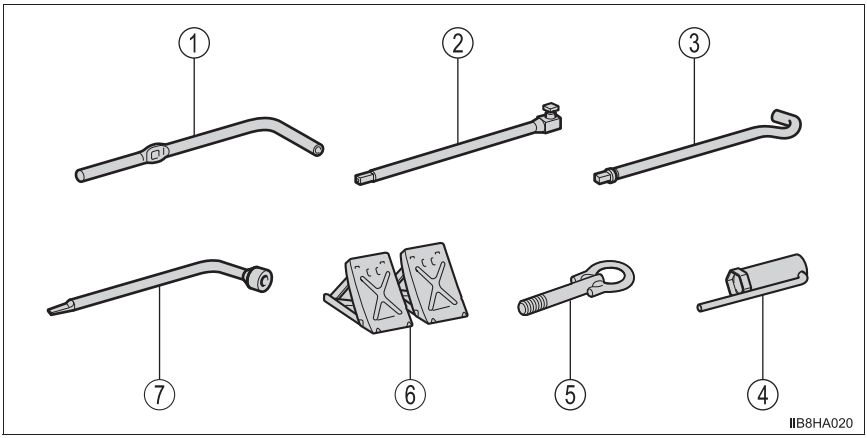
▶ デラックス（3 人乗り・3 ／ 6 人乗り・3 ／ 6 ／ 9 人乗り）



① ジャッキ
② 工具袋
③ スペアタイヤ

工具

工具袋の中に収納されています。（工具袋の取り出し方：→ P. 373）



① ジャッキハンドル
② ジャッキハンドル延長用バー
③ ジャッキハンドルバー
④ スペアタイヤレンチ※1
⑤ けん引フック※2
⑥ 輪止め
⑦ ホイールナットレンチ

※1 ジャストローのみ

※2 けん引フックの搭載数は車種により異なります。

⚠ 警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

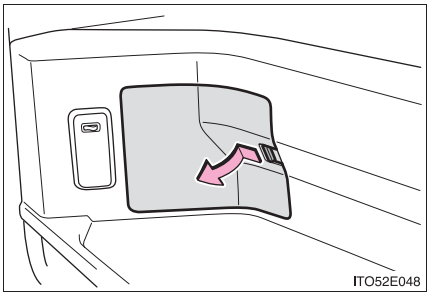
■ジャッキハンドルを使用するときは

使用中、不意に分解しないように、ジャッキハンドル各部を確実に組み付け、接続用ボルトをしっかりと締め付けてください。（→ P. 377）

ジャッキの取り出し方

▶ スーパー GL・デラックス（2 人乗り）

1 ツメを引きながら、カバーを取りはずす

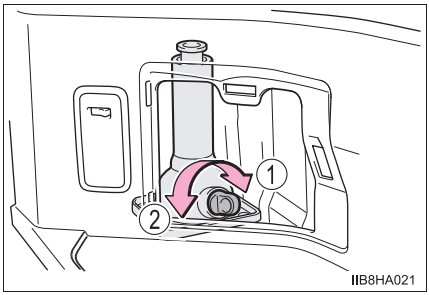


2 ジャッキをゆるめて取りはずす

① 締まる

② ゆるむ

使用後はもとの位置にもどし、確実に固定してください。



▶ デラックス（3 人乗り・3 ／ 6 人乗り・3 ／ 6 ／ 9 人乗り）

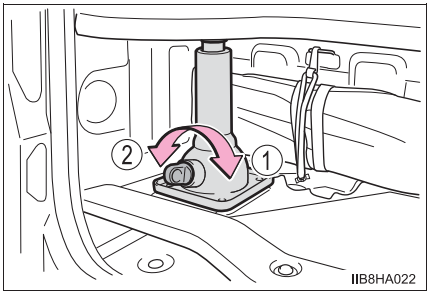
ジャッキをゆるめて取りはずす

① 締まる

② ゆるむ

使用後はもとの位置にもどします。

ジャッキハンドルバー挿し込み部（回転部）が車両外側を向くように置き、確実に固定してください。



工具袋の取り出し方

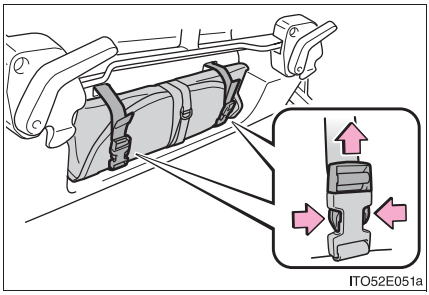
▶ スーパー GL

1 セカンドシートを折りたたむ（→ P. 117）

2 ツメを押しながら、ベルトの留め具をはずす

使用後はもとの位置にもどします。

留め具を結合したあと、ベルトの端を引いて、確実に固定してください。

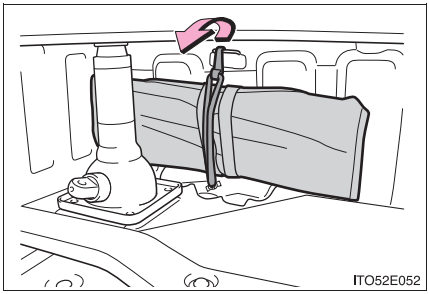


▶ デラックス（3 人乗り・3 ／ 6 人乗り・3 ／ 6 ／ 9 人乗り）

固定バンドをはずす

使用後はもとの位置にもどします。

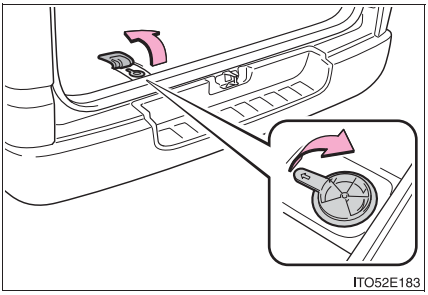
固定バンドで確実に固定してください。



スペアタイヤの取り出し方

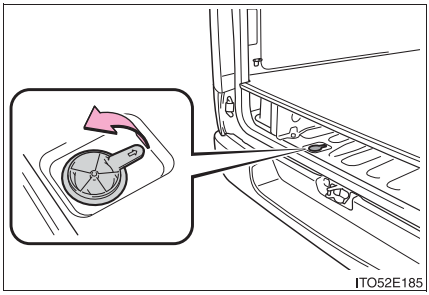
1 キャップをはずす

▶ ジャストローを除く



マットの切り欠き部分をめくり、キャップをはずす

▶ ジャストロー

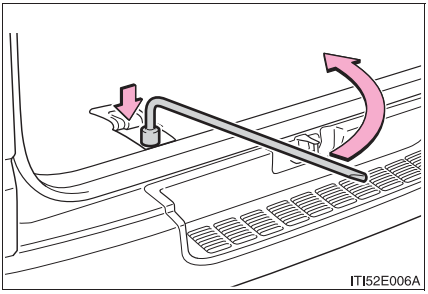


床下収納（→ P. 287）のカバーをはずして、キャップをはずす

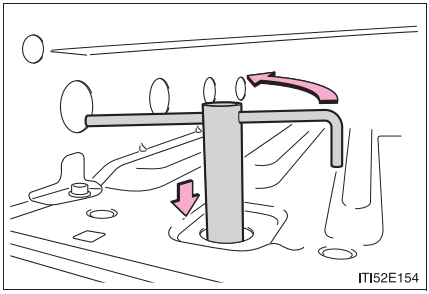
2 ホイールナットレンチ、またはスペアタイヤレンチを使って、スペアタイヤ格納具がフックからはずせる程度にボルトをゆるめる

ボルトをゆるめすぎると、格納具が落下するおそれがあるため注意してください。

▶ ジャストローを除く

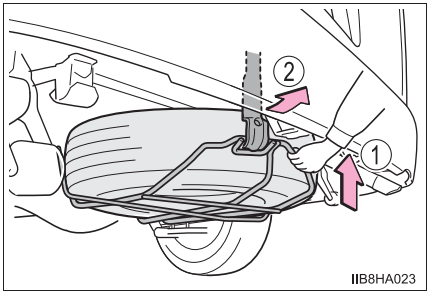


▶ ジャストロー

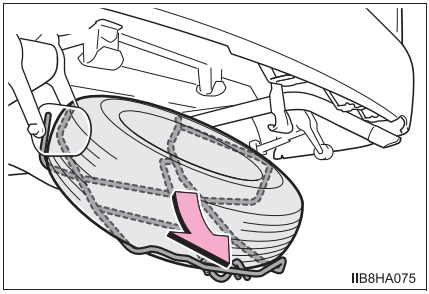


3 スペアタイヤ格納具を少し持ち上げ（①）、フックを手前に引いてはずす（②）

格納具が落下しないように、手でしっかり支えてください。



4 スペアタイヤ格納具を地面に降ろして、スペアタイヤを取り出す

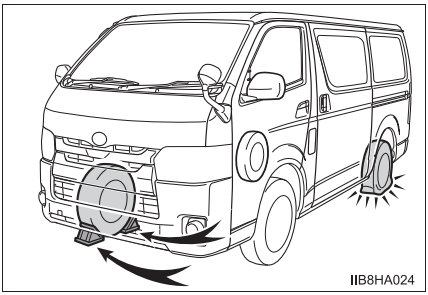


5 スペアタイヤ格納具をいったんもとにもどす

格納具をフックにかけ、ボルトを締め付けてもとにもどします。
スペアタイヤを格納するとき：→P. 383

パンクしたタイヤの交換

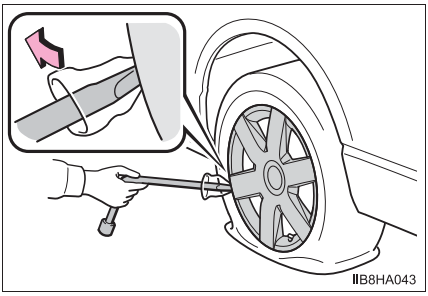
1 輪止めをする



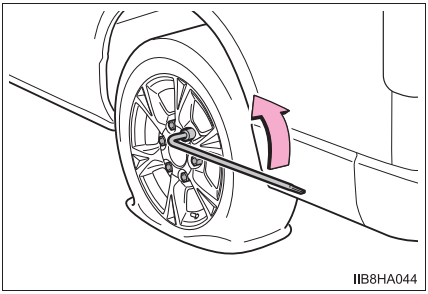
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪の前後
	右側	左側後輪の前後
後輪	左側	右側前輪の前後
	右側	左側前輪の前後

2 ホイールキャップをはずす（スチールホイール装着車）

傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

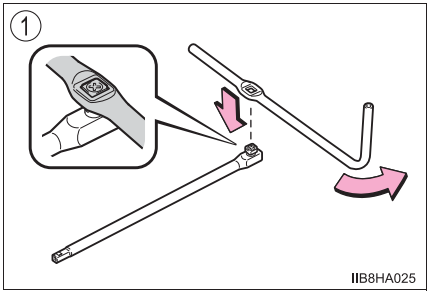


3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

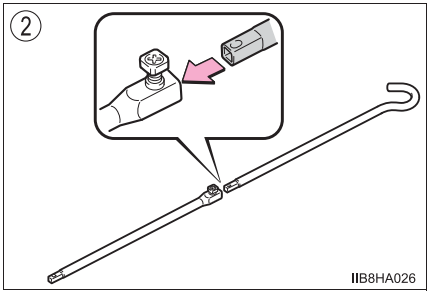


4 ジャッキハンドルを組み付ける

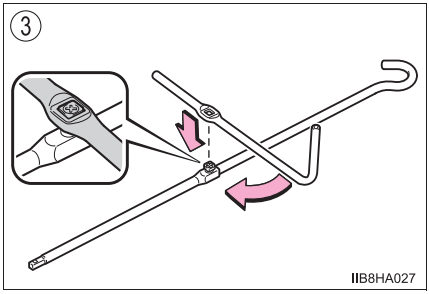
① ジャッキハンドルの穴部を使い、ジャッキハンドル延長用バーの接続用ボルトをゆるめる



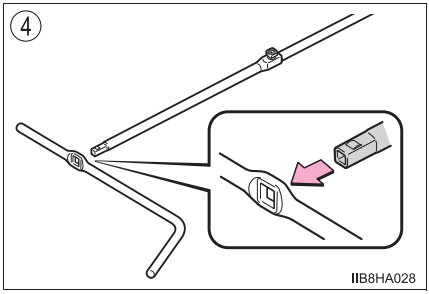
② ジャッキハンドルバーとジャッキハンドル延長用バーとを接続する



③ ジャッキハンドルの穴部を使い、接続用ボルトを締め付ける

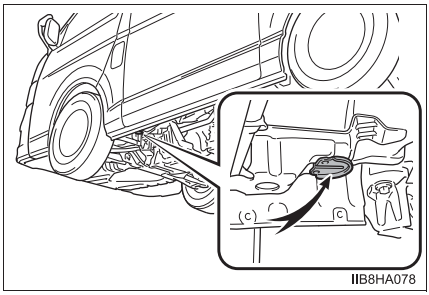


④ ジャッキハンドル延長用バーをジャッキハンドルの穴部に確実に挿し込む



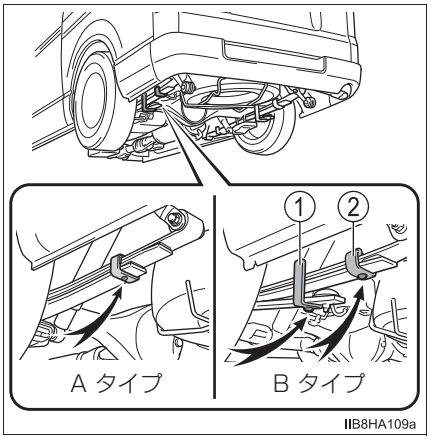
5 組み付けたジャッキハンドルをジャッキの穴部に挿し込み、ジャッキセット位置にジャッキをかける

▶ フロント側ジャッキセット位置

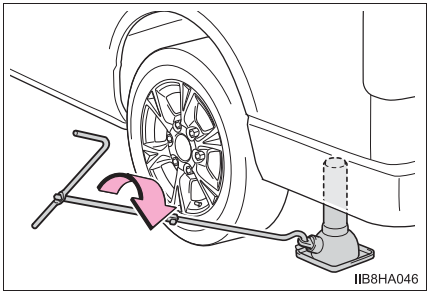


▶ リヤ側ジャッキセット位置（→ P. 384）

B タイプ：路面状況などにより、①の位置にジャッキをセットできないときは、②の位置でジャッキアップしてください。

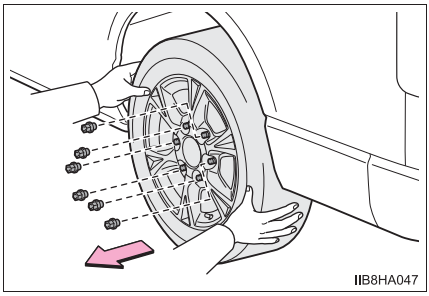


6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



⚠ 警告

■タイヤ交換について

●次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

・スペアタイヤは、ジャッキアップする前に格納具から取りはずしておく
・スペアタイヤ格納具を操作するときは、可動部分やスペアタイヤのあいだに手や足などを挟まないように注意する
・スペアタイヤ格納具を降ろす、または持ち上げるときは、足の上などに落とさないよう、手でしっかり支える
・スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す
・ホイールキャップ・センターオーナメントは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
・走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後はすぐに 100 N・m （1020 kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・約 1,000km 走行したあとに、再度ナットを締め付けてゆるみがないことを確認する
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける
（→ P. 312）

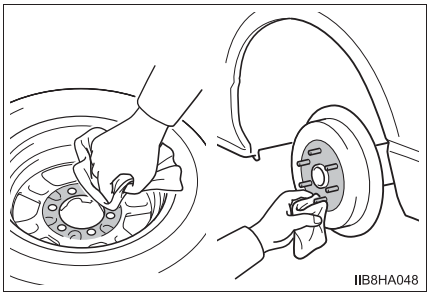
■パワースライドドア装着車のタイヤ交換について

タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチ（→ P. 87）を OFF にしてください。OFF にしないと、誤ってパワースライドドアスイッチを操作したときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

タイヤの取り付け

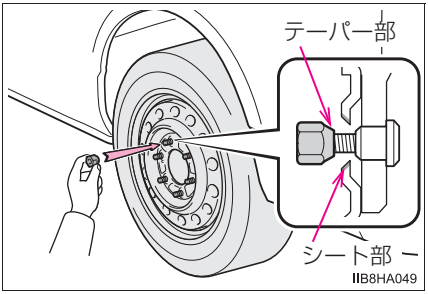
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



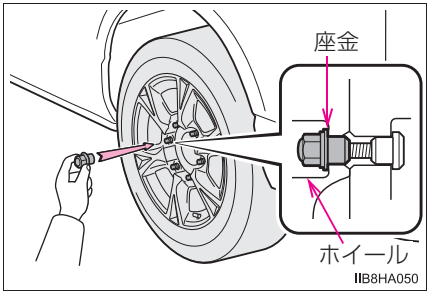
2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

▶ スチールホイール装着車



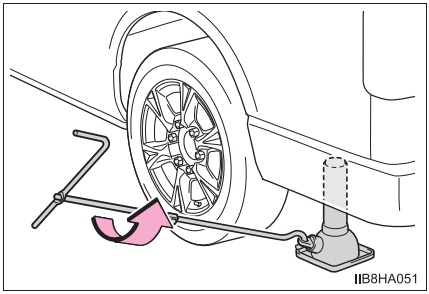
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

▶ アルミホイール装着車



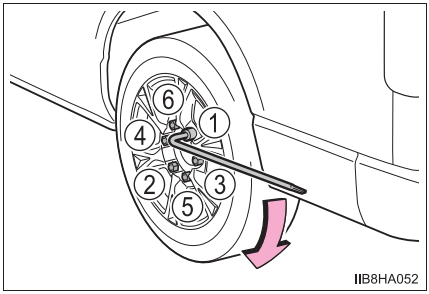
ナットの座金がホイールにあたるまでまわす

3 車体を下げる



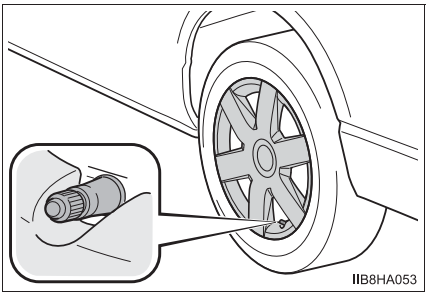
4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
100 N・m （1020 kgf・cm）



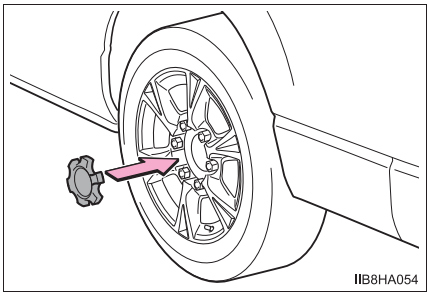
5 センターオーナメント、またはホイールキャップを取り付ける

▶ スチールホイール装着車



タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

▶ アルミホイール装着車



はずしたタイヤからセンターオーナメントを取りはずして、交換したタイヤに取り付けます。

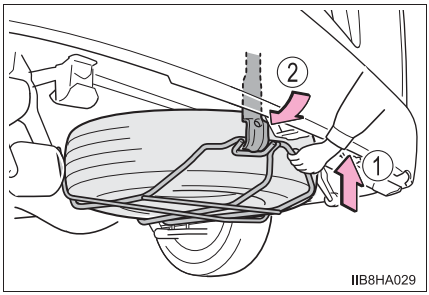
6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを格納する

スペアタイヤの格納

1 スペアタイヤ格納具にタイヤを載せて持ち上げ（①）、フックをかけてボルトを締め付ける（②）

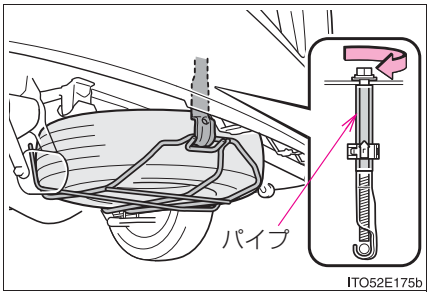
フックを格納具にかけるときは、はずした場所と同じ位置にかけてください。

格納具にタイヤが確実に固定されていることを確認します。



2 パイプががたつかなくなるまでボルトを締め付けたあと、さらに1/4 回転以上締め付ける

締め付けトルク：
18.0 N・m （184 kgf・cm）以上

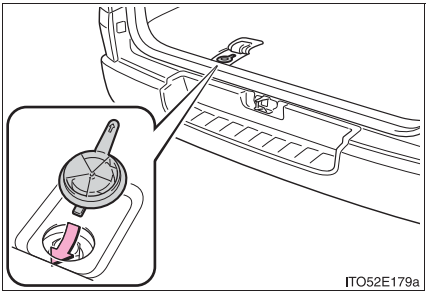


3 キャップを取り付ける

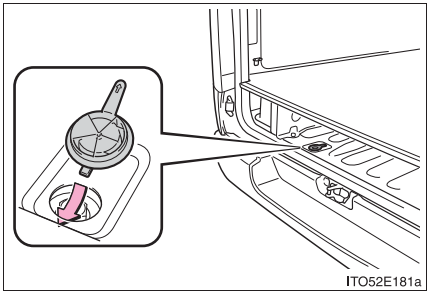
キャップのツメをフロア下に挿し込んで、ボルトの頭にキャップ下部を合わせて、キャップ上部をフロアにはめてください。

キャップ上部が確実にはまっていることを確認してください。

▶ ジャストローを除く



▶ ジャストロー



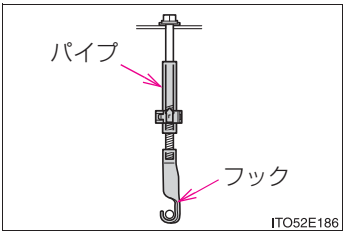
知識

■スペアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。(→ P. 409)

■スペアタイヤ格納具のフックについて

スペアタイヤ格納具を降ろす際に、ボルトをゆるめすぎてフックが脱落した場合は、図のようにパイプが入っているのを確認してからフックを取り付けてください。

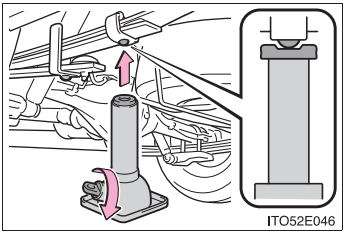


■スペアタイヤレンチについて(ジャストローのみ)

スペアタイヤレンチはスペアタイヤ格納具を取りはずすボルトにのみ使用するものです。(→ P. 374)
ほかの部品には使用しないでください。

■リヤ側ジャッキセット位置について

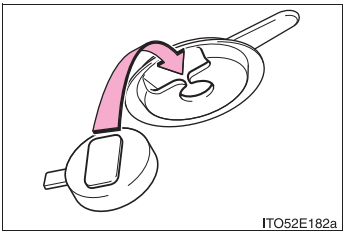
ジャッキ上部の溝を、図のように合わせてください。



■キャップについて

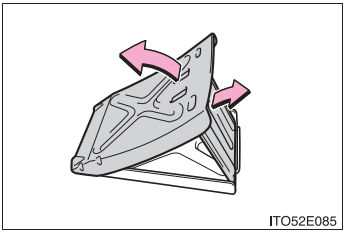
キャップ上部と下部がはずれたときは、図のようにはめ込んでから、フロアに取り付けてください。

キャップ下部のツメの位置が、キャップ上部の取っ手と反対側になるようにはめ込んでください。



■輪止めの使い方

図のように展開して使用します。



⚠ 警告

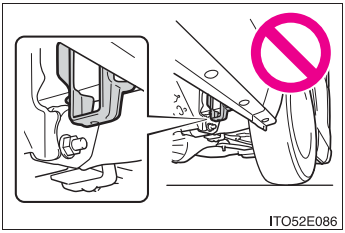
■工具・ジャッキを使用したあとは

走行前に必ず、指定の場所に確実に収納してください。車室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具類が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■車載ジャッキでジャッキアップするときは

図のマウントハンガーにジャッキをかけないでください。マウントハンガーが破損するおそれがあります。



■スペアタイヤを格納するときは

- タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。
- タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 163, 167）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→ P. 163, 167）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステム★に異常がある可能性があります。（→ P. 49）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 390）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 387）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 390）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 エンジンスイッチをアクセサリーモードにする

4 ブレーキペダルをしっかり踏んで、エンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

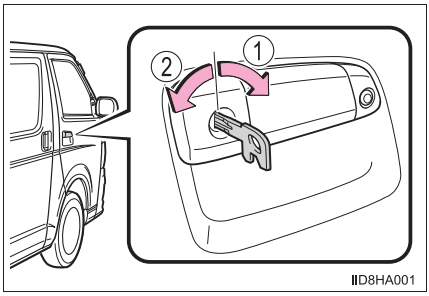
電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 105）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→ P. 73）を使って次の操作ができます。

① 全ドア施錠

② 全ドア解錠



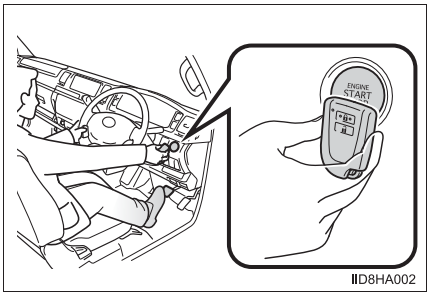
エンジン始動の方法

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルをしっかり踏む

2 電子キーのトヨタエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色に点灯していることを確認する

4 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーをPにしてエンジンスイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 318)

■モードの切りかえ

エンジン始動方法の手順3で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 168)

■電子キーが正常に働かない場合

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。
(→P. 412)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 エンジン点検口を開ける（→ P. 300）

2 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

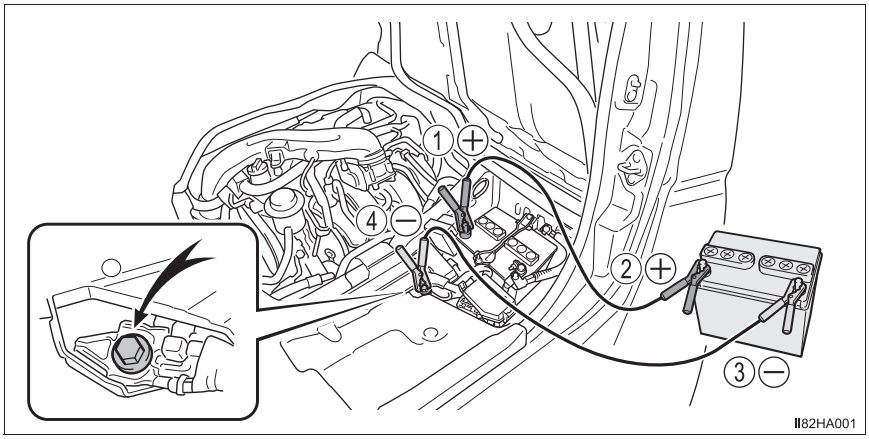
① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

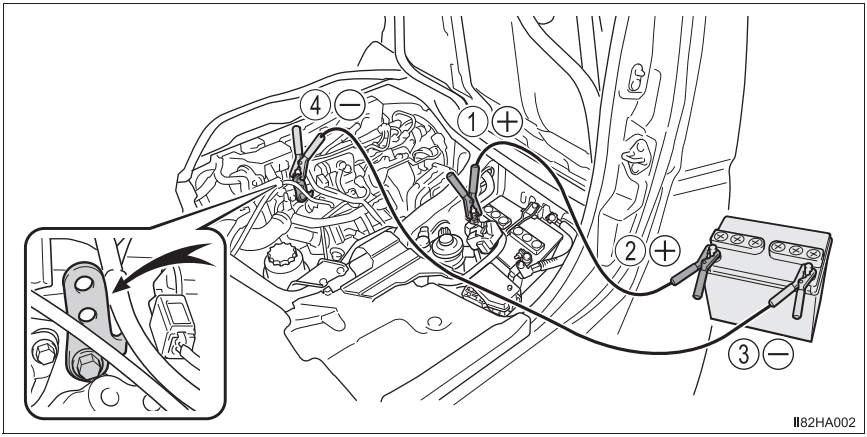
③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

▶ ガソリン車



▶ ディーゼル車



3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

4 スマートエントリー&スタートシステム装着車は、エンジンスイッチが OFF の状態で、いずれかのドアを開閉する

5 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
救援車のエンジン回転を維持したまま、自車のエンジンをかける

スマートエントリー&スタートシステム装着車：
救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてからエンジンを始動する

6 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について（オートマチック車）

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

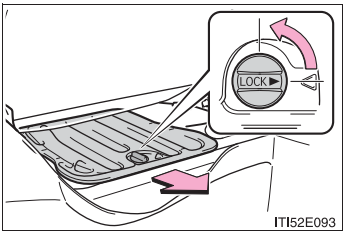
■バッテリーがあがったときは

パワースライドドア★とパワーウインドウの初期設定が必要です。
（→ P. 89, 144）

■バッテリー 2 個搭載車について

エンジンルーム内と運転席うしろに、計 2 個のバッテリーが搭載されています。

●運転席うしろのバッテリーを点検するときは、カバーをめくり、ダイヤルをまわしてフタを取りはずします。



●バッテリーが 2 個ありますが、24V ではありません。

●ブースターケーブルを接続する場合は、必ずエンジンルーム内のバッテリーで行ってください。

●バッテリーの交換は必ず 2 個同時に、同メーカー・同一型式のバッテリーを使用してください。

●長期駐車などで－端子をはずす場合は、必ず両方のバッテリーの－端子をはずしてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。
（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■バッテリーあがり時や取りはずし時など
（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

●バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

⚠警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする

●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない

●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

●バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近付けない

警告

■車両の損傷を防ぐために（マニュアル車）

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。
触媒コンバーターが過熱し、火災の原因になるおそれがあります。

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、ベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→ P. 55）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットとエンジン点検口を開ける

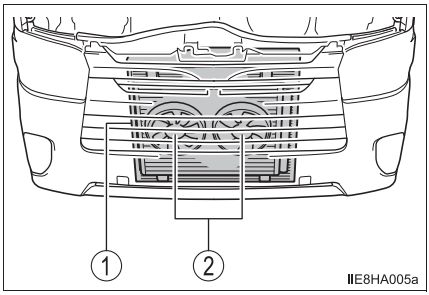
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットとエンジン点検口を開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

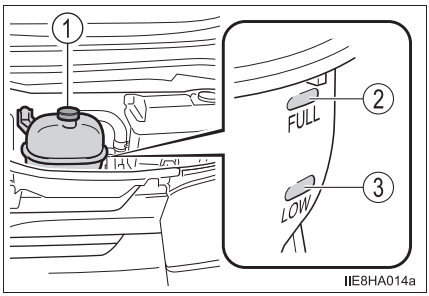


4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

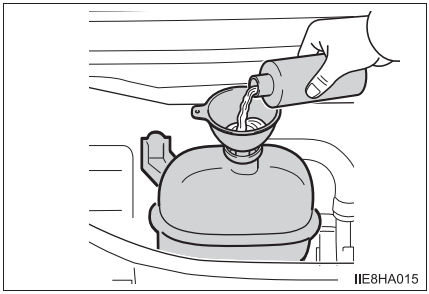
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

知識

■冷却水の補給について

冷却水の量が LOW（下限）以下になった場合は、冷却水の補給後にエア抜きが必要となるため、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■エンジンルームを点検するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- ボンネット周辺から蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットやエンジン点検口を開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ボンネット（→ P. 304）・エンジン点検口（→ P. 300）の注意事項も併せてお読みください。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の方法で脱出してください。

1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は N にして、エンジンを停止する

2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

3 タイヤの下に木や石などをあてがう

4 エンジンを再始動する

5 シフトレバーをオートマチック車は D または R、マニュアル車は 1 速または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

⚠ 警告

■脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

オートマチック車はアクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 9

9-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....400
9-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....412
9-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....414

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

▶ ガソリン車

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	70

※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

▶ ディーゼル車

指定燃料	容量 [L]（参考値）
超低硫黄軽油（S10ppm 以下）	70

エンジンオイル

▶ ガソリン車

指定銘柄	容量 [L]（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタキヤッスルモーターオイル SN 0W-20 ※2 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 10W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	4.9	5.3

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

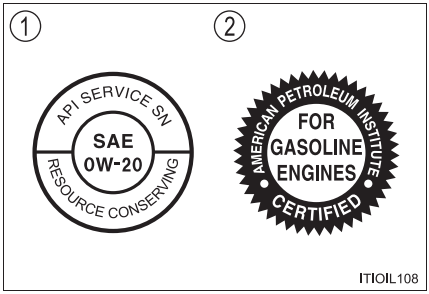
※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

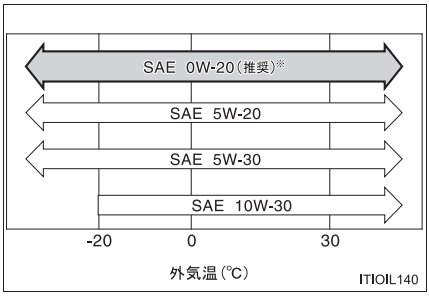
① API マーク

② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ **エンジンオイル推奨粘度**

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

・0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

▶ ディーゼル車

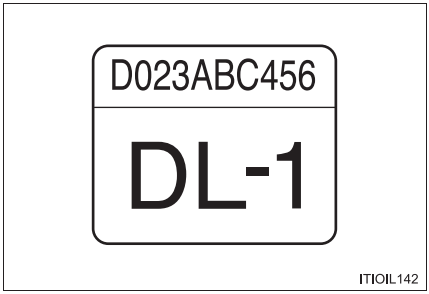
指定銘柄	駆動方式	容量 [L]（参考値※）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタキヤッスルディーゼルオイル DL-1 0W-30 —JASO DL-1, SAE 0W-30	FR	6.6	6.8
トヨタキヤッスルディーゼルオイル DL-1 5W-30 —JASO DL-1, SAE 5W-30	4WD	6.8	7.0

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

JASO 規格 DL-1 に合致したオイルをご使用ください。
なお、JASO規格合格油の缶にはJASO DL- 1マークが付いています。

JASO DL-1 マーク



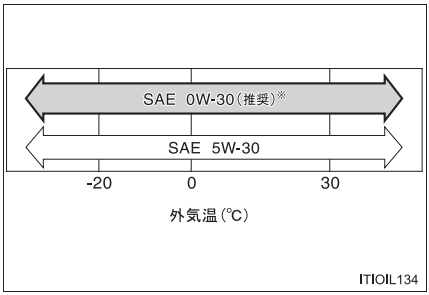
⚠ 注意

■ディーゼル車のエンジンオイルの交換について

- エンジンオイルは必ず指定の規格に相当する品質のものをご使用ください。異なる品質のオイルを使用すると、排出ガス浄化装置の寿命短縮につながります。
- エンジンオイルは必ず約 20,000km ごと（ただし 12ヶ月をこえないこと）、オイルフィルターは必ず約 20,000km ごとに交換してください。
定められた期間でエンジンオイル・オイルフィルターを交換しないと、排出ガス浄化装置やターボ装置などの故障につながるおそれがあります。

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-30 で説明します）：

・0W-30 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-30 の 30 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	リヤヒーターの有無	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12℃ 濃度 50%　－ 35℃	ガソリン	なし	11.2
		あり	13.2
	ディーゼル	なし	14.2
		あり	16.2

オートマチックトランスミッション（オートマチック車）

指定銘柄	トランスミッション		容量 [L]（参考値※）
トヨタ純正オートフルード タイプ T-Ⅳ	4 速オートマチック		8.0
トヨタ純正オートフルード WS	6 速オートマチック	FR	7.9
		4WD	7.8

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

マニュアルトランスミッション（マニュアル車）

指定銘柄（推奨粘度）	エンジン		容量 [L]（参考値）
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ（API GL-3 SAE 75W-90）または同等品	ガソリン		2.2
	ディーゼル	FR	2.6
		4WD	2.2

フロントディファレンシャル（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX （API GL-5 SAE 85W-90）	1.35

リヤディファレンシャル

指定銘柄（推奨粘度）	車種		ボデー	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX （API GL-5 SAE 85W-90）	LSD 非装着車	FR	標準	3.10
			ワイド	3.25
		4WD	標準	3.35
			ワイド	3.55
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル LSD （API GL-5 SAE 85W-90）	LSD 装着車		標準	3.35
			ワイド	3.55

トランスファー（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ （API GL-3 SAE 75W-90）	1.3

パワーステアリング

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正パワーステアリングフルード	0.9

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	120

※ エンジン停止時に 500 N（51 kgf）の踏力をかけたときの床板（フロアパネル上面）とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	ホイールベース	基準値 [回数]
引きしろ 操作力 200 N （20 kgf）のときのノッチ※数	ロング	10 ～ 16
	スーパーロング	12 ～ 18

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

クラッチ（マニュアル車）

■ クラッチフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ クラッチペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	5 ～ 15
プッシュロッドの遊び	1 ～ 5
ペダル切れ残り代※	25 以上

※ クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
3.2

タイヤ

<table>
<tr><th colspan="4" rowspan="2">車種</th><th rowspan="2">タイヤサイズ</th><th colspan="3">タイヤが冷えているときの
空気圧　kPa（kg/cm²）</th></tr>
<tr><th>積載量※</th><th>前輪</th><th>後輪</th></tr>
<tr><td rowspan="15">ロングバン</td><td rowspan="13">FR</td><td colspan="2" rowspan="2">ジャストロー</td><td rowspan="2">185/75R15
106/104L LT</td><td>軽積時</td><td>450
(4.50)</td><td>450
(4.50)</td></tr>
<tr><td>定積時</td><td>475
(4.75)</td><td>525
(5.25)</td></tr>
<tr><td rowspan="10">ジャストローを除く</td><td>スーパー GL</td><td rowspan="12">195/80R15
107/105L LT</td><td>軽積時</td><td>325
(3.25)</td><td>300
(3.00)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">デラックス
（3 人乗り）</td><td>定積時</td><td>325
(3.25)</td><td>350
(3.50)</td></tr>
<tr><td>軽積時</td><td>325
(3.25)</td><td>400
(4.00)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">デラックス
（3 ／ 6 人乗り・
3 ／ 6 ／ 9 人乗り）</td><td>定積時</td><td>350
(3.50)</td><td>425
(4.25)</td></tr>
<tr><td>軽積時</td><td>325
(3.25)</td><td>425
(4.25)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4WD</td><td>定積時</td><td>350
(3.50)</td><td>425
(4.25)</td></tr>
<tr><td>軽積時</td><td>350
(3.50)</td><td>350
(3.50)</td></tr>
<tr><td>定積時</td><td>375
(3.75)</td><td>425
(4.25)</td></tr>
<tr><td rowspan="4">スーパーロングバン</td><td colspan="2" rowspan="2">FR</td><td>軽積時</td><td>350
(3.50)</td><td>350
(3.50)</td></tr>
<tr><td>定積時</td><td>350
(3.50)</td><td>400
(4.00)</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">4WD</td><td>軽積時</td><td>350
(3.50)</td><td>325
(3.25)</td></tr>
<tr><td>定積時</td><td>400
(4.00)</td><td>375
(3.75)</td></tr>
</table>

※ 軽積時は積載量 500kg 未満、定積時は積載量 500kg 以上

ホイール

ホイールサイズ
15 × 6J

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ ・ ハロゲンヘッドランプ装着車 （バルブタイプ：H4） ・ LED ヘッドランプ装着車 ハイビーム（バルブタイプ：HB3）	60 ／ 55 60
	車幅灯	5
	フロントフォグランプ★ （バルブタイプ：PSX26W）	26
	フロント&サイド方向指示灯／非常点滅灯	21
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	制動灯／尾灯	21 ／ 5
	後退灯	16
	番号灯	5
	リヤフォグランプ★	21
車内	フロントルームランプ★／パーソナルランプ★	8
	リヤルームランプ★	8
	スライドドアステップランプ★	5
	灰皿照明	1.2

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
TRH200V	1TR-FE （2.0L ガソリン）	FR（後輪駆動）
TRH200K		
TRH211K	2TR-FE （2.7L ガソリン）	
TRH221K		
TRH216K		4WD（4 輪駆動）
TRH226K		
KDH201V	1KD-FTV （3.0L ディーゼル）	FR（後輪駆動）
KDH201K		
KDH211K		
KDH221K		
KDH206V		4WD（4 輪駆動）
KDH206K		

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な装備が付いています。
設定変更は、マルチインフォメーションディスプレイのメーターカスタマイズ機能、またはトヨタ販売店で行うことが可能です。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくは、トヨタ販売店へお問い合わせください。

車両カスタマイズ設定一覧

① メーターカスタマイズ機能による設定

② トヨタ販売店で設定可能

■ ドアロック★（→ P. 76）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
車速感応オートドアロック	する	しない	—	○
シフトレバーをＰ以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	しない	する	—	○
シフトレバーをＰにしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	する	しない	—	○
運転席を開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）	しない	する	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム★（→ P. 76, 95, 103）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
スマートエントリー&スタートシステム	する	しない	—	○
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル５	OFF	—	○
		レベル１～７		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム★（→ P. 184）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ライトセンサーの感度	標準	レベル － 2 ～＋ 2	―	○

■ マルチインフォメーションディスプレイ（→ P. 61, 65）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
エコドライブインジケーターランプの作動★	ON	OFF	○	○
言語★	日本語	英語	○	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワースライドドア★	バッテリーの充電・交換後の再接続時	P. 89
パワーウインドウ		P. 144

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....416
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....420
アルファベット順さくいん.....422
五十音順さくいん.....424

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- キーまたはメカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーまたはメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 74）
- キーまたは電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 75）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？ （→ P. 318）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車
  エンジンスイッチが ON モードになっていませんか？
  施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。
  （→ P. 168）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車
  電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
  （→ P. 81,105）

スライドドアが開かない（チャイルドプロテクター装着車）

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 87）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

- マニュアル車
  クラッチペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチをまわしていますか？（→ P. 163）
- オートマチック車
  シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 163）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 165）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 390）

エンジンがかからない（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 167）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 173）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 104）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 170）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→ P. 388）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 390）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない（オートマチック車）

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車
  エンジンスイッチの位置が“ ON ”になっていますか？
  エンジンスイッチの位置が“ ON ”でブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 177）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車
  エンジンスイッチは ON モードになっていますか？
  エンジンスイッチが ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 177）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車
  盗難防止のため、キーをエンジンスイッチから抜くとロックされます。（→ P. 164）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車
  盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 170）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 142）

エンジンスイッチが自動的に OFF になった（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- 一定時間アクセサリーモードまたはイグニッションONモード（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 169）

警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 420）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 355、359 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→ P. 367）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 398）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	電子キー★を車内に置き忘れている	P. 363
	エンジンスイッチにキー★が挿してある	P. 165
	シフトポジションが P 以外になっている（スマートエントリー&スタートシステム装着車）	P. 363
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 186
エンジンを停止したとき	電子キー★の電池残量が少なくなっている	P. 364
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない（スマートエントリー&スタートシステム装着車）	P. 104
	電子キー★を車内に置き忘れている	P. 363

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 356
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 357, 359
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 358
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 155

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

4WD
（フォーホイールドライブ）. 411
A/C
（エアコン）. 258, 263
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 210, 355
AI-SHIFT
（アーティフィカルインテリジェンスシフト）. 178
EDR
（イベントデータレコーダー）. 8
FR
（フロントエンジンリヤドライブ）. 411
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 401
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. 31, 355

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）..... 390
アウターミラー（ドアミラー）..... 138
　操作 138
　格納のしかた 139
　ミラーヒーター 259, 265
アクセサリーコンセント 290
アクセサリーソケット 290
アクセサリーモード 164, 168
アッパーグローブボックス 279
アンダーミラー 141
アンチロックブレーキシステム（ABS）..... 210
アンテナ
　スマートエントリー&スタートシステム 103
　ラジオ 235

い

イージークローザー
　スライドドア 84
　バックドア 97
イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）..... 163, 167
　位置の切りかえ 164
　エンジンのかけ方 163, 167
　自動電源 OFF 機能 169
　モードの切りかえ 168
位置交換（タイヤローテーション）..... 310
イベントデータレコーダー（EDR）..... 8
イモビライザーシステム 49
イルミネーテッドエントリーシステム 276
インジケーター（表示灯）..... 54
インナーミラー 136

う

ウインカー（方向指示灯）..... 182
　電球（バルブ）の交換 332, 333
　方向指示レバー 182
　ワット数 410
ウインドウ 142
　ウォッシャー 190, 193
　パワーウインドウ 142
　リヤウインドウデフォッガー 259, 265
ウインドウロックスイッチ 142
ウォーニングランプ（警告灯）..... 53, 355
ウォッシャー 190, 193
　液の補充 309
　スイッチ 190, 193
　タンク容量 408
　冬の前の準備・点検 217
動けなくなったときは（スタック）..... 398
運転 148
　雨の日の運転 150
　運転を補助する装置 210
　環境に配慮した運転 151
　寒冷時の運転 217
　正しい運転姿勢 24
　手順 148
運転席シートベルト非着用警告灯 356

え

エアコン 258, 263
オートエアコン 263
曇り取り（フロントガラス）..... 259, 265
フィルターの清掃 315
マニュアルエアコン 258
リヤクーラー 269
リヤヒーター 271
エアバッグ 31
SRS エアバッグ警告灯 355
お子さまのための注意 32
改造・廃棄 34
作動条件 35
正しい姿勢 24
配置 31
エコドライブインジケーターランプ 63, 69, 151
エンジン
エンジンイモビライザーシステム 49
エンジン回転計（タコメーター）..... 56
エンジンがかからない（エンジンが始動できない）..... 386
エンジン警告灯 355
エンジンスイッチ 163, 167
エンジンの始動方法 163, 167
エンジンを停止する前に（ディーゼル車）..... 151
オーバーヒート 395
緊急時の停止方法 344
クラッチスタートシステム 165
点検口 300
フューエルポンプシャットオフシステム 354
ボンネット 304
エンジンイモビライザーシステム（盗難防止システム）..... 49
エンジンオイル 401
冬の前の準備・点検 217
メンテナンスデータ 401
容量 401
エンジンスイッチ 163, 167
位置の切りかえ 164, 168
エンジンのかけ方 163, 167
自動電源 OFF 機能 169
モードの切りかえ 168
エンジンフード（ボンネット）.... 304
開け方 304

お

オイル（エンジンオイル）..... 401
オーディオ 222
iPod 244
アンテナ 233, 235
AUX 端子／USB 端子 226
MP3 ／ WMA ディスク 236
オーディオの種類 222
音質調整 228
外部入力端子 256
CD プレーヤー 236
ステアリングスイッチ 224
USB メモリー 250
ラジオ 231
オートエアコン 263

オートドアロック・
アンロック機能 79
オートマチックトランス
ミッション 173
シフトレバーがシフト
できない 177
スノーモード 176
オートレベリングシステム
（ヘッドランプ）
警告灯 356
作動について 186
オーバーヒート 395
オープナー
給油扉 197
ボンネット 304
オープントレイ 284
応急用タイヤ 367
空気圧 409
交換方法 367
お子さまを乗せるとき 37
ウインドウロックスイッチ 142
エアバッグ 32
エンジンカバー 302
お子さまの安全のために 37
キーの電池 320
子供専用シート 38
シートの取り扱いに関する
警告 113
シートベルトの着用 28
スライド式
リヤサイドガラスに
関する警告 145
スライドドアに関する警告 89
チャイルドシートの
取り付け 44
チャイルドプロテクター 87
発炎筒の取り扱いに関する
警告 343
バックドアに関する警告 99
バッテリーに関する警告 393
パワーウインドウに関する
警告 144
オドメーター
機能 56
表示の切りかえ・
リセットボタン 57, 61

か

カードホルダー 283, 288
カーペット
洗浄 298
フロアマットの取り付け方 22
外気温度表示 61, 65
外装の電球（バルブ）
交換要領 324
ワット数 410
カスタマイズ機能 412
ガソリンスタンドでの情報 440
型式 411
カップホルダー 282
カメラ
バックモニター 199
ガラスの曇り取り
（リヤウインドウ
デフォッガー） 259, 265
ガレージジャッキ 307
冠水路走行 160
寒冷時の運転 217

き

キー **72**
エンジンがかからない
ときは 386
キーナンバープレート 72
キーの構成 72
キーレスエントリー 73
キーをなくした 74
電池が切れた 318, 388
ワイヤレスリモコン 73
キーレスエントリー
スマートエントリー&
スタートシステム 103
ワイヤレスドアロック 73
きしみやひっかき音が聞こえる（ブレーキパッドウェアインジケーター） **155**
給油 **195**
給油のしかた 195
メンテナンスデータ 400
緊急時シートベルト固定機構 **28**
緊急時の対処
エンジンが始動できない 386
オーバーヒートした 395
キーの電池が切れた 318, 388
キーをなくした 74
警告灯がついた 355
警告メッセージが
表示された 359
けん引 346
故障したときは 340
車両を緊急停止する 344
スタックした 398
発炎筒 342
バッテリーがあがった 390
パンクした 367

く

空気圧（タイヤ） **409**
クーラー
オートエアコン 263
マニュアルエアコン 258
リヤクーラー 269
区間距離計（トリップメーター） **56**
機能 56
切りかえ・
リセットボタン 57, 61
曇り取り
フロントガラス **259, 265**
リヤウインドウ
デフォッガー 259, 265
クラクション（ホーン） **134**
クリアランスランプ（車幅灯） **184**
スイッチ 184
電球（バルブ）の交換 331
ワット数 410
クリップ
フロアマット 22
グローブボックス **279**

け

警音器（ホーン）.....134
計器類（メーター）.....55
　警告灯／表示灯.....52
　マルチインフォメーション
　　ディスプレイ.....61, 65
　メーター.....55
警告灯.....53, 355
　ABS.....355
　SRS エアバッグ.....355
　LED ヘッドランプ.....356
　エンジン.....355
　シートベルト非着用.....356
　充電.....355
　スマートエントリー&
　　スタートシステム.....357
　タイミングベルト交換.....356
　燃料残量.....356
　排出ガス浄化装置.....357
　半ドア.....356
　フューエルフィルター.....357
　プリテンショナー.....355
　ブレーキ.....355
　ブレーキオーバーライド
　　システム.....356
　ヘッドランプレベリング.....356
　マスターウォーニング.....356
　油圧.....357
　油量.....356
警告ブザー
　シートベルト非着用.....356
　スマートエントリー&
　　スタートシステム.....357
　パーキングブレーキ
　　未解除走行時.....357, 359
　半ドア.....356
　ブレーキ.....355
　油圧.....357
　リバース.....177
化粧ミラー
（バニティミラー）.....288
けん引.....346
　けん引のしかた.....346
　フック.....348, 370

こ

交換
　キーの電池.....318
　タイヤ.....367
　電球（バルブ）.....324
　ヒューズ.....321
工具（ツール）.....370
航続可能距離.....62, 66
後退灯（バックアップランプ）
　電球（バルブ）の交換.....333
　ワット数.....410
子供専用シート.....38
　選択方法.....38
　取り付け方.....44
コンセント.....290
コンソールボックス.....279
コンライト
（自動点灯・消灯装置）.....184

さ

サイド方向指示灯 182
電球（バルブ）の交換 332
方向指示レバー 182
ワット数 410
サイドミラー（ドアミラー） 138
操作 138
サンバイザー 288

し

シート 109
子供専用シート 38
正しい運転姿勢 24
調整 109
手入れ 297
ヘッドレスト 114
シートアレンジ 116
シートベルト 26
お子さまの着用 28
緊急時シートベルト固定機構 28
サービスアーム 27
シートベルト非着用警告灯 356
正しく着用するには 26
着け方・はずし方 27
手入れ 298
長さ調節 27
妊娠中の方の着用 29
シートベルト非着用警告灯 356
シートベルトプリテンショナー 28
機能 28
プリテンショナー警告灯 355
室内灯（ルームランプ） 274
始動のしかた 163, 167
シフトポジション 175
シフトレバー 173, 180
シフトロックシステム（解除ボタン） 177
操作 173, 180
リバース警告ブザー 177
シフトレバーがシフトできないときは 177
シフトロックシステム 177
締め付けトルク（ホイール） 382
ジャッキ
ガレージジャッキ 307
車載ジャッキ 368
ジャッキハンドル 370
車幅灯 184
電球（バルブ）の交換 331
ランプスイッチ 184
ワット数 410
車両型式 411
車両仕様（スペック） 400
車両データの記録 7
車両を緊急停止するには 344
手動光軸調整ダイヤル 185
ジュニアシート 39
瞬間燃費 62, 66
仕様（車両仕様） 411
衝撃感知ドアロック解除システム 81
助手席シートベルト非着用警告灯 356

す

水温計 55
スイッチ
イグニッション 163, 167
ウインドウロック 142
ウォッシャー 190, 193
エンジンスイッチ 163, 167
オーディオ 224
スノーモード 176
ドアミラー 138
ドアロック 78
排出ガス浄化 213
ハザードランプ 341
パワーウインドウ 142
パワースライドドア 85
パワースライドドアメイン 87
パワーヒーター 272
非常点滅灯
（ハザードランプ） 341
フォグランプ 187
方向指示レバー 182
ホーン（警音器） 134
メーター表示
切りかえ 57, 66
ランプ 184
リヤウインドウ
デフォッガー 259, 265
リヤクーラー 269
リヤヒーター 271
ルームランプ 274
ワイパー 190, 193
スターター
エンジンの始動 163, 167
スターターがまわらない 386
スタック 398
ステアリングホイール（ハンドル）
位置調整 134
ステアリングロック
解除できないとき 165, 170
ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換 333
ワット数 410
スノータイヤ（冬用タイヤ） 217
スピードメーター 55
スペアタイヤ 367
スペック（車両仕様） 400
スマートエントリー&
スタートシステム 103
アンテナの位置 103
エンジンの始動 167
カスタマイズ設定 412
緊急始動機能 387
警告ブザー 104
作動範囲 104
正常に働かないとき 388
電波がおよぼす影響に
ついて 108
ドアの解錠・施錠 76, 95
スモールランプ（車幅灯） 184
電球（バルブ）の交換 331
ランプスイッチ 184
ワット数 410
スライド式リヤサイドガラス 145
スライドドア
イージークローザー 84
操作 83
パワースライドドア 85
半ドア警告灯 356
スライドドアステップランプ
スイッチ 84
ワット数 410

せ

清掃 294, 297
アルミホイール 295
外装 294
シートベルト 298
内装 297
制動灯
電球（バルブ）の交換 333
ワット数 410
積算距離計（オドメーター）
機能 56
表示の切りかえ・リセットボタン 57, 61
セキュリティインジケーター 49
セパレーターバー 125
センサー
ライトセンサー 186
センターコンソール 279
センターコンソールボックス 279
洗車 294
前照灯（ヘッドランプ） 184
手動光軸調整ダイヤル 185
電球（バルブ）の交換 326, 329, 334
ライトセンサー 186
ランプ消し忘れ防止機能 186
ランプスイッチ 184

そ

速度計（スピードメーター） 55

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯） 182
電球（バルブ）の交換 332, 333
方向指示レバー 182
ワット数 410
タイヤ 310
空気圧 313, 409
交換 367
締め付けトルク 382
チェーン 217
点検 310
パンクしたときは 367
冬用タイヤ 217
ホイールサイズ 410
ローテーション（位置交換） 310
タイヤが空まわりする（スタックした） 398
タイヤチェーン 217
タコメーター（エンジン回転計） 56

ち

チェーン（タイヤチェーン） 217
チャイルドシート 38
シートベルトでの固定 44
選択方法 38
チャイルドプロテクター 87
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ） 183
操作 183
未解除走行時警告ブザー 357, 359
メンテナンスデータ 407

つ

ツール（工具）..... 370

て

ディファレンシャル..... 406
手入れ..... 294, 297
アルミホイール..... 295
外装..... 294
シートベルト..... 298
テールランプ（尾灯）..... 184
電球（バルブ）の交換..... 333
ランプスイッチ..... 184
ワット数..... 410
デッキフック（荷物固定用フック）..... 286
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）..... 259, 265
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）..... 324
ワット数..... 410
点検基準値（メンテナンスデータ）..... 400
電子キー..... 72
作動範囲..... 104
正常に働かないとき..... 388
電池が切れた..... 388
電池交換..... 318
電池交換（キー）..... 318

と

ドア..... 76
オートドアロック・アンロック機能..... 79
衝撃感知ドアロック解除システム..... 81
スマートエントリー&スタートシステム..... 103
スライドドア..... 82
チャイルドプロテクター..... 87
ドアガラス..... 142
ドアロックスイッチ..... 78
バックドア..... 95
半ドア警告灯..... 356
フロントドア..... 76
ロックレバー..... 78, 83, 96
ワイヤレスリモコン..... 73
ドアポケット..... 284
ドアミラー
格納のしかた..... 139
操作..... 138
ミラーヒーター..... 259, 265
盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム..... 49
時計
時刻を設定する..... 58
表示..... 56
トランスミッション
オートマチックトランスミッション..... 173
マニュアルトランスミッション..... 180
スノーモード..... 176
メンテナンスデータ..... 405
トリップメーター
機能..... 56
切りかえ・リセットボタン..... 57, 61

な

内装
収納装備 277
手入れ 297
床下収納 287

に

荷物
積むときの注意 161
荷物固定用フック 286

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック） 398

ね

燃料 400
ガソリンスタンドでの情報 440
給油 195
種類 400
燃料残量警告灯 356
フューエルポンプシャットオフシステム 354
容量 400
燃料計 56

は

パーキングブレーキ 183
操作 183
冬季の注意 218
ブレーキ警告灯 355
未解除走行時警告ブザー 357, 359
メンテナンスデータ 407
パーソナルランプ 275
排気ガス 48
灰皿 289
灰皿照明
装備について 289
ワット数 410
排出ガス浄化装置 212
排出ガス浄化装置堆積モニター 213
ハイビーム（ヘッドランプ） 184
電球（バルブ）の交換 326, 329
ランプスイッチ 184
ワット数 410
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換 334
ハザードランプ（非常点滅灯） 341
スイッチ 341
電球（バルブ）の交換 332, 333
ワット数 410
挟み込み防止機能
パワーウインドウ 143
パワースライドドア 89
発炎筒 342
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換 333
ワット数 410
バックドア 95
イージークローザー 97
バックドアストラップ 97
バックドアハンドル 96
半ドア警告灯 356
バックモニター 199
バッテリー
搭載位置 300
バッテリーがあがった 390
バニティ（化粧用）ミラー 288

バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）..... 324
ワット数..... 410
パワーウインドウ..... 142
ウインドウロックスイッチ.... 142
初期化..... 144
操作 142
挟み込み防止機能 143
パワーステアリング
パワーステアリング
フルード..... 406
パワースライドドア
開け方..... 85
メインスイッチ 87
パンクした 367
番号灯（ライセンスプレート
ランプ）..... 184
電球（バルブ）の交換..... 334
ランプスイッチ 184
ワット数..... 410
ハンドル
（ステアリングホイール）..... 134
位置調整..... 134

ひ

ヒーター
オートエアコン 263
パワーヒーター 272
マニュアルエアコン 258
ミラーヒーター 259, 265
リヤヒーター..... 271
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 341
スイッチ..... 341
電球（バルブ）の
交換..... 332, 333
ワット数..... 410
尾灯（テールランプ）..... 184
電球（バルブ）の交換..... 333
ランプスイッチ..... 184
ワット数 410
ヒューズ..... 321
表示灯..... 54

ふ

ブースターケーブルの
つなぎ方..... 390
フォグランプ..... 187
スイッチ 187
電球（バルブ）の
交換 330, 333
ワット数 410
ブザー
シートベルト非着用警告 356
パーキングブレーキ
未解除走行時警告..... 357, 359
排出ガス浄化装置..... 357
半ドア警告 356
ブレーキ警告 355
リバース警告 177
フック
荷物固定用フック..... 286
フロアマット固定フック 22
フューエルポンプシャットオフ
システム..... 354
フューエルメーター（燃料計）..... 56
フューエルリッド（給油口）..... 195
給油のしかた 195
冬の前の準備（寒冷時の運転）.... 217
冬用タイヤ..... 217
フラットシート..... 116

ブレーキ
パーキングブレーキ 183
ブレーキ警告灯 355
メンテナンスデータ 407
ブレーキアシスト 210
ブレーキ付近から
キーキー音が聞こえる 155
ブレーキフルード 407
フロアマット 22
フロントアンダーミラー 141
フロントルームランプ 275
フロントシート 109
正しい運転姿勢 24
調整 109
手入れ 297
ヘッドレスト 114
フロントフォグランプ 187
スイッチ 187
電球（バルブ）の交換 330
ワット数 410
フロント方向指示灯 182
電球（バルブ）の交換 332
方向指示レバー 182
ワット数 410

へ

平均燃費 62, 66
ヘッドランプ 184
手動光軸調整ダイヤル 185
電球（バルブ）の
交換 326, 329, 334
ライトセンサー 186
ランプ消し忘れ防止機能 186
ランプスイッチ 184
ヘッドランプオートレベリング
システム 186
ヘッドレスト 114

ほ

ホイール
交換（タイヤ） 367
メンテナンスデータ 410
ホイールナットレンチ 370
方向指示灯 182
電球（バルブ）の
交換 332, 333
方向指示レバー 182
ワット数 410
ホーン（警音器） 134
保証 9
補助ミラー 141
ボトルホルダー 282
ボンネット 304

ま

マニュアルエアコン 258
マニュアルトランス
ミッション 180
マルチインフォメーション
ディスプレイ 61, 65
警告メッセージ 359
トリップ
インフォメーション 62, 66

み

ミラー
アウターミラー 138
インナーミラー 136
ドアミラー 138
バニティミラー 288
補助ミラー 141
ミラーヒーター 259, 265

め

メーター（計器類） 55
警告灯 53, 355
照度調整 62, 66
表示切りかえ
ボタン 57, 61, 66
表示灯 54
マルチインフォメーション
ディスプレイ 61, 65
メーター 55
メーター照度調整スイッチ 62, 66
メカニカルキー 73
メンテナンスデータ 400

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 412
床下収納 287
雪道ですべって動けない
（スタックした） 398
油脂類 400

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
電球（バルブ）の交換 334
ランプスイッチ 184
ワット数 410
ラジエーター
オーバーヒート 395
メンテナンスデータ 405
ランプ
室内灯 274
スライドドアステップ
ランプ 84
電球（バルブ）の交換 324
パーソナルランプ 275
非常点滅灯
（ハザードランプ） 341
フロントフォグランプ 187
ヘッドランプ（前照灯） 184
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー） 182
ライトセンサー 186
ランプ消し忘れ防止機能 186
リヤフォグランプ 187
ルームランプ 275
ワット数 410
ランプ消し忘れ防止機能 186

り

リヤアンダーミラー 141
リヤウインドウ
デフォッガー
スイッチ 259, 265
リヤクーラー 269
リヤシート
シートアレンジ 116
リヤシート 112
リヤヒーター 271
リヤフォグランプ 187
スイッチ 187
電球（バルブ）の交換 333
ワット数 410
リヤ方向指示灯 182
電球（バルブ）の交換 333
方向指示レバー 182
ワット数 410

る

ルームミラー
（インナーミラー） 136
ルームランプ 275

れ

冷却水 405
水温計 55
冬の前の準備 217
メンテナンスデータ 405
冷却装置（ラジエーター） 405
オーバーヒート 395
メンテナンスデータ 405
レバー
シフト 173, 180
方向指示 182
ボンネット解除 304
ロック（ドア） 78

ろ

ロアグローブボックス 279
ロック
ウインドウロック 142
シフトロック 177
スマートエントリー&
スタートシステム 103
スライドドア 82
チャイルドプロテクター 87
バックドア 95
フロントドア 76
ワイヤレスリモコン 73

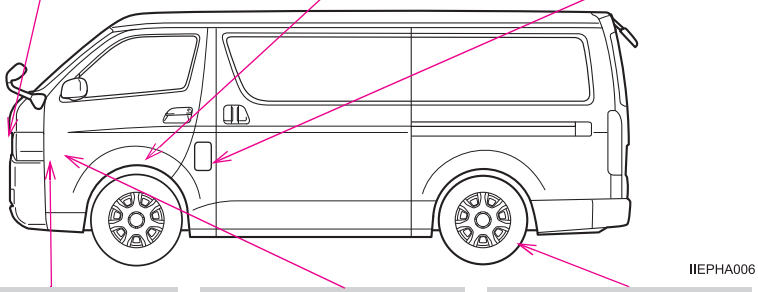
わ

ワイパー & ウォッシャー
ウォッシャー液の補充 309
フロント 190
リヤ 193
ワイヤレスリモコン 73
作動の合図 77
操作 73
電池の交換 318
半ドア警告ブザー 77
ワックス 294
ワット数 410
輪止め 370

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック	エンジン点検口	給油口
P. 304	P. 300	P. 197



ボンネット解除レバー	給油扉オープナー	タイヤ空気圧
P. 304	P. 197	P. 409

燃料の容量（参考値）	70L
燃料の種類	▶ ガソリン車 ・ 無鉛レギュラーガソリン　P. 195, 400 ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。 ▶ ディーゼル車 超低硫黄軽油（S10ppm 以下）　P. 195, 400
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 409
エンジンオイル容量（参考値）	▶ オイルのみ交換時 ・ガソリン車：4.9L　・ディーゼル車（FR 車）：6.6L ・ディーゼル車（4WD 車）：6.8L ▶ オイルとフィルター交換時 ・ガソリン車：5.3L　・ディーゼル車（FR 車）：6.8L ・ディーゼル車（4WD 車）：7.0L
エンジンオイルの種類	▶ ガソリン車 トヨタキヤッスルモーターオイル ・ SN 0W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20） ・ SN 5W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20） ・ SN 5W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30） ・ SN 10W-30(API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30) ▶ ディーゼル車 トヨタキヤッスルディーゼルオイル ・ DL-1 0W-30（JASO DL-1, SAE 0W-30） ・ DL-1 5W-30（JASO DL-1, SAE 5W-30）

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jp にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
http://toyota.jp/recall/index.html にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

ハ-98

TOYOTA

M 26816
01999－26816
NAI-2016年 5 月25日
2016年 6 月 1 日 初版
レジアスエース